# 岡山県学校図書館研究集録

第　５８　号

令和３年
――２０２１――

岡山県小学校教育研究会情報教育部会学校図書館部
岡山県中学校教育研究会学校図書館部会
岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会
岡山県学校図書館協議会

# 発刊によせて

岡山県学校図書館協議会
会　長　鳥　越　信　行

各学校におかれましては、図書館の魅力増進や児童・生徒の読書指導の推進等に御尽力いただくとともに、本協議会の取組への御支援・御協力を賜り心より感謝申し上げます。新型コロナウィルス感染症の流行も、既に２年に及ぼうとしています。今年度も厳しい状況ではありましたが、本部会の皆様の積極的な研究実践と御協力に支えられ、安全に配慮しながら可能な範囲で事業を展開してまいりました。

そして、このたびその活動記録として、「岡山県学校図書館研究集録第５８号」を発刊する運びとなりました。平成２６年度までは、印刷製本してまとめていましたが、経費節減のため平成２７年度からはホームページに掲載し、公開させていただいております。

さて、「生涯学習社会」という言葉を耳にします。イギリスの組織論学者リンダ・グラットンは、長すぎる老後に備え、これまでの80歳程度のライフコースを見直す必要性を説き、話題となりました。コロナ禍に伴う甚大な影響は、私たちの生命や生活のみならず、社会、経済、私たちの行動・意識・価値観にまで多方面に波及しています。また、これからの時代、さらにＩＴ化が進み、テクノロジーの進化が著しい時代になれば、社会の流行は目まぐるしく移り変わり、長い人生の中で、人々の価値観や特性も大きく変わります。生涯学び続け、新しい知識を取り込み、新しい価値を創造することが必要となっています。そして、学び続けるうえで鍵となるのが「書物で学ぶ知識」。新しい知や価値を創造するためには、先人の知識を前もって学んでおくことは不可欠です。書を読み、経験を積み、知識や智恵を蓄えるという営みをとおしてはじめて、探究、イノベーションを実現することができます。生涯学習社会での学校図書館の果たすべき役割は大きいといえるでしょう。

児童・生徒が発達段階に応じた形で読書活動や図書館を活用した学習に主体的に関わったり参加したりできるよう、学校図書館に携わるもの同士がさまざまな面で協働・連携し、その環境を整えていくことが大切です。今後も学校図書館の充実に、御理解・御協力をいただけますと幸いです。

最後になりましたが、この研究集録を発刊するにあたり、多大な御尽力・御協力をいただきました関係者に厚く感謝申し上げ、巻頭のあいさつといたします。

# 目　　次

発刊によせて

第５４回岡山県学校図書館研究大会真庭大会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-1～

第６７回青少年読書感想文岡山県コンクール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-1～13

第３３回読書感想画岡山県コンクール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-1～4

絵本研究部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4-1～5

優良図書研究部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5-1～9

指定図書選定委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6-1

司書部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6-3

その他

1　令和３年度　岡山県学校図書館協議会　事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-1

2　令和３年度　岡山県学校図書館協議会　支部協議会事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-2-1～14

3　岡山県学校図書館協議会組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-3

4　岡山県学校図書館協議会規約・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-4-1～2

5　岡山県学校図書館協議会司書部会会則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-5

6　岡山県学校図書館協議会７１年の歩み（略年表）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-6-1～6

# 第54回

# 岡山県学校図書館研究大会

# 真庭大会

大会テーマ

**豊かな心と主体的に学ぶ力を育む学校図書館**

令和３年８月20日（金）

勝山文化センター

真庭市立中央図書館

岡山県学校図書館協議会

# 目　次

あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

開催要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

講　　演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

分科会一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

分科会発表・指導助言

【分科会Ａ】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

【分科会Ｂ】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７

【分科会Ｃ】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７

【分科会Ｄ】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９

大会役員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５

# ごあいさつ

岡山県学校図書館協議会
会 長　　鳥 越　信 行

皆様方におかれましては，平素より学校図書館の魅力増進や児童・生徒の読書活動の推進等にご尽力いただき大変感謝申し上げます。岡山県学校図書館協議会は，大会テーマ「豊かな心と主体的に学ぶ力を育む学校図書館」のもと，第 54 回岡山県学校図書館研究大会の開催のため準備を進めてまいりました。本研究大会は，８月 20 日（金）に勝山文化センター，真庭市立中央図書館を会場に予定されていましたが，新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から，誌上発表とさせていただくことにしました。

さて，今，私たちが生きている時代は，AI 時代，人生 100 年時代，VUCA 時代，Society5.0 などとさまざまに表現され，超加速度的に変化する時代であるといわれています。さらに，新型コロナウイルス感染症のパンデミックをきっかけに，世界は今，大きく変わろうとしています。パンデミックの発生前と発生後では，さまざまな常識が一変します。ポストコロナの世界は，時代の節目に訪れる転換期であり，今までとは違う基準を持った新しい世界観である「ニューノーマル（新たな日常)」へ移行するともいわれています。

将来は変化の連続で，予測が困難だからこそ，子どもたちは変化の底にある本質をとらえ，変化に対応しうる力を備える必要があります。常に考え，学び続ける。その繰り返しが人を成長させ，自分で考え，課題を解決できる力が身につき，これからの社会を生き抜くことができます。

そうした学びを進めるうえで，核となる存在が学校図書館ではないでしょうか。素敵な学校図書館やそこにあるさまざまな書籍や情報は，子どもたちの豊かな心を育み，主体的な学びを支えてくれます。学校図書館は，激動の社会で子どもたちが未来を拓き，生きる力を身につけていくうえで重要な役割を担っています。

ここで，学校図書館がもつ役割や使命を再確認し，豊かな心を育む学校図書館の在り方，「主体的・対話的で深い学び」を支える学校図書館の在り方などについて，４つの分科会からの研究発表を通して，研修を深めることの意義は誠に大きいものがあります。この研修を通し，小中高の情報共有や相互の連携体制がより進展し，学校図書館が子どもたちの未来を拓く学びのキーステーションとなればと考えています。

最後になりましたが，岡山県教育委員会をはじめ，ご支援とご協力を賜りました多くの皆様に厚く御礼を申し上げましてごあいさつといたします。

## 開催要項

１　期　　日　　令和３年８月２０日（金）

２　会　　場　　勝山文化センター　　真庭市立中央図書館

３　主　　催　　岡山県学校図書館協議会

４　共　　催　　岡山県小学校教育研究会　　岡山県中学校教育研究会

岡山県高等学校教育研究会　津山教育事務所管内図書館協議会

美作地区高等学校図書館協議会　　真庭市教育委員会

５　後　　援　　岡山県教育委員会　　岡山県市町村教育委員会連絡協議会

岡山県読書推進運動協議会　　全国学校図書館協議会

６　大会テーマ　　『豊かな心と主体的に学ぶ力を育む学校図書館』

７　趣　　旨

新学習指導要領にも示されているように，生きて働く「知識・技能」，未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」，学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間力」を３本柱に学校現場で育成すべき力は多岐にわたっている。そのために，学校の「知の拠点」である学校図書館が果たす役割は大きく，司書教諭と学校司書の協働による学校図書館の充実とともに、蔵書や資料の充実も必要である。

子ども達に有益な図書や学校図書館の存在が，幼児・児童・生徒の心を育むこと，これからの時代に求められる主体的な学びを支えることに大きく貢献すること，すなわち子ども達が未来を切り拓き，生きる力を身につけていく上で重要な役割と位置を占めていることは，今までもこれからも変わりはない。

本大会では，こうした学校図書館がもつ役割や使命を再確認し，幼児・児童・生徒の豊かな感性や情操を育む学校図書館の在り方，自ら課題を見つけ，主体的に探究し，学びを深めていく「主体的・対話的で深い学び」を支える学校図書館の在り方等について，４つの分科会で発表される研究発表を通して研修を深め，学校図書館のさらなる充実をめざしていきたい。

８　講　　演

演　題　　『これからの時代に求められる学校図書館の役割』

講　師　　ノートルダム清心女子大学人間生活学部学科長・教授　湯澤　美紀　先生

# 講　演

## 演　題　『これからの時代に求められる学校図書館の役割』

## 講　師　ノートルダム清心女子大学人間生活学部児童学科長・教授　湯澤 美紀 先生

○経歴：広島大学附属幼年教育研究施設助手，日本学術振興会特別研究員（京都大学・英国 Durham 大学）を経て現職。博士（心理学）
○専門：発達心理学・保育学
○資格：臨床発達心理士-sv，特別支援教育士-sv，公認心理師
○読書に関する社会的活動：岡山県子ども読書活動推進会議委員（2014 年―2018 年、2021 年―）・岡山県立図書館協議会委員（2020 年―）・岡山子どもの本の会事務局他

時代の変化とともに学校図書館に求められる役割は大きく変わる。今年は平成 29 年に策定された国の第五次「学校図書館図書整備等５か年計画」の最終年度にあたる。ただし，発表当時，誰一人として，世界全体がコロナ禍に見舞われることなど予想だにしていなかった。そして現在，令和２年５月に非常事態宣言が発出されてから一年を経て，新しい生活様式の中に私たちはいる。GIGA スクール構想も一気に進み，デジタル化の波は学校図書館にも及んでいる。

時代の転換点において，改めて子どもにとっての学校図書館，そして，学校司書（・司書教諭）の役割について考えていきたい。

### １　第五次「学校図書館図書整備等５か年計画」は，何を提案していたか

同計画で提示された役割は，主に，児童生徒の読書活動や児童生徒への読書指導の場である「読書センター」，児童生徒の学習活動を支援したり，授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」，児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり，児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」である。それに伴い地方財政措置は，（１）学校図書館図書整備に 220 億，（２）学校図書館への新聞配備に 30 億，（３）学校司書の配置に 220 億（各単年）が計画された。特に司書教諭及び学校司書の配置充実やその資質能力の向上に対する予算が学校図書館の整備と同額に設定されている点は，本と子どもを繋ぐ校内の専門家の重要性を明確に示している。

### ２　学校図書館に加わった新たなミッション

当然ながら，学校図書館は，「学校の教育課程の展開に寄与するとともに，児童又は生徒の健全な教養を育成すること」[学校図書館法第二条]に資する機能を有する。したがって，学校図書館もまた，教育要領の改定に伴い，子どもの学びを支えるための，主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点からの学び）を支えることとなる。

同時に，文部科学省が発表した GIGA スクール構想は前倒しで実施され，現在，児童生徒が一人一台の PC を学校で保有することとなった。また，インクルーシブ教育の実現に向け，様々な学習上のニーズを抱えた児童生徒に対する合理的配慮として，ユニバーサルデザインを取り入れたデジタル教材の整備も必要となってくる。

つまり，現代の学校図書館は，児童生徒一人ひとりが主体的・対話的で深い学びへと向かううえ

で，デジタル教材を含む多様な資料を活用できる場となることが新たな役割として加わった。

### ３　紙の本とデジタルの本の違いを踏まえた読書支援

ただし，デジタル教材等の資料の整備といった新たな役割について考える際には，紙の本とデジタルの本が子どもの読書行動にどういった違いを生み出すのか，といった点を踏まえておく必要がある。

この点について，読み書き障害（ディスレクシア）の研究者メアリアン・ウルフが科学的見地を踏まえ，次のように概要をまとめている[1)]。

つまり，情報を得るという点で両者は類似しているものの，記憶や注意の維持は，紙の本が優るということである。このことは，改めて本を読むという行為が，五感を用いた体験活動であることを私たちに気づかせる。

例えば，材質に関して言えば，本を手に持った厚みと質感，そして本ごとに異なる重さを感じながら，紙といった素材を手にページをめくる触感，本全体を通した位置の把握など紙の本ならではの体験がそこにはある。人と人とを繋ぐ働きに関して言えば，手軽に人から人へと手渡しやすく，一冊の本を複数の子どもが頭をつきあわせてのぞき込むといった場を自然と創出しやすい。読み聞かせ場面において，人の声に耳を傾ける体験は，音声の読み上げ機能に置き換えることはできない。特に低学年の児童にとって，本を介した人との関わりは，成長に寄与する。本の貸し出しに関して，時間・物理的コストはかかるものの，本棚の前に立ち，関心のある本の隣に並ぶ本から「これぞ」という本を探し出し，新たな知の扉が開く場合もある。したがって，教養を広め，深めるといった中高生にとっても，学校図書館内に身をおき，本棚に並んだ本を眺めるという時間と行為そのものが，個人の教養を広げるきっかけとなる。これまで何人もの手にわたってきたことを思わせる一冊の紙の本との出会いが，児童生徒の深い読みを導き，人格形成に貢献しうることを忘れてはならない。

しかしながら，これがすなわちデジタル教材を否定するものではない。事実，デジタル教材が優れている面も多い。例えば，児童生徒が文字の読みに困難さがある場合，情報を得るには読み上げ機能が役に立つし，白地の背景に黒の文字のコントラストが文字の読みとりを困難にする場合など，支援教材として最適化されたものであれば背景や文字色を変えることもできる。電子書籍は，コロナ禍において大学生が大いに活用している。紙の本の貸し出しに比べ，時間・物理的コスト（輸送も含め）は大幅に削減され，関心領域の知識を一気に集約するには手軽である。これは，児童生徒にとっても同様の利便性をもたらす。デジタル化が進む一方で，紙ならではの読書体験の良さを再確認するとともに，目的に応じた図書の整備が必要となる。

### ４　子どもの人格形成に貢献する場としての学校図書館と人としての学校司書

第五次計画では，学校司書の配置にかかる予算は第４次計画時の予算に比べ，1.46 倍に増大した。そのことは，教育の本来の目的である児童生徒の人格の形成において，学校図書館における学校司書が大いにかかわることを意味する。

研究や仕事柄，学校園に訪問させていただく機会は多い。その際，つい目が向くのは，学校図書館にいる児童生徒の姿である。

ある授業時間，そこに一人の小学校中学年男児がいた。時々，授業中にそこで時間を過ごし，気持ちを整えてまた教室に戻っていくのだと聞いた。背中越しに，彼が読んでいた本のページをそっとのぞいてみた。冒険物語であった。本に鼻先をつっこんで，私の存在にも気づかず文字を追う真剣なまなざしと，さらにその先へとページを急いでめくる指の動きは，彼の心がその物語の世界を駆け巡っていることを思わせた。同時に，その時間，教師は彼にいち早く教室に戻ってきて欲しいと願っていることも容易に推察できた。

校長室に戻り，彼がその本を一心不乱に読んでいた様子を伝えると，校長先生はにこやかに応じ

られた。そして，学校図書館が彼の居場所となっていること，そして，学校司書もまた，彼を含め一人ひとりの成長を支える「チーム学校」の大切な一員であるべきだと力強く語ってくださった。

先の子どもについても,「授業を抜け出してきた」とレッテルをはるのではなく，その時間に学校図書館にやってきたという事実のみを受けとめ,「何に関心があるのかしら」といったあたたかなまなざしで見守ることで，彼についての新たな理解が生み出されると期待できる。また，そこで読んでいた本など，あとからそっと教師に伝えることで，彼と教師が繋がるきっかけにもなり得る。

ただし，そうした関わりは，そこに学校司書がいるだけでは実現しない。学校長が，学校図書館ならびに学校司書の意味を十分認識し，それを校内で共有すること，加えて，学校司書の研修として，日々行われている読書推進の好事例の共有に加え，目の前の子どもの姿から今日的な学校司書の役割を議論する研修の場が必要となる。

## ５　発達にふさわしい選書

当然ながら，学校司書は配属の学校の全ての学年の児童生徒の読書支援に携わる。子どもに本を手渡す専門家である以上，子どもの専門家であってほしいとも思う。その際，発達心理学的知見は有用であると考える。ただし，子どもの姿は時代に応じてかわる。その点も踏まえて子どもの発達について概要をまとめる。

小学校入学直後，発達特性とは別に，人の声に関心を向けにくい子どもの存在についてしばしば耳にする。言葉の発達に関して，子どもは胎児期から言語環境に触れており，出生直後すでに母語（第一養育者の第一言語）への敏感性も高い。特に，母親の声のする方に顔を向け，あたかも懸命に声を聴こうとする。また，喉をならすようなクーイングといわれる前言語を発し，周囲の大人達からの声かけをさらに誘導しようとする。それほどまでに，大人の声に貪欲であった子どもたちに何が起こっているのであろうか。

2017 年に実施された NHK によるテレビ,録画番組・DVD 利用調査によると，２歳児の視聴時間は，計２時間 50 分，加えて，内閣府が同年に実施したインターネット使用時間に関する調査によると，２歳児の利用時間は平均１時間を超える。つまり，２歳児が多様なメディアを通して何らかデジタル情報の視聴に費やす時間は，一日平均４時間に迫る。３歳児になり，多くの子どもが園に通うようになるとその時間は減るが，入学時までに平均３時間以上は，音声を機械から入力させている。内閣府の調査は加えて，子どもたちの多くが，大人の古くなったスマートフォンを用い，自宅の wi-fi を使って視聴している実態を示している。つまり，ボタンを押せば，刺激が流れ，その刺激さえも周囲の大人に共有されていないという現実がある。孤独と自立は異なる。ある種，言語的孤独に多くの子どもはいる。また，場合により，指示ばかりを与える家庭や園で育った子どもは，大人の声そのものに対する関心を喪失させ，約束事ばかりを押しつけるしつけ絵本の類いしか選んでもらえなかった子どもは，本に対する信頼も失い小学校に入学することとなる。

したがって小学校低学年においては，それ以前に読み聞かせをたっぷりしてもらった子どもは，さらに彼ら彼女らの興味に応じた選書を，そして，先に述べた子ども達には，再び大人の声と本に対する信頼を取り戻す作業が学校図書館あるいは学級での読み聞かせで必要となる。

小学校中学年以降の子どもの多くは，自身の読みスキルを用いた自立的読みが可能となる。しかし,『AI vs 教科書が読めない子どもたち』の著者新井紀子氏は，全教科の内容を正確に読めているのは小学生の場合，せいぜい，クラスの２，３人であると指摘する [2)]。それは，一見，本を読んでいるように見える子どもの姿からは推測しづらい。学校図書館は，子どもの読みの力を育てる役割もある。読みと一言でいっても，心理学の領域においては細分化されて扱われる。例えば，文字を音に変換するステップ，一文の意味を理解するステップ，前後の文意をつかんで内容を推測していくステップ等である。後半のステップこそ，人間本来の能力が発揮されるにもかかわらず，そこに至らない子どもが実に多い。自立的読みを促され始める中学年の子どもにこそ，最初のステップにかかる認知コストを削減し,お話の世界そのものを楽しむことができる読み聞かせが有用であろう。

高学年以降になり，第二次性徴を迎えた子どもたちは，青年期（前期）に入る。ホルモンの分泌が盛んになり身体も次第に性に応じて変化する。その際，身体の変化を肯定的に受けとめることができないのは，男児に比べ圧倒的に女児が多い。人に相談しにくいことを，本に知識を求めようとする際，学校図書館はそれに応えることはできているであろうか。また，この時期，自らの性に対する違和を明確に生じさせる子どもが現れる。UCLA の調査によると，LGB の特性をもつ人の割合は，およそ 3.4%，つまり，クラスに一人は存在する。学校司書が一人ひとりの姿に思いを巡らせながら，彼ら彼女らが，今求めていること，悩んでいるかもしれないことに，選書を通して応える姿勢は，一人の子どもを救い，また，性に関する多様な個性について相互理解を促す可能性がある。SDG’s の第５の目標，「ジェンダーの平等」に近づく道もここにある。

中学・高校生は，進路選択も含め，アイデンティティの確立が発達課題となる。「自分とはいかなる存在か」といった問いは，この時期の子どもの中心的関心ではあるが，気になるのは，その問いに向き合う時間が若者にあるのかということである。塾等を含め，放課後のスケジュールが過密になっていることに加え，隙間時間でさえ，手軽なスマートフォンのゲームや動画視聴で埋まってしまう。つまり，若者の時間の争奪戦がいたるところで繰り広げられている。若者の関心を再び，学校図書館に向かせるには，人である学校司書の存在が要となる。

中学校の学校司書であった小幡章子氏は，生徒にお勧めしたい本を集めた本棚を貸し出しカウンターの前に作り，時に勧めたり，生徒が関心を持って読んだ本の感想をカウンター越しに語り合ったりといったことを通して，生徒との心の交流を生み出したエピソードを多く紹介している[3)]。生徒が自らの足で学校図書館に出向き，人と出会い，会話を重ねるその時間は，本への信頼を回復し，再び，本を通して自分と向き合う時間への橋渡しとなる。学校司書の役割は大きい。

## ６　学校図書館・学校司書は何によって評価されるのか？

岡山県立図書館は，令和３年３月に，第４次中期サービス目標を発表した。私は，同目標について議論する評議会に委員として参加させていただいた。机の上に用意されていた資料を目にした際，感動を覚えたのを記憶している。同計画において，以前は来館者数及び個人貸出冊数を指標として掲げていた。ある意味，目標が達成されたということもあるが，今回，同図書館は，指標を大きく変えた。同計画において，時代の変化を読み解きながら，多様な読書のニーズに応えていくこと，また，開かれた図書館になること等を目指し，SNS を通じた広報も目標となり，指標として，「ツイッターのフォロワー数」が新たに加わった。また，県内公立図書館との連携についても３次に引き続き目標とされるが，その指標として，貸し出し数とともに，「巡回相談実施延件数」が加わった。いずれも，図書館と利用者の繋がりを表す新たな指標と言える。

目標達成にむけ，評価の指標を何にとるかということは，実は大きな問題であり，それは，学校図書館においても例外ではない。

これまで述べてきたように学校図書館や学校司書が，「チーム学校」の一員として教育の一環を担っていること，また，一人ひとりの発達や個性に応じた選書や館内の整備を行うことが役割としてあることを鑑みると，来館者数・貸し出し数の指標のみをもって，学校図書館や学校司書の働きを評価することには疑問がある。

学校図書館での子どもの様子を他の教員と共有した回数や時間，子どもと会話を交わした回数や時間，初めて，自発的に図書館に足を運んできた子どもの数，子どもからの図書のリクエストの数等も考えられるであろう。新しい時代に応じた評価・指標についても議論をスタートさせる必要があろう。

学校図書館の現場において，日々の改善は進んでいると推測するが，一つ気がかりな点がある。

それは，学校司書に対して，これまで記述してきたように，時代の要請に応じた読書支援を行うことが期待されているにもかかわらず，地方自治体によっては，学校司書の配置が十分ではなく，学校図書館が閉鎖している日があったり,また,学校司書の研修機会が十分でなかったりすると聞く。首長はもちろん，一市民が等しく，現代の児童生徒の成長にとって，学校図書館と学校司書の役割の重要性を認識することが求められる。児童生徒が集う場としての学校図書館，そして，本を通して児童生徒の成長に寄与する専門家としての学校司書の役割をいかに伝えることができるか，知恵を絞っていく必要がある。

引用文献

（１）メアリアン・ウルフ/大田直子訳（2020)『デジタルで読む脳×紙の本で読む脳』インターシフト
（２）新井紀子（2018)『AI vs 教科書が読めない子どもたち』東洋経済新報社
（３）脇明子・小幡章子（2011)『自分を育てる読書のために』岩波書店

第54回岡山県学校図書館研究大会　真庭大会　分科会一覧

| | A<br>学校図書館の運営・連携 | B<br>豊かな心を育み、読書の楽しさを味わわせる学校図書館 | C<br>主体的に学ぶ力を育てる学校図書館 | D<br>心をつなぐ絵本 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校 | 【発表題】<br>「ICTでつながる学校図書館～児童・保護者・地域過去・現在・そして未来へ～」<br>《発表者》<br>新見市立新砥小学校<br>教　諭　　小松　順子 | 【発表題】<br>「豊かな心を育む図書館教育～読書に親しむ機会と環境整備～」<br>《発表者》<br>瀬戸内市立牛窓北小学校<br>教　諭　倉元　圭子<br>学校司書　宮崎　博子<br><br>【発表題】<br>「じょうぶな頭　まあるい心を育てる　学校図書館」<br>《発表者》<br>美咲町立旭小学校<br>教　諭　花谷　　陸 | 【発表題】<br>「主体的な学びにおける学校図書館活用・司書との連携のあり方」<br>《発表者》<br>岡山市立御野小学校<br>教　諭　　西森　友美<br><br>【発表題】<br>「主体的な学びを生み出す授業づくり～学校司書と連携した学習を通して～」<br>《発表者》<br>岡山市立牧石小学校<br>教　諭　　山内　祐子<br>学校司書　武中　陽子 | 【発表題】<br>「教師と子ども　子どもと子どもの心をつなぐ～「繰り返し絵本」「参加型絵本」の読み聞かせを通して～」<br>《発表者》<br>岡山市立豊小学校<br>教　諭　　酒本　　薫 |
| 中学校 | 【発表題】<br>「図書館との連携を基にした授業づくり～図書館を起点とした学校間ネットワーク～」《発表者》<br>備前市立吉永中学校<br>教　諭　　米本　大夢<br>学校司書　佐藤　美子 | 【発表題】<br>「本につなぐ　本でつなぐ～国語科における読書指導の工夫～」<br>《発表者》<br>倉敷市立南中学校<br>教　諭　藤本　久美<br>教　諭　越智　友美 | 【発表題】<br>「主体的に学び合う授業を支える学校図書館」<br>《発表者》<br>岡山市立岡北中学校<br>指導教諭　　利守　雅行<br>学校司書　　羽原　祐子<br><br>【発表題】<br>「興味を広げる図書館～いろいろな工夫～」<br>《発表者》<br>津山市立北陵中学校<br>教　諭　　市村　舞子 | 【発表題】<br>「心をつなぐ絵本～命と向きあう絵本～」<br>《発表者》<br>倉敷市立庄中学校<br>教　諭　　難波　　真 |
| 高等学校 | 【発表題】<br>「図書館利用の促進を目指した取り組み」<br>《発表者》<br>岡山県立高梁高等学校<br>教　諭　　官尾　章生 | 【発表題】<br>「ビブリオバトルについて」<br>《発表者》<br>岡山県立邑久高等学校<br>教　諭　　阿部　雅美 | 【発表題】<br>「ニーズに応える学校図書館づくり～倉敷中央高校の取り組み～」<br>《発表者》<br>岡山県立倉敷中央高等学校<br>司　書　古賀　美佳子 | |
| 指導助言者 | 岡山県立倉敷青陵高等学校<br>校　長　　内田　博文 | 岡山県立津山東高等学校<br>校　長　　園田　哲郎 | 倉敷市立玉島高等学校<br>校　長　　辻田　詔子 | 真庭市立中央図書館<br>前館長　　杉浦　俊太郎 |

分科会Ａ　学校図書館の運営・連携

# ICTでつながる学校図書館
# ～　児童・保護者・地域
# 過去・現在・そして未来へ　～

新見市立新砥小学校　教諭　　小松　順子

## １　はじめに

本校は，岡山県北西部の新見市西南部に位置する，標高500mの自然豊かな高原地帯にある。阿哲富士とも称される鐘状火山「荒戸山」，岡山県天然記念物「姫ボタル（金ボタル）」，スズランの自生地である「おもつぼ湿原」があり，米作やトマト，ピオーネの栽培の他に，近年では西日本第一位の生産量を誇るリンドウ栽培も盛んである。

この恵まれた環境の中で，地域・保護者の方々と共に伝統ある教育活動が継続されている。42年間続く「版画カレンダー制作」，26年間続く「金ボタル保護活動」は新見市ふるさとキャリア教育の一環として特色ある取組である。令和２年度には，地域を題材とした探究的な取組に対して，県教育委員会「晴れの国おかやま学びたい賞：最優秀賞」を受賞した。また，ロボットプログラミング学習を推進し，平成29年度「Pepper社会貢献プログラミング小学生部門：全国金賞」を受賞するなど，ICTの利活用にも熱心に取り組んでいる。

これらの特色や強みを生かし，本校の学校図書館が，児童，教職員，保護者や地域の方々にとって有効に活用されるよう工夫改善を図りたいと考え，本主題を設定した。

## ２　具体的な取組

（１）　教職員・児童アンケート

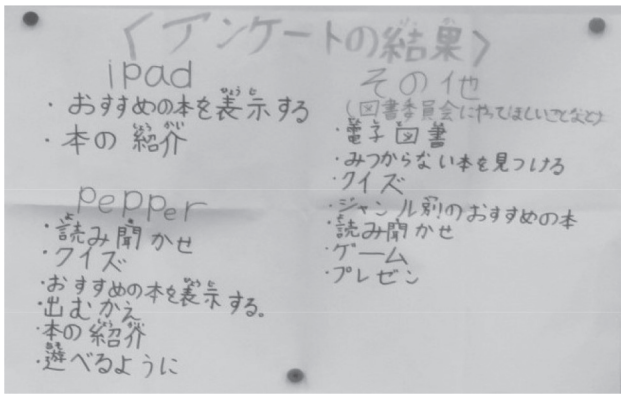
①　教職員アンケートより

「Pepperの活用・Zoomの活用・地域教材の保存（アーカイブ）」などの意見が出された。図書館担当を中心に全職員で計画を立てて実践することにした。

②　児童アンケートより

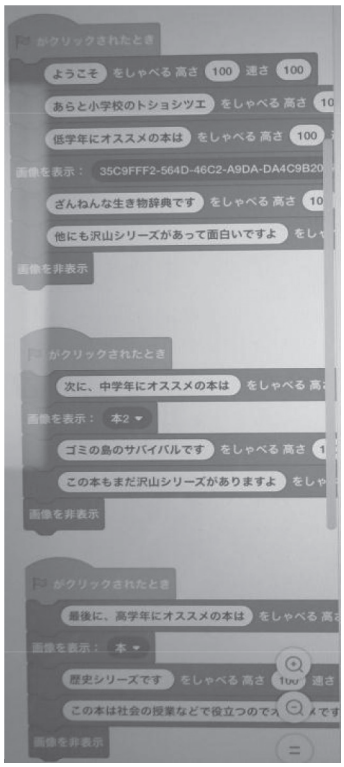
図書委員会が３年生以上にアンケートをし，集計結果を発表した。「Pepperの活用」についての意見が多く出され，みんなが親しみをもって図書館を利用できるようなプログラミングを行うことにした。

児童アンケート結果

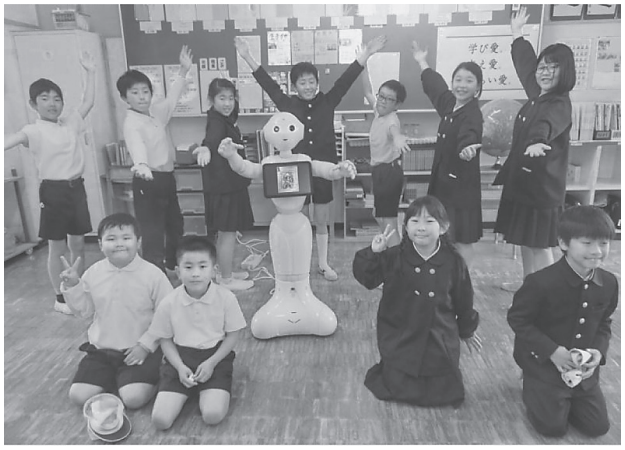



（２）　Pepperの活用

児童が考えたプログラミングの内容は『出迎えのあいさつ→お勧めの本の紹介（低・中・高）→読書の呼びかけ』である。話すスピードや内容，みんなに楽しんでもらえるような動作も工夫しながら完成させることができた。他学年児童からは，「すごい。ぼくもPepperを動かしてみたい。」「本の紹介がよくわかったので，すぐに読んでみたくなった。」と感想が寄せられた。プログラミングを担当した６年生児童は，「３度も改善を繰り返し，無事に完成して達成感がある。みんなに喜

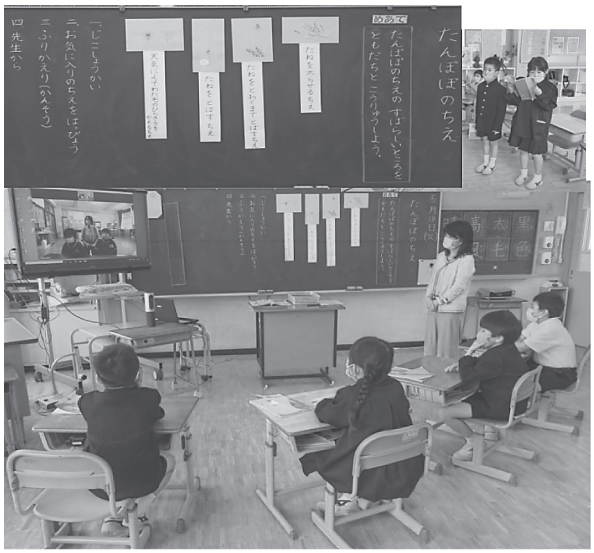


んでもらえてうれしい。もっと工夫するつもりだ。」と意欲を高めることができた。



（３） Zoomを活用した他小学校とのオンライン授業「たんぽぽのちえ」（光村図書・第２学年）

単元計画の第三次において「たんぽぽのちえのすばらしいところを，ともだちとこうりゅうしよう。」のめあてに沿って，選んだ理由も発表しながら音読し交流を深めることにした。他校の友だちとZoomで学習できるとあって，導入時から大変意欲的に取り組むことができた。当日は，「まるでお話を書いた人のように読めていたよ。」「わた毛がふわふわとんでいるみたいに読めていたよ。」との感想を聞いて，「音読を聞いてもらってうれしかった。」「こうりゅうが楽しかった。」「あっという間だったのでもう一回やりたい。」と振り返ることができていた。また，担任の先生方からお勧めの本の紹介があり，読書意欲を高めることができた。今後は，新見市立中央図書館ともZoom等による交流を予定している。




（４） 地域教材の保存（アーカイブ）

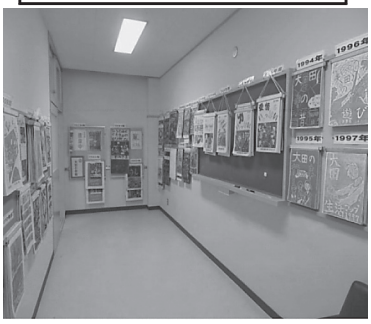
長年積み重ねている地域教材（ふるさと学習）をデータ化して保存し，いつでも誰でも活用できるようにした。図書室のノートPCに保存し，閲覧できるようにしている。

① 版画カレンダーづくりについて

**【保存内容】**
①版画カレンダーの変遷　②全カレンダー表紙
③杉原宏二先生（42年前からご指導いただいている先生）の言葉
④保護者・地域の声　⑤制作の過程・新聞記事

**1980 年カレンダー表紙 （最古）**

**展示コーナー（H21 に設置）**



② 金ボタル保護活動について

**【保存内容】**
①金ボタル保護活動の変遷　②保護活動の取組
③金ボタルを守る会会長の言葉
④保護者・地域の声　⑤新聞記事

③ 新見市のリンドウ栽培について

**【保存内容】**
①取組について　②児童作成新聞
③「晴れの国おかやま学びたい賞：最優秀賞」DVD
④「假屋崎省吾氏オンライン生け花授業」DVD
⑤栽培農家：奥山亮さんの言葉　⑥新聞記事

今後，アーカイブの配信も検討中である。

## ３ 終わりに

「学校の中心には図書館がある。」校長が常々口にしている言葉である。ICT活用の工夫により，人やものが十分ではないという本校の弱みを補い，より深い学びの場としての可能性を確信させてくれる。

令和２年度の総貸出冊数は5,259冊。個人貸し出しが300冊を超える児童は４名。全校児童35名の小規模複式校にあっては，大きな成果と考えられる。研究は緒に就いたばかりであるが，今後もICTの環境整備と共に，児童や教職員，保護者や地域の方の思いや願いをICTでつなぎ夢の実現に向けて邁進していきたいものである。

分科会Ａ　学校図書館の運営･連携

# 図書館との連携を基にした授業づくり
## ～図書館を起点とした学校間ネットワーク～

備前市立吉永中学校　教諭　　米本　大夢
学校司書　佐藤　美子

### １　はじめに

（１）　本校の紹介

本校は備前市の北部に位置している。学区には緑豊かな田園地帯が広がり，町内には池田家墓所，車で 10 分ほどの距離には閑谷学校などの史跡を有している。本校は１学年１クラス，特別支援学級１クラス，計４クラスからなる全校生徒 98 名の小規模校である。

（２）　本校の図書館

本校の図書館は，本館１階の玄関の靴箱から約３メートルのところに位置し，誰もが利用しやすい環境が整っている。平成 23 年には図書館のマスコットキャラクター「よももん」が誕生し，本校独自の読書啓発週間「よももんフェスティバル」を季節ごとに年４回おこなうなど，活気ある図書館である。

### ２　授業づくり

今回はそんな本校図書館が授業づくりに果たしている役割を，３年生国語「論語」の授業実践を通して紹介したい。

（１）　単元の概略

本校生徒にとって「論語」は特別なものである。閑谷学校の近くに位置する本校では，小学生のころから論語に親しみ，中学校１年生時に閑谷学校で論語の素読をおこなっている。９年間の論語学習の総決算と位置付けて，３年時の「論語」の単元を扱っている。

単元の根幹となるのは，論語の章句の中から自分の座右の銘となる章句を探し，自分の経験やこれからの展望と結び付けながら，皆に紹介するという活動である。しかし，教科書に掲載されている章句は限られているため，全員が自分の心に響く章句を見つけることが難しいのが課題であった。そこで，本単元を充実したものとするため，図書館との連携をおこなうことにした。

（２）　学校間での連携

①　参考文献リストの共有

「論語」を扱った書籍は非常に多い。その中から授業の参考文献として扱う書籍をリストアップするだけでも大変な労力である。そこで，本単元を先行実施していた同じ備前市の日生中学校と参考文献リストの共有をおこなった。

このリストを本校で再度検討し，本校独自の論語ブックリストを作成した。

②　蔵書の共有

この参考文献を集める際には，岡山県立図書館，備前市立図書館のみならず，備前市内の各中学校の図書館にも協力していただいた。その結果，合計で 50 冊を超える参考文献を集めることができた。

③　授業の共有

日生中学校でおこなわれた「論語」の授業は公開授業として備前市内の各中学校の国語科教員が参観した。授業参観の後には，研究協議をおこない，各校教員の指導，助言をもとに授業のブラッシュアップを図った。

（３）　授業者と学校司書との連携

①　学習者に関する情報共有

本単元を実施するにあたり，学校司書に対象学級の実態を伝え，どのような参考文献を提示するべきか協議をおこなった。

授業の度に，進捗状況を学校司書と授業者で共有し，生徒がどのような本を手に取っているかというフィードバックもおこなった。

②　参考文献に関する情報共有

集めた参考文献の数が多く，授業者がすべてに目を通すことが困難だった。そこで，それぞれの参考文献の特徴を学校司書に教えていただき，生徒へ提示する資料の検討をおこ

なった。

③　授業での連携

本単元の最初の授業では，図書館司書がブックトークをおこない，おすすめの本を紹介することで，参考文献を選ぶ際の手がかりを生徒に示した。

④　その他

集めた参考文献は，学校司書により難易度や形態によって４種類に分類され，生徒へ提示された。４つの分類は以下のとおりである。

(A)論語初級編

(B)論語の読み方

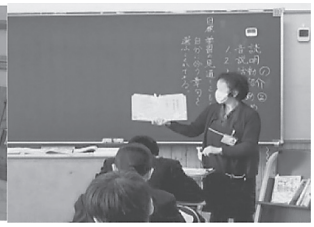
(C)物語・エッセイ・漫画

(D)図解集・その他

(D)のその他には，本校の学校司書が作成したプリント，論語を扱った新聞記事の切り抜きが加えられるなど，授業者の蔵書など，様々な種類の資料が準備された。

また，それぞれの文献の目次のページ，読んでもらいたいページにあらかじめ付箋を貼り，効率的に学習を進められるようにした。

授業以外の時間帯にも参考文献を手に取れるように，本棚は図書室の特設コーナーとして設置した。



## ３　成果

（１）　学校間交流について

学校間で参考文献の共有により，効率的に資料収集をおこなうことができた。

参考文献というハードの部分の共有にとどまらず，学習指導案，授業内での図書館司書のブックトークの原稿，教員同士の指導スキルやアイデアといったソフト面の共有もおこなうことができた。

授業参観をおこなうことで，授業のイメージが明確となった。特に，学習に困難さを抱えている生徒へ提示するべき資料，章句ごとに提示すべき資料はどれが良いかなど，その後の授業実践に大変役立つものとなった。

（２）　授業について

本単元を受けた昨年度の３年生 22 名が選んだ章句は，17 種類を数えた。数ある章句の中から選んだことにより，自分自身の体験やこれからの目標と結び付けた発表をおこなうことができた。

また，４つに分類した資料の中から，異なる分類の文献を用いて，対象となる章句を調べるように指示した。その結果，漫画や図解集などの比較的平易な内容の文献で自分の気に入った章句を探し，章句の概略をつかんだうえで，難易度の高い文献を用いて章句をより深く解釈するという学習の流れを作ることができた。

（３）　課題

今回の実践で生まれたネットワークを今後も活用し，より強固なものにしていくことが今後の課題である。国語だけではなく，他教科と図書館との連携，学校間の連携の強化が挙げられる。

特に学校間の連携をおこなうことは，小規模校が多い備前市の中学校にとって，指導技術を共有する大変貴重な機会であり，若手教員にとっては学びのきっかけとなる。令和２年度は「論語」の単元のみに終わった学校間交流だが，令和３年度以降はその数を増やし，指導技術のさらなる研鑽に努めていきたい。

## ４　おわりに

今回の実践を通し，備前市が有するリソースの大きさに気づいた。特に，各中学校図書館には，経験，知識ともに豊富な学校司書がおり，そのスキルをこれまで授業に活かす場を作ることができなかったことを深く反省した。

少子化に伴い学校の小規模化が続いている昨今，教員数も減り，教員間での指導技術の伝承が難しくなっている。それに加え，教員の働き方改革など，業務の効率化も求められている。そんな中，今回の実践で構築したネットワークの活用は，これらの問題を解決する糸口になるのではないだろうか。

分科会Ａ　学校図書館の運営･連携

# 図書館利用の促進を目指した取り組み

岡山県立高梁高等学校　教諭　　官尾　章生

## １　はじめに

本校は，創立 141 周年を迎えた歴史をもつ伝統校である。校舎は備中松山城の御根小屋跡(県指定史跡）に建ち，その中心には小堀遠州作庭の心字池がある。普通科と家政科の２学科を設置し，13 クラス・410 名の生徒が在籍する。

本校図書館は本館の４階にあり，蔵書冊数は約 27,000 冊である。その他にも，正門横に建つ大正 14 年に図書館として建てられた有終館にも 6,500 冊の蔵書がある。

## ２　現状の把握

図書館の利用状況としては，貸出冊数が 2016 年度より減少傾向にあり，2015 年度までは平均 6,000 冊だった貸出冊数が 2018 年度には 2,827 冊まで落ち込んだ。

その要因の一つとして，高梁市図書館オープン(2017 年)の影響が挙げられた。それらを調査するため 2018 年に「図書館利用アンケート」を実施した。その結果として，「学校図書館をほとんど利用しない」と答えた生徒は 79%にのぼり，理由としては「場所が遠い」「本を読む習慣がない」「忙しくて時間がない」というものだった。そして「学校図書館以外の図書館を利用したことがあるか」という質問に 81%の生徒が「ある」と回答し，うち 60%が「高梁市図書館を利用」と回答している。このことから学校図書館以外を利用する生徒が多いという現状も分かった。

また，全国学校図書館協議会発行の雑誌『学校図書館』に掲載された「子ども読書の現状」での高校生の平均読書冊数の推移を見ると，2017～2018 年度の読書冊数は全国的に減少傾向にあることが分かり，一概に高梁市図書館の影響だけとは考えにくいとの結論に至った。

この結果を踏まえ，2018 年度から本格的に図書館利用の促進を目指した取組に着手した。

## ３　実践

（１）　授業との連携

①　英語科との連携として，英語の多読用書籍を約 500 冊購入し「英語多読本」の充実を図った。英語多読の課題のために多くの生徒が図書館を訪れるようになり，貸出冊数だけでなく来館者数も増加した。また，多読本だけでなく他の本にも興味・関心を持ってもらえるように，授業内容と連携した特集コーナーづくりや，展示方法の工夫などを行った。生徒からは「こんな本があったのか」「本を読みたくなった」という声が聞こえるようになり，多読本とともに複数冊の本を借りる生徒が増え，図書館に来るきっかけづくりにもなった。

②　芸術科「美術」との連携では，図書 POP 製作の授業の際に，参考になる資料の紹介や提供を行った。そして完成した作品は，図書館内に本と一緒に展示をした。友達の作った POP や紹介する本が特設展示されていることで生徒の関心を集め，普段貸出の本が借りられる傾向が見られた。

③　本校では総合的な探究の時間（総探）の中で，地域に関する探究活動を行っている。以前は，調査・研究で図書館を利用する生徒は少数であったため，図書館を活用してもらえるよう様々な取組を行った。

まずは，総探コーナーの設置である。高梁市に関する郷土資料を書庫から移動し，高梁市や岡山県に関するパンフレットの収集とファイリング，参考になりそうな新聞記事（高梁市の地域学関連・他校での総探などでの取組・SDGs 関連）の切り抜きをファイリングし，必要な時に見られるように整備した。その他にも探究学習に役立つ本を集めて展示をし，本以外の情報検索に役

立つサイトの紹介も行っている。

また，「蔵書検索システムの使い方」「新聞記事検索をしてみよう」「RESAS(リーサス)を活用してみよう」の３本の動画を作成して情報検索のための支援を行った。

（２） 高梁市図書館との連携

美術と連携して製作した図書 POP を，高梁市図書館でも展示をしてもらった。その準備に図書委員が参加し，展示方法や案内看板の書き方などを教えていただいた。今後の委員会活動にも役立つとても貴重な体験ができた。

高校生の貸出冊数の低下は本校図書館だけでなく高梁市図書館でも課題となっているとのことで，今回の展示をきっかけにして今後も連携をしながら読書活動推進に取り組む予定である。

（３） ICT を利用した取組

本校は Google Classroom を利用しており，図書館通信も紙面配布から配信に変更した。カラーで見やすくなり生徒の関心を引くことができた。また，図書館からのお知らせなども配信することで，周知もしやすくなった。

さらに，蔵書検索システムから「本の予約とリクエスト」が行えるようにし，生徒が“読みたい”と思った時に資料の予約やリクエストをすることが可能になった。

また，毎年４月に１年次生を対象に行っている図書館オリエンテーションでは，総探などでの活用を視野に入れ“本の分類”“図書検索の方法”“新聞記事検索”などについての説明を行い，実際に Chromebook を使って利用体験を行った。オリエンテーション後には来館時に自分で蔵書検索をする１年次生が増えた。

新刊の紹介は，毎月発行する図書館通信と，図書館内・職員室前の掲示物だけで行っていたが，より多くの生徒に伝わる方法を検討した結果，新たに職員室前にモニターを設置し，メディアプレイヤーを利用してスライド形式で本の紹介やお知らせなどを流すようにした。それを見て本を借りに来る生徒の姿も多く見られるようになった。

（４） その他の取組

「図書館が遠い！」という生徒の声に応え，読書週間に合わせて移動図書館を昼休みを利用して校舎１階の購買前で開催した。また，図書委員がブックハンティングを行い「図書委員のおすすめ本コーナー」として展示したり，文化祭でも本に関する展示を行った。他にも，茶室「光風館」でのブックカフェ，本校に所蔵している資料を一般公開する「所蔵品展」の開催。そして，先生方のおすすめ本を紹介した冊子「Book Collection」の配布，図書委員による本の紹介「ライブラリーニュース」を毎月発行するなどの取組を行っている。

（５） アンケートの実施

2018 年度に実施した「図書館利用アンケート」と同内容のアンケートを 2021 年 4 月にも実施し，比較を行った。結果としては，「学校図書館をほとんど利用しない」と答えた生徒が 79%から 41%に減少し，学校図書館の利用頻度が高くなっていることが分かった。また，「学校図書館以外の図書館をほとんど毎日利用，週に１回利用」と答えた生徒が 30%から 10%に減少していることも分かった。そして，学校図書館を利用する目的として「読書」と回答した生徒が 48%から 73%となり，読書に対する意識が高まっていることも読みとれた。自由記述欄には，「特集コーナーを見るのが楽しみ」「過ごしやすい」「なるべく行けるようにしたい」といった意見や感想が寄せられた。

## ４ 成果と課題

生徒の貸出冊数の変化を見ていくと，2018 年度には 2,827 冊だったが翌年の 2019 年度には 4,132 冊，2020 年度には 6,789 冊と増加した。特に，総探で図書館を活用する生徒数，本に関する司書への相談や問い合わせなどにおいても増加傾向が見られ，これまでの取組の成果が出てきていると実感している。

不読者への働きかけや生徒の求める情報の収集と効果的な伝達方法の検討・提供を課題と考えている。今後も様々な取組を継続して行い，先生方とも連携をとりながら学習・情報センターとしての機能を果たすことのできる，魅力ある学校図書館となるよう励んでいきたい。また，高梁市図書館との連携も継続し，地域全体で読書活動の推進に取り組んでいきたいと考えている。

# 指導助言－分科会Ａ
## 『学校図書館の運営・連携』

指導助言者　　岡山県立倉敷青陵高等学校　校長　内田　博文

「豊かな心と主体的に学ぶ力を育む学校図書館」という今年度の研究テーマは，児童・生徒にこれからの社会を生き抜く力を身に付けさせるために，学校図書館がどのような役割を担っていかなければならないかを改めて考えるきっかけになっています。

社会の在り方が劇的に変化する「Society5.0 時代」が到来する一方で，新型コロナウイルス感染拡大が示しているように,「VUCA」と呼ばれる，社会の変化を予測することが困難な時代になっています。そうした状況の中で，新学習指導要領では，ICT を効果的に活用しながら,「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の育成が求められています。

また，一人一人の児童・生徒が，自分の良さや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，他者と協働しながら，社会の変化を乗り越える力を身に付けていくことが求められています。

つまり，これからの学校教育では，社会に開かれた教育課程を基盤として，主体的・対話的で深い学びを実践することで，児童・生徒自身が豊かな人生を切り開けるような力を育成し，児童・生徒を持続可能な社会の創り手として育成することが求められていることになります。

こうした観点に立つと，３校の取組は，新学習指導要領が求めている内容に応えようとしているものであると感じました。他者との協働や地域との連携を通じながら児童・生徒の興味・関心を引き出し，より発展的・応用的な学習へと誘い，児童・生徒の主体性を高める工夫がなされていると思います。

新見市立新砥小学校では，ICT の活用を通じて図書館を深い学びの場として位置づける取組が進められています。児童がプログラミングした Pepper による読書啓発活動や，Zoom を利用した他校とのオンライン授業の実施は,小規模複式校であっても様々な活動ができることを実証しています。

中でも，Pepper のプログラミングを担当した６年生が，他学年の児童が寄せた感想によって達成感を感じ，さらに工夫を重ねたいという意欲を持ったことは，素晴らしい成果です。他者からの評価によって自己有用感や自己肯定感が芽生え，学びに向かう力が高まり，より深い学びへの発展が期待されます。

昨年度の総貸出冊数が提示されていますが，この数値から考えると，児童一人が，年間 150 冊以上の本を借りたことになります。一人の児童が一週間に３冊の本を借りて読んだということになるのですが,この数値だけを見ても,取組が大きな成果を上げていると言えるのではないでしょうか。

また，備前市立吉永中学校の取組では，これからの社会において学校図書館がどのような役割を果たさなければならないかが提起されています。知識の拡充という，学校図書館がこれまでに有してきたセンター機能だけでなく，授業の支援や，授業者と協働した授業づくりも担えるという学校図書館の新たな役割や機能が示されています。

この取組では，授業単元目標の実現に向け，参考となる蔵書や文献リストを地域の学校や施設と共有することが土台となっています。しかし，共有だけにとどまらず，学校司書が授業づくりや授業の振り返りにまで関わることで，知識の定着と表現力の伸長を生徒にもたらし，授業者のスキルアップにもつながっています。

特に，連携によって授業を効率的に実施できることは，学習に困難さを抱えている生徒への指導が行き届くことにつながり,「個別最適化された学び」へと進展するように感じました。

最後に，貸出冊数の減少という多くの学校図書館が抱える課題の改善に挑んだ，岡山県立高梁高等学校の取組は,学校図書館の魅力づくりという面で一つのモデルケースとなるように思いました。

「図書館利用アンケート」を通じ，生徒の声を拾い上げていますが，こうした現状分析により，取り組むべき課題が明確になったことで，授業や地域の公共図書館との連携，ICT の効果的な活用等の具体的な対策を進めることができています。中でも，生徒の声に応えた「移動図書館」のアイディアは，わずか２年で貸出冊数を約 2.4 倍に引き上げたことと無関係のようには思えません。

施設・設備の都合上，教室から遠く離れた場所に図書館が設置されている学校も少なくありません。設置場所が図書館利用に影響している状況もあるでしょう。しかし，読書週間という限定された期間だけでも「移動図書館」を設置し，足を運びやすい状況をつくれば，生徒の読書及び図書館への興味・関心を高めるきっかけになることを実証できたのではないでしょうか。

社会の高度情報化が進む一方で，児童・生徒の読書離れ，活字離れもより進み，利用の促進が学校図書館の抱える共通の課題となっています。学校図書館の運営・連携を通じ，豊かな心と主体的に学ぶ力を児童・生徒に身に付けさせようと取り組んだ３校の研究・実践は，この課題の改善に向けて，大変意義のあるものであり，今後の学校図書館の在り方や方向性を示すものでもあると感じました。

これまでは，読書によって知識を獲得したり，得た知識を拡充させたりすることが，学校図書館の利用促進にとって大きな意味をもっていました。けれども，主体的・対話的で深い学びを実践し，児童・生徒にこれからの社会を生き抜く力を身に付けさせるためには，知識の獲得・拡充以外での図書館の役割を考えていく必要があります。

獲得した知識を活用する学習活動を行わなければ，変化していく社会の中で生き抜く力を児童・生徒に身に付けさせることはできません。知識の獲得の第一歩は，児童・生徒に，身の周りや社会の事物・出来事に対して興味・関心を持たせることでしょう。そして，その興味・関心を読書に向かわせ,「本を読んで知識を得る，獲得した知識を用いて思考する，そして考えたことや感じたことを表現する」という学習活動に取り組ませることで，知識は「生きた知識」となって定着し，豊かな心が育まれていくでしょう。

児童・生徒が，主体的に学習活動を進めていく上で，学校図書館をどう運営し，校内，あるいは校外と，どう連携していくかは非常に大切なことです。時代が変化していくからこそ，学校図書館が果たす役割は，ますます大きくなっていくはずです。

分科会Ｂ　豊かな心を育み，読書の楽しさを味わわせる学校図書館

# 豊かな心を育む図書館教育
## ～読書に親しむ機会と環境整備～

瀬戸内市立牛窓北小学校　教諭　　倉元　圭子
学校司書　宮崎　博子

### １　はじめに

本校は，瀬戸内市牛窓町北部に位置し，錦海湾を望む畑作の盛んな農業地帯である。児童数は62名，単学級の小規模校である。

図書室は斜面に建てられた校舎の地下１階にあり，教室のある地上１・２階からは離れた利用しにくい位置にある。休み時間には外で遊ぶ児童が多く，以前は図書室を利用する児童が１日を通して全くいない日もあった。児童が読書に親しむ機会を増やし，読書環境を整備することで，図書室を利用する児童を増やすことができると考えた。そこで，学校司書を中心に，児童が本に興味をもち，図書室を利用したくなるようなイベントを企画し実施した。企画にあたっては瀬戸内市内の８小学校から提供された実践を参考にしながら行った。

### ２　具体的な取組

（１）　本に興味をもたせるための工夫

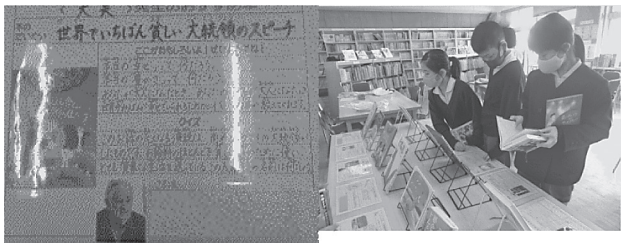
読書が好きな児童もいるが，本に触れる機会が少なく，読書に興味や関心を抱いていない児童が多い。そこで，「面白そうだな。読んでみたい。」と児童が思えるよう，本に触れる機会を増やしたり，興味をもてそうな本の紹介をしたりした。

①　本の福袋

１月のイベントとして行った。児童が興味をもちそうな本を袋に入れ，本の内容が分かるようなキーワードを手掛かりに一人一袋選べるようにした。自分では選ばない本との出会いになった。

②　先生のおすすめ本とクイズ

全教職員が低中高に分かれ，各発達段階に応じたお勧めの本を選定し，粗筋やおすすめポイントと，その本を読まなければ分からないクイズをカードに書き，本と共に図書室に展示した。図書室に来た児童は次々と本を手に取り借りていった。また，クイズにも興味をもっていた。




③　テーマ展示

人権週間や給食週間に合わせて，関連する本や，クリスマスや節分など季節ごとの本，２月22日は「にゃんにゃんにゃん」のごろ合わせで猫の本を展示し，好評を博した。また，「11歳のバースデー」等，シリーズになっている本を展示することで，１巻から順に読了しようとする児童もいた。

④　読み聞かせ

毎月１回，ボランティアの方による読み聞かせを全クラスで行っている。また，読書週間には，担任以外による読み聞かせも行った。校長や事務職員，用務員など，普段は読み聞かせを行わない教職員が行うことで児童の興味を引き，好評を博した。

（２）　図書室に行きたくなるようにするための工夫

自分や友達の作品を掲示することで興味をもって図書室に行く機会をもち，本に触れる機会を増やせるようにした。また，楽しいくじ引きのおもちゃを設置することで，図書室に行こうとする意欲を高めることができるようにした。

①　ヨシタケシンスケコンテスト

ヨシタケシンスケの本に関連したイベントを行った。絵本「つまんないつまんない」を参考に，児童が「○○が○○だとつまんない」

と思うことを絵で表現したものを掲示し，気に入った絵に投票した。その絵を見るために多くの児童が図書室に来室した。児童の自由な発想が感じられる楽しい取組となった。

② ガチャガチャマシーン

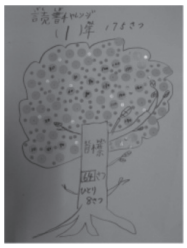
本を多く借りられる券を入れたカプセルを中に入れた手作りのカプセルトイを用意し，来室して本を借りた児童が使えるようにした。お正月ガチャやバレンタインガチャなど，季節ごとに名称を変えて実施した。暗号ガチャは，カプセルの中に暗号が入っており，暗号を解くと本の題名が分かる仕組みになっており，新たな本との出会いとなった。

（3） 本を読もうとする意欲を高めるための工夫

興味のある本と出会った児童の意欲がより高まるように，読書量が目に見えるようにした。また，家庭の協力を得て，家族で読書をする時間をもつことも有効であった。

① 読書チャレンジ

本を一冊読むごとに，シールを貼っていく活動を行った。読書週間には，クラスごとに台紙を配り，全員でどれだけ本を読むことができたかが分かるようにした。その後も，図書室に台紙を貼っておき，学校全体での取組として継続した。



② 家族で読書

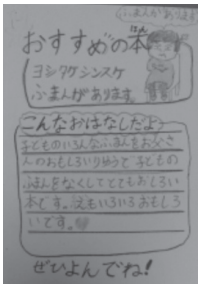
「家族読書週間」を設け，メディアを見る時間を家族で読書をする時間にしてもらうよう，保護者に協力を求めた。親子で一冊の本を一緒に読んだり，兄弟で読み聞かせをしたりと，家族で触れ合うよい機会にもなった。

（4） 読んだ本について発信する工夫

自分が読んで面白かった本を友達に紹介する活動を通して，さらに読書の範囲を広げられるようにした。

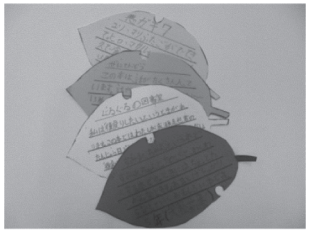
① 読書郵便

面白いと思った本の紹介文を葉書に書き，図書委員が友達に配達した。紹介してもらった本を借りる姿も見られた。



② 読書の木

葉の形のカードに紹介文を書き，大きな木の掲示に貼って掲示することで，他学年の児童の紹介文も読むことができるようにした。



## 3 おわりに

（1） 成果

・本に触れる機会や，読書に興味をもつ児童が増えた。図書室への来室者が大幅に増加し，多い日には30人を超えることもあった。また，貸出冊数が倍増するクラスもあった。

・展示や本を紹介し合う取組を通して，興味のある本や新たな分野の本との出会いをもつことができた。

・教職員や読み聞かせボランティア等，多くの大人が関わり，発達段階に応じた本を勧めることができた。

（2） 課題

児童の主体的な学びに向かう力を育てるため，日頃から読書に親しむ機会と環境整備は必要不可欠である。瀬戸内市内の小学校では「ビブリオバトル」「ブックガイド」等，興味深い実践を行っている。今後も連携を図りながら有効な取組は互いに取り入れ，児童の豊かな心を育む学校図書館を目指したい。

分科会Ｂ　豊かな心を育み，読書の楽しさを味わわせる学校図書館

# じょうぶな頭 まあるい心を育てる 学校図書館

美咲町立旭小学校　教諭　　花谷　　陸

## １　はじめに

本校は，岡山市と津山市の間にある久米郡美咲町の西部に位置し，山と川に囲まれた自然豊かな環境にある。全校児童は 77 名の小規模校であり，令和５年には義務教育学校旭学園（仮称）として開校する予定である。

本校は,バス通学の児童が大多数であるため,運動不足解消として，始業前に朝遊びの時間と補充学習を目的とした朝学習の時間を確保しており，朝読書の時間は設けていない。読書に親しむ時間は，業間休み，昼休み，家庭が中心である。

隔週火曜日に学校司書が来校し，限られた時間の中で担任と連携しながら学習と関連した本の紹介や収集，季節に合った掲示やポップの作成など，図書環境の整備を行っている。

このような状況の中，読書を通して，自分の考えを自分の言葉で表現したり，本を使った学び方を身に付けたりする児童，多様な考えに触れ，互いに認め合う児童，すなわち「じょうぶな頭」「まあるい心」を持つ児童を育てたい。

ここでは，令和２年度の取組を紹介する。

## ２　具体的な取組

（１）　全学年共通の取組

①　読書カード

全学年共通の宿題で読書に取り組んでいる。読んだ本の内容や感想を，読書カードに記録している。日々の宿題で読書をすることにより，読書量が増加している。

②　必読書・おすすめの本

児童が様々な本に触れる機会をつくるため，学年ごとに読んでほしい本を学校司書と担任が選んでいる。児童に必読書・おすすめの本の一覧を示し，読むように勧めている。

（２）　読み聞かせの取組

①　中学生による読み聞かせ

小学校と中学校の距離が近いこと，中学校区に小学校が１校であることから，小中で様々な連携の取組が行われている。その取組の１つに，中学生による読み聞かせがある。１学期は中学３年生，２学期は中学２年生，３学期は中学１年生が来校し，１年生から６年生の各教室に分かれ，各学年の実態に合った内容の本を選んで読み聞かせている。

この取組により，児童は，中学生の心のこもった読み聞かせに触れることができた。その後，休み時間に児童同士が互いに感想を伝え合う場面が見られている。

中学校の図書担当教員は，小学校の各学年に合わせた選書，練習を通して聞き手を意識した読み聞かせにより，意欲や達成感が得られ，中学生としての自覚や心の成長にもつながる取組だと語っている。

【中学生による読み聞かせの様子】

②　学校支援ボランティアによる読み聞かせ

地域の学校支援ボランティアが各学期に５回程度来校し，低中高学年に分かれて読み聞かせをしている。児童は学校支援ボランティアの方の読み聞かせを楽しんでいる。

児童は自分が普段手に取らない本に触れる機会だけでなく，地域の方々の温かさや本の楽しさを味わうことができていると考えている。

【学校支援ボランティアによる読み聞かせの様子】

（３）　図書委員会の取組

①　みんなのおすすめの本

これは，図書委員会のメンバーが，自分が好きな本，他の人にも読んで欲しい本を絵と文で全校児童に紹介する取組である。

「○○さんのおすすめの本だから読んでみたい。」と，読書意欲を高めることができ，紹介された児童だけでなく，紹介した図書委員も，分かりやすく本の魅力を伝えようとする表現力を養うことにつながっていると考える。また，友達の紹介文から本の内容を想像したり，本を通じて友達と関わりを持ったりすることができた。

②　スタンプラリー

６月の読書週間の取組として，スタンプラリーを行った。期間中，本を借りるごとにスタンプラリーのカードにスタンプが押され，スタンプがたまると景品として図書委員が作成したしおりやぶんぶんごまなどがもらえる活動である。この活動で，図書室利用が増え，貸し出しカウンターに列を作ることもあった。

【スタンプラリーの様子】

③　読書クイズ

読書週間の取組として，読書クイズを行った。業間休みに図書室で図書委員が本に関するクイズを出し，参加した児童が答えた。

本に詳しい児童にとっては活躍の場となり，答えられなかった児童はクイズの後，出題された本を読んでいる姿が見られた。本に興味を持つ機会となった。

（４）　学校司書との連携

①　教科との関連コーナー

教室の関連図書コーナーに，学習内容と関連のある本を置いている。児童が学習に関する本を気軽に手に取ることができるようにしている。

②　帯の作成

４年生では，国語科で自分が好きな本のよさを紹介する活動として，本の帯を作成した。作成した帯を自分が紹介したい本に付け，教室に展示すると，帯を見て本を手に取る児童の姿が見られた。

この活動を通して，児童は好きな本の魅力が伝わるように，読み手を意識した短い言葉と絵を使った表現の仕方を考えることができた。

③　「おすすめの本」の紹介

５年生では，相手意識をもって自分の「おすすめの本」を紹介するために，各学級に，５年生が考え作成した「おすすめの本」コーナーを設置した。２年生には，生活科と関連付けて，世界中のいろいろな形のこまを紹介する本が設置された。

相手を意識した紹介ができ，紹介された児童も，本の紹介者に感想を伝えることができた。

## ３　おわりに

これらの取組により，本を通して友達間，異年齢間の触れ合いが生まれ，自分が興味を持っていた本だけではなく，様々な本に触れる機会を作ることができた。

「じょうぶな頭」「まあるい心」を育てる上で，読書は大きな役割を占めている。本校は今後，義務教育学校になるが，これらの取組を精選し引き継ぎながら，児童の豊かな心の成長のために，図書館教育を充実させていきたい。

分科会Ｂ　豊かな心を育み，読書の楽しさを味わわせる学校図書館

# 本につなぐ　本でつなぐ
# ～国語科における読書指導の工夫～

倉敷市立南中学校　教諭　　藤本　久美
教諭　　越智　友美

## １　はじめに

令和３年度から完全実施されている新中学校学習指導要領では，国語科の学習が読書活動に結び付くよう，〔知識及び技能〕に「読書」に関する指導事項を位置づけるとともに,「読むこと」の領域では，学校図書館（以下,「図書館」と言う）などを利用して様々な本などから情報を得て活用する言語活動例が示された。

以前から，中学校では朝読書，図書委員によるお薦め本の紹介,読書週間でのイベント活動などで読書活動を活発にするべく様々な取組が行われてきた。しかし,それらの取組の多くは,図書館に足を運ばなければ活用されず，一部の読書好きな生徒以外への，図書館に行きたくなるような動機付けが必要であると捉えていた。

そこで，国語の授業で,「生徒と本」「教室と図書館」をつなぐ言語活動を工夫し，生徒が学校図書館を,「読書センター」として積極的に活用する場であると意識付け，興味付けることをねらいとして，前任校の倉敷市立東中学校と，共同研究校である倉敷市立南中学校で，今回の取組を行った。

## ２　具体的な取組

（１）　計画

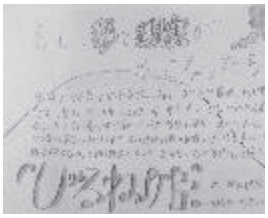
新中学校学習指導要領の読書に関する記述に即し，次のように言語活動を計画した。

| | | |
|---|---|---|
| １年 | 進んで読書をする | ポップ作り |
| ２年 | 読書を生活に役立てる | 帯作り |
| ３年 | 読書を通して自己を向上させる | ブックトーク |

（２）　南中学校１年生，東中学校１年生の取組「本のポップを作ろう」

南中学校では令和元年度１年生，東中学校では令和２年度１年生がポップ作りを行った。南中学校では，光村図書の教科書で，中学校１年生に薦める本の一覧や読書教材の指導と関連させ作成した。東中学校では,「星の花がふるころに」を学習した後，例としてあらすじを入れたものを作り，その後図書館でそれぞれ紹介したい本を選んで作らせた。

どちらも大きさはＢ６サイズを基本とし，内容を分かりやすく伝える言葉の選び方をワークシートで指導し，形を成型させたり，色や絵を工夫させたりして，作成させた。実際に図書館の本に並べて展示し，より多くの人に紹介した本が読まれることを目的として作ることで，図書館に行く生徒も増え，本を手に取る生徒も増えた。



（３）南中学校２年生の取組「本の帯を作ろう」

１年生で本のポップ作りをした生徒が，２年生では，本の帯を作る活動に取り組んだ。

国語の時間に図書館で本を選び，色画用紙を使い，実際に本に巻き付けられるよう，太さや文字の割り付けを考慮して作らせた。

１年生の時にポップを作っているので，読みたくなるようなキャッチコピーを考えることができ，本の表紙とマッチするようなデザインも考えて作成することができた。ポップよりも紙面が大きくなったことが，より工夫された作品作りにつながった。

また，図書館に生徒が書いた帯が巻かれた本が置かれることで,「教室」と「図書館」のつながりが強くなり，生徒が本を手に取る機

会が増えた。イラストや色使いに工夫のある，良い作品を紹介することで，アイデアが浮かばない生徒への参考になったことが，この授業の振り返りシートへの生徒の記述で分かった。

（3） 東中学校３年生の取組「ブックトーク」

東中学校３年生では，毎時間の国語の授業の最初に１人ずつブックトークを行った。ブックトークの用紙に「題名」「作者名」「紹介文」を記入させ，教材提示装置で本の表紙や紹介したいページを映しながら説明させた。紹介後は，本の表紙を写真に撮り，紹介文の横に貼り付け，クラス掲示した。

紹介文を読んだ後には，質問コーナーを設けた。お薦めのシーンや好きな登場人物，あらすじでもう少し聞きたいことなど，いろいろと手が挙がった。普段の授業では意欲的でない生徒でも，本を用意し，前で紹介することができた。紹介文を書いておくことで，前に出て話すことへの不安が軽減したようである。また，自分の好きな場面を読み聞かせしたり，挿絵を見せながら説明したりする生徒もいて，聞く側の生徒も興味をもって聞くことができ，楽しみな時間となった。１巡で終わる計画であったが，まだやりたいと生徒からの要望があり,継続性を重視することにし，卒業直前までかけて２巡目を行った。

また，掲示しておくことで，紹介文をじっくりと読むこともでき，次に読む本の選択肢としても参考にしていた。自分では選ばないようなジャンルや興味はあったが読めてなかった本の紹介を身近なクラスメイトからしてもらうことで，本を身近に感じることもできていた。生徒から生徒への言葉の有効性を感じることができた。

## 3　成果と課題

今回の２校３学年それぞれの実践では，国語科の授業を通して，「本と生徒」「授業と図書館」をつなぐ工夫について取り組んでみた。今までも図書館からの情報発信や呼びかけは熱心に行われていたが，授業で全ての生徒に関わることとして行うことで，双方向の結び付きのより有効な読書指導の一つとなることが分かった。また，東中学校と南中学校ではどちらも朝読書の時間を全校で設けているので，毎日読む本を全員が手元に置いている状態であることが，本の紹介のしやすさにつながっていると考えられる。本を読む時間が日常的にあることや，本を紹介するのが身近なクラスメイトであることなど，読書環境をより近しいものとして整えることが大切であることが改めて分かった。

また，それぞれの学年の指導内容の段階に即した言語活動を，３年間を見通して系統的，継続的に行うことで，「本と生徒」「授業と図書館」のつながりが強まり，図書館での様々な取組がより効果的に活用されていくと考えられる。今年度もそれぞれの学年で今回の取組を継承していきたい。

課題としては，「読書」の指導内容に対する評価が挙げられる。今回の取組は，作品と作成過程の活動の様子や記述内容を評価することができる。しかし，指導内容の「役立つことを理解する」「読書に生かす」「関わり方を支える読書の意義と効用について理解する」について評価するには，指導内容についてより振り返ることのできる項目を示した評価シートを作らなければならない。

また，GIGA スクール構想により，タブレット端末が生徒個人で自由に使えるようになってくると，インターネットでの検索と図書館での調べ学習のバランスや方法としての選択の仕方について，指導しなければならない。

## 4　おわりに

若者の活字離れが問題となり，年間の読書量は年々減ってきている。しかし，実際目の前の生徒は，小学校の「図書の時間」が楽しみだったと言い，朝読書の時間はそれぞれの本の世界に入り込んでいる。そして，自分の好きな本について語り，それを聞いてもらうことが好きである。時間や場の確保などの読書環境を整え，この生徒たちの「好き」を大切にして，国語科の読書指導に生かしていきたい。

分科会Ｂ　豊かな心を育み，読書の楽しさを味わわせる学校図書館

# ビブリオバトルについて

岡山県立邑久高等学校　教諭　　阿部　雅美

## １　はじめに

邑久高校のビブリオバトルの取組は平成24年に始まり，今年度で丁度10年になる。（令和元年度の決勝大会は中止）この10年の取組を振り返ってみたい。

私が平成23年に本校に赴任した時，図書室は本棚が林立し，昼なお薄暗く，利用者は少なかった。図書課長の私は，どうしたものかと途方に暮れたが，図書委員会の生徒の熱意に救われた。「大の本好き」の彼らは「みんなにも本を読んでほしい」という一心で様々な取組を発案し，活動した。彼らの熱意が現在のビブリオバトルへとつながっている。

## ２　図書室改造と図書委員会の活動

図書委員の最大の要望は「図書室を快適な空間にする」だった。これを受け，赤木かん子氏（図書館改造運動家）に依頼し，図書室の改造を行った。約半年をかけて，約３万８千冊の蔵書を全て点検し，古くなったものは廃棄し(約１万４千冊)，高校図書館になくても良いと判断したものは隣接する市民図書館に寄贈した。この活動には図書委員だけでなく，全校生徒・教職員が献身的に協力してくれた。

【改造前】

→

【改造後】

図書室の改造が完了するまで，全ての書籍を校内の様々な場所に一時避難させたため，生徒に貸し出す本がない状態になった。そこで，図書委員はそれぞれが選書した本を「学級文庫」として教室に持っていき，貸出した。また食堂にも漫画・ライトノベルなどを置き，閲覧と貸出しを行った。現在も学級文庫と食堂への配置は継続しており「サテライト図書館」となっている。

次の要望は「みんなに本を読ませたい」である。読書習慣がない生徒が70％という実態のなか，どうすれば関心を持ってもらえるのか。図書委員が導き出した答えは「読書は楽しいという体験を共有する」だった。かれらは様々な取組を実施したが，２つ取り上げたい。まずは「文学散歩」（H25～H28）である。岡山を舞台とする作品や歴史の地を巡る「文学散歩」は，事前に作品を読むことが条件であったため，図書委員以外の参加は稀であったが，遠足気分も味わえることから好評であった。

２つ目は「お菓子作り講習会」（H24～H29）である。「物語世界を体験しよう」をテーマにした「お菓子作り講習会」には，お菓子の出来上がりを待つ間に，取り上げた作品を読み，参加者同士が話し合う時間を設けていた。和気藹々と「好きなところ」を語り合う姿に，私は「ビブリオバトルができる」と確信した。当時の邑久高生は，本は読まないが，「創作」や「発表」を好む傾向があった。単に「目立ちたがり屋」が多かったのかもしれないが，読書体験の共有を喜んでくれそうな予感がした。

## ３　初代チャンプ本の誕生

第１回ビブリオバトルは図書委員と有志の参加で，放課後の図書室で行った。「そこにいる人に読みたいと思わせたらチャンプ本」という簡単な説明に，予想以上に生徒が集まった。バトラーの中に野球部の部長がおり，部員を動員したのだ。案の定，彼が紹介した漫画が初代チャンプ本に選ばれた。彼の名誉のために記しておくが，実に素晴らしい発表だった。彼は，「海戦」ものを取り上げたのだが，原稿を一切見ずに，時に数字をあげながら，堂々と語りきった

のである。「漫画」ということを意識させない素晴らしい発表であり，チャンプ本であった。

この第１回を受けて次年度から１，２年を対象とするビブリオバトルを実施した。

## ４　邑久高校のビブリオバトルの流れ

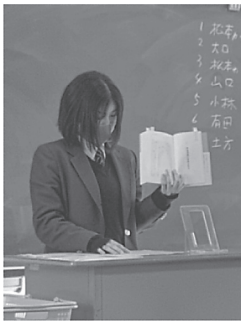
初代チャンプ本は「漫画」。本校では，現在も全ジャンルOKである。１番多いのはやはり小説だが，この10年の間に漫画・雑誌・写真集など様々な本が紹介された。

平成30年からは２年生のみを対象に実施している。（１年生は朗読大会に変更）入学時から，「読書シート」・「読書感想文」や「POP制作」を課題とし，読書に親しむよう促してきた。そして２年生の12月，いよいよビブリオバトル用の選書をする。現代文の授業の一環として，図書室に行き選書する。自宅の本が良いという生徒もいるが，「他の人が読みたいと思った時，図書室にないとがっかりする」と説明し，図書室の本から選書してもらう。

選書後,冬季休業課題として原稿作りに入る。５分の発表には1800字の原稿が必要だというと，大抵の生徒はうんざりした顔をする。1800字どころか400字にも満たない原稿を提出する生徒もいるが，普段から長文を書く経験が少ないので，長さは問わない。授業で「構成例」を示したりビブリオバトル公式サイトやYouTubeにupされた全国大会の様子を紹介したりしている。休み明けに完成していない生徒は，放課後，図書室に残して書かせている。

原稿が出揃うのを待ち，１月末から２月初めに，授業を使って班代表を選出する。クラスを６班に分け，班ごとに原稿を回し読みさせ，班代表１本を選出する。今年度は提出された原稿に通し番号を付け，組・氏名などを消し，加えて他クラスの生徒の原稿を読ませた。誰の原稿か分からない方が純粋且つ公平に選出できるのではないかと考えたからだ。

班代表選出後，選出された生徒に原稿を返却し，LHRでのクラス予選会（１～２週間後）に向け，手直しを指示する。選ばれた生徒は「なぜ自分が」と嫌がるが，「書いた文章が良かったから」と褒めると，まんざらでもない表情を浮かべる。予選会では原稿を見ながら読み上げても良く，この段階では全ての生徒が読み上げる。クラス代表は１名とし，担任と生徒の投票によって選出される。



３月中旬に決勝大会を行う。新型コロナ感染症流行以前は体育館に１，２年生が集まり実施していた。教材提示装置を使い，体育館ステージ上のスクリーンに，紹介本を映し出している。

【体育館実施の様子】

【リモート視聴の様子】

今年度はリモート開催にせざるを得なかった。不安もあったが，教室にいる教員から，音声・映像とも安定しており，集中できたと聞き安堵した。また全バトラーが，原稿を見ずにカメラに向かって語りかけるように発表できたという成果もあった。

## ５　おわりに

この10年を振り返ると，生徒に感謝せずにはいられない。「快適な空間を」という生徒の声と献身によって，図書室は明るい憩いの場であり、授業で使える空間になった。また，ビブリオバトルに関しては，岡山や広島で開催される県大会や中国大会に何度も出場し，引率教員の私は発表を楽しみ，経験を積むことができた。最近では瀬戸内市民図書館主催の大会のバトラーや運営ボランティアとして参加する生徒も出始めた。こうした生徒の取組は，地域に温かく受け入れられ，市民図書館では，生徒が紹介した本を「特設展示」したり、邑久高の取組を展示する場を提供してくださっている。そして、邑久高校にLHRで「代表選出」の時間を設定するなど，教科の枠を超えて読書活動を支援する体制があることに感謝し、誇りに思う今日この頃である。

# 指導助言－分科会Ｂ
## 『豊かな心を育み，読書の楽しさを味わわせる学校図書館』

指導助言者　　岡山県立津山東高等学校　校長　園田　哲郎

今回指導助言のお話をいただき，私が勝山高校に勤務していた時にリニューアルされ，生徒が大変お世話になった真庭市立図書館でみなさんとお目にかかれることをとても楽しみにしていましたが，誌上大会となってしまい少し残念に思っています。しかし，レポートで皆さんの優れた取組に接することができ，自分自身の研修にもなりました。指導助言といえるほどのコメントはできませんが，感想を述べさせていただきます。

瀬戸内市立牛窓北小学校の取組は，「本の福袋」や図書室への作品展示など，なるほどその手があるかと感心させられるアイデアがたくさんありました。読書に親しむ機会を増やすためには，これをやっておけば大丈夫という取組はなく，「一つの工夫で一人の読書好きが増えたら成功」くらいの心持ちで引き出しを増やしていくしかないのかもしれません。その分図書館に関わる先生方のご苦労が増えてしまうと思いますが，とてもやりがいのある仕事だとも感じます。また，美咲町立旭小学校の取組で特に印象に残ったのは，中学生による読み聞かせの取組です。これは小学生と中学生の双方に大きなメリットがあるのではと感じました。令和５年に義務教育学校としての開校を目指されているとのことで，新しい学校づくりの核の一つにもなる取組ではと期待を持ちました。

倉敷市立南中学校と東中学校の取組は，生徒がポップや帯を実際に作成するにあたり，言葉の選び方や文字の大きさ，割り付けなどを先生方がていねいに指導されていることがうかがえました。完成度の高いものを作ることが生徒の達成感の高まりにつながっているように思えます。また，振り返りシートを活用されているとのことで，疎かになりがちな評価の部分をきちんとされているところにも感心しました。ブックトークは，ともすれば一方的なものになりがちだと思いますが，「お薦めのシーンはどこですか」といった質問が出やすいような雰囲気で進められているようで，学校ならではの対話的な学びがなされているのではないでしょうか。まだやりたい，と生徒から要望が出るような活動は理想的だと思います。私も国語の教師ですが，国語科の指導に位置づけて取り組むことで，平素の授業でも応用できるようなさまざまな利点があるのではと推察します。

岡山県立邑久高等学校の取組は，まず「図書室を快適な空間に」という素敵な願いから始まり，学校全体を巻き込んだ図書室改造へと発展しているところが素晴らしいと思いました。空間の大切さの気づきは，生徒の生涯にわたって有益なものになったのではないでしょうか。図書室改造時の緊急避難的な工夫がサテライト図書館につながったというのも，実践された学校ならではのエピソードですね。また，ビブリオバトルの流れのご説明からは，本に親しむという目的にとどまらず，表現力などさまざまな資質・能力の向上につながる取組であることがうかがえました。原稿を見ずにカメラに語りかけるというのは，私も昨今始業式や終業式の式辞をリモートでカメラに向かって語りかけるのですが，なかなか難しく，コツを教えてもらいに行きたいくらいです。市民図書館で自分の紹介本が特設展示されていることは，生徒も誇らしく思っていることでしょう。

ところで，今回会場になるはずだった真庭市立図書館には，谷崎潤一郎の立派な特設コーナーがあります。谷崎が終戦前後の一時期勝山に疎開していたことに因むものです。私は谷崎研究者の千葉俊二先生（現：早稲田大学名誉教授）のゼミ生であった関係で，千葉先生から，「細雪」下巻の幻想的な蛍狩りの描写は谷崎が今の勝山高校周辺を散策した時の経験に基づくという説が有力であ

ることなどを教えていただきました。そのことを勝山高校の図書館だよりで紹介したところ，生徒の保護者でもある市立図書館員さんがその文を谷崎コーナーに掲示してくださり，恥ずかしい中にもうれしい思いをしました。図書館と関われることは，誰にとっても，いくつになってもうれしいものです。そしてこのことは今回の４つのご発表といくらか共通点があるようにも思います。

今回のご発表はいずれも，活発な読書活動や学校図書館の整備により，児童生徒の豊かな心を育み，読書の楽しさを味わわせることにつなげている，大変すばらしい取組ばかりであったと思います。各校の先生におかれましては，図書委員はじめ児童生徒や同僚の先生方と連携をとっていただき，学校図書館の積極的な活用に向けて中心となって取り組んでいただくことを期待しています。

分科会Ｃ　主体的に学ぶ力を育てる学校図書館

# 主体的な学びにおける学校図書館活用・司書との連携のあり方

岡山市立御野小学校　教諭　　西森　友美

## １　はじめに

まず，主体的な学びについては，中学校区で次のような子どもの姿を共有している。「進んで本を探している」「（授業の中で獲得した読みを活用して）同じ視点で読んでいる」「自分の考えを吟味している」姿である。

現状としては，図書の時間に本の返却・貸し出しで使用したり，たまに司書による読み聞かせが行われたりといった程度の図書館活用にとどまっている。また，学習活動に必要な本について用意を依頼する程度の司書との連携にとどまっている。このように，授業とのつながりを考えることなく，司書に任せきりの状態を続けていては，主体的に学ぶ子どもの姿を引き出すことはできない。

そこで，司書と協働で授業デザインを行っていくことで，主体的に学ぶ子どもの姿を引き出すことができるのではないかと考えた。まずは，国語科にしぼった授業づくりによる取組を進めていくこととした。

## ２　具体的な取組

（１）　学校図書館活用をめざした取組

学校図書館は，授業と結び付けて考えることで，主体的な学びを引き出す場として活用することができると考え，取組を進めた。

①　授業の導入の場としての活用

ア　短歌・俳句への親しみ

「きせつの言葉」「短歌・俳句に親しもう」（光村図書４年）の２つの単元を合わせて授業デザインを行った。導入で，教科書の短歌や俳句にいきなり触れると，興味・関心をもつことができないと考え，まずは図書館にある多様な本を読む中で，自分のお気に入りの短歌や俳句を探すという活動を取り入れた。なぜ気に入ったのか，どんな言葉にひかれたのかなど友達と交流することで，季節を表す言葉に注目したり，歌人や俳人の書きぶりに感動したりするなど，短歌や俳句に興味を示す子どもが多く見られた。その後，短歌や俳句の本を進んで借りたり，季節を表す言葉を入れた俳句を作ったりする子どもが多く見られた。

このことから，授業の導入で図書館にある本に触れる活動を取り入れてから，教科書の短歌や俳句について学習したことで，短歌や俳句に親しみをもって学びを進める子どもの姿を引き出すことができたと考える。

イ　図書の分類への気付き

単元は，「図書館へ行こう」（光村図書４年）である。図書館の中を実際に見て歩くことで，本がどのように分類されているのか，なぜそのような分類になっているのかを考えるという授業デザインを行った。図書館で授業を行ったことで，多様な本を手に取って考えたり，話し合いで出てきた気付きについてその場で確かめたりすることができた。また，疑問が生じた場合も，その場で司書に尋ねることができるため，すぐに解決を図ることができた。

このことから，実際に図書館という場を活用しながら授業を進めたことで，図書の分類について経験と知識とを結び付けながら，理解を深めることができたと考える。

②　授業のゴールとしての活用

単元は，「筆者の考えから，自分の考えを広げよう」である。中心教材の『数え方を生みだそう』（東京書籍４年）で，筆者の考えを読み取り，それに対する自分の考えを広げていくという力を身に付け，その力を活用して何冊かの本を読んでいくという授業デザインを行った。ジグソー法を活用して，言葉に対する筆者の考えが書かれた４冊の本を分担して読み取り，それぞれが読み取った筆者の考えを班で共有し，「言葉」に対して筆者たちがどう考えているのかを話し合うという活動を進めた。この授業後に，図書の時間を設定する

と，「言葉」に対する本が他にないかと，進んで関連図書を探す子どもの姿が見られた。

このことから，中心教材をもとに図書館の本を活用した授業を進めることで，関連図書に関心をもち，本を探す子どもの姿を引き出すことができたと考える。

（2） 司書との連携をめざした取組

司書は，協働で授業をつくっていく存在であるという視点をもって連携して授業づくりを進めていくことで，主体的に学ぶ子どもの姿を引き出すことができると考え，取組を進めた。

① 授業のねらいに沿った本の選定

授業者が単元で身に付けさせたい力，すなわち授業におけるねらいを明確にして，そのねらいを司書と共有することがまず必要であると考える。その上で，ふさわしい本はどれなのかを協働で吟味して選定することで，授業で身に付けた力を図書館の本を活用してより深めることができ，主体的な学びを引き出すことができると考えた。

取組としては，単元「きょうみをもったところを中心に，しょうかいしよう」中心教材『ウナギのなぞを追って』(光村図書４年)と，(１)②で述べた単元における授業である。どちらの単元においても，筆者の考えを読み取り，それに対して自分がどう考えるかを友達と共有することをねらいとしている。このねらいを達成できそうな本がどれなのかを司書と協働で選定した。まずは，教科書に挙げられている参考本を検討し，筆者の考えを読み取ることが難しそうな本は外して，図書館にある他の本を加えた。学校図書館に適当な本がない時には，他の小学校や市・県立図書館の本を検索し，検討を重ねて選定した。その結果，いずれの単元においても，子どもたちが自分で筆者の考えを読み取り，それに対する自分の考えを友達と共有する姿を見ることができた。

このことから，授業のねらいを共有し，その達成をめざした本を選定することで，授業で身に付けた読みの視点を活用した読み方を進めることができたと考える。

② 必要な本の収集

授業者と司書が協働で本を選定する際，学校の図書館だけでは十分に本がそろわないという問題が生じることがあった。その際には，他の小学校や，市・県立図書館から収集したり，必要な本を購入したりした。(１)②で述べた，ジグソー法を活用した授業を進める際には，同じ本が何冊も必要となるため，全員に本が行き渡るように，司書が多様な場所から本を収集した。このようにして必要な本を準備して授業をした結果，子どもたちが一斉に本を読むことができ，ねらいの達成をめざした授業を進めることができた。

このことから，司書が他の小学校や図書館とつながり，授業で身に付けさせたい力に合わせて必要な本を収集することで，ねらいの達成をめざすことができたと考える。

## ３ おわりに

まず重要なことは，ねらいを明確にした授業における学校図書館の活用である。ねらいを達成するために，どの場面で学校図書館を活用することが有効なのか，どう授業とつながりをもたせることで，身に付けた力を活用することができるのかといった視点をもちながら，授業デザインを行い，学校図書館を活用していくことを今後もめざしていきたい。

次に重要なことは，その活用において，司書は協働で授業を進めていく存在であるという視点をもつことである。授業におけるねらいを共有した上で，司書にしかできない専門性を生かして本の提案をしたり，必要な本の収集をしたりすることで，授業者とともに，ねらいの達成をめざした授業をつくり上げることができると考える。ただし，大量の本の収集については，司書の手間を考えると，難しい場合もある。そこで，１人１台端末によるデータ活用をすることで，その手間の解消を図り，ねらいの達成を図ることも視野に入れて授業デザインを行っていきたい。

以上のことから，ねらいを明確にして学校図書館を活用したり，司書と連携したりすることで，主体的に学ぶ子どもの姿を十分引き出すことができると考える。今後は，他教科やその他の教育活動における学校図書館活用・司書との連携のあり方についても探っていきたい。

分科会Ｃ　主体的に学ぶ力を育てる学校図書館

# 主体的な学びを生み出す授業づくり
# ～学校司書と連携した学習を通して～

岡山市立牧石小学校　教諭　　山内　祐子
学校司書　武中　陽子

## １　はじめに

「心豊かに自ら学ぶ児童の育成」という本校の学校教育目標のもと，図書館教育においては「図書館資料を活用した学習活動を通じて，自ら課題を見つけ，解決できる力を育てる」「読書体験を通して，様々な感情や知識を得ることのよさを児童自ら体感することで，読書の楽しさや喜びを味わえるようにする」「図書館という公共の場での，規範意識を育てる」を目標に掲げ，研究実践を重ねている。

これまでの研究の成果として，日常生活や児童にとって身近な話題の中から取り上げた学習対象に対して，児童一人一人が課題意識をもち，主体的に解決する姿が見られるようになったことが挙げられる。しかし，学習や単元の最後に自分の成長や変容に気付く児童に差が見られ，次時に向かう意欲に課題がみられた。

そこで，本校では，「主体的な学びを生み出す授業づくり～学校司書と連携した学習を通して～」を主題に，研究を進めることにした。研究の視点を①学習過程の工夫（学習意欲を引き出す導入の工夫，知識及び技能を習得するための工夫）②深い学びにつながる指導方法の工夫（思考を促す指導方法の工夫，言語活動の充実を図る指導方法の工夫）③成長への気付きを促す指導方法の工夫（まとめと振り返りの場の設定，評価方法の工夫）とし，国語科を中心に授業実践を行った。

授業者と学校司書が学習内容に関することを相談しながら単元の流れを考えることで，児童にとって図書館が読書活動の場として，また主体的な学びの場として一層身近な存在になることをねらった。

## ２　具体的な取組

単元名　すきなところを見つけよう
（中心学習材）「スイミー」（東京書籍１年下）

（１）　単元について

中心教材「スイミー」は，絵本「スイミー」を教材化したもので，情景やスイミーの気持ちの変化が時間軸に沿って簡潔な文章と色彩豊かな絵で描かれている。話の展開のおもしろさを味わい，物語の構成に気付くことができる。この単元では，「スイミー」の教材を学習することを通して，つけた力を使って，児童が自ら絵本を選び，絵本を読むおもしろさを味わったり，他のレオ＝レオニの作品についても，読書をするおもしろさを味わわせることで，日常の読書につないだりできることを目指した。

（２）　単元目標

・身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うことを通して語彙を豊かにすることができる。
・同じ作者の絵本の題名や表紙に目を向ける活動を通して，本を選ぶ方法を知ることができる。　【知識及び技能】
・スイミーの行動や会話をもとに，気持ちや様子を想像しながら読むことができる。　【思考力・判断力・表現力】
・図書館で絵本の作者，題名や表紙などから本を選んだり，絵本の絵や言葉から想像して読んだりして，本に親しみ，いろいろな本を読もうとする。　【学びに向かう力・人間性等】

（３）　授業の実際（全 11 時間）

①　第１次（２時間）

・導入に大型絵本「スイミー」の読み聞かせをすることで，絵本の題名や表紙に目を向けさせ，絵本を読みたくなる気持ちを喚起できるようにした。
・絵と文章から絵本「スイミー」の世界を

楽しませ，第２次からより深く読んでいくためのめあてをもたせた。

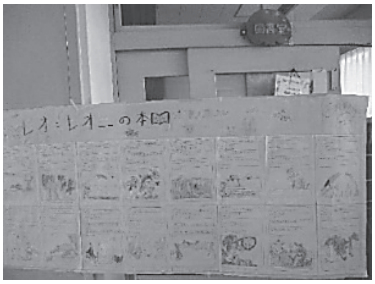
② 第２次（６時間）

・スイミーの気持ちや様子を場面ごとに読み取り，事件が起こってから解決していくまでの流れをつかむことで，話の展開のおもしろさに気付かせた。

③ 第３次（３時間）

・「スイミー」と同じ作者，同じ展開の作品を３作品用意し，題名や表紙から絵本を選ぶこと，心が動いたおもしろいところ（お気に入り）を見つけることを視点として読む活動を取り入れた。

・自分が選んだ本のおもしろいところを紹介カードに書き，図書館に掲示することで全校児童にレオ＝レオニの作品の良さを伝えることができるようにした。



④ 課外

・学校司書が，図書の時間に行う読み聞かせの際には「スイミー」のように起承転結がある，違う作者の絵本を用意し，違う展開のおもしろさを感じられるようにした。

・図書館に「スイミー」の作者である，レオ＝レオニの作品のコーナーを設け，児童が自由に読めるようにした。教室にも同じ本を用意し，いつでも手にとることができ，友達と思いや考えを共有できるようにした。

（４） 授業を終えて

「スイミー」で学習したことを活かして，題名や表紙をもとにいろいろな本への興味がもてるような授業を行うことで，児童たちが読書の楽しさを感じたり，読書の幅を広げたりする姿が見られた。また，自分が読んだ本の良さを友達に伝えるためにじっくり本と向き合い，言葉を選んで文や絵をかくことで，読書の質が深化した。本単元の学習が終わった後も，絵本に進んで親しむ児童が多くみられた。本との出会いの工夫も大切だ。

読書が好きな児童は，想像しながら読んだり，展開のおもしろさに気付いたりと読書の楽しさをよく知っている。しかし，読書があまり好きではない児童は，学校司書や担任による読み聞かせによって，話の楽しさが伝わり，自分でも借りて読んでみようと思うことがある。どの児童もわくわくするような内容である選書，読み聞かせの大切さを感じた。

今回は１年生の実践だったが，各学年の国語の教科書には，該当学年の児童に合った本を紹介している内容紙面が載っている。学年が上がるごとに内容が難しいものになっていくが，今回のように１年生から丁寧に読書の楽しさを味わえるような授業を行うことが，次の学年での読書意欲へつながっていくと感じた。また，読書の楽しさを感じる児童に育てることで，文章に主体的に向き合い，内容を読解する力も身につけさせていくことができるのではないかと考える。

今後は，各学年で「読むこと」に関する内容について学校司書と連携した授業づくりの体制を一層整えていくことが課題である。

## ３ おわりに

今回の実践を通して，児童が目を輝かせながら本に向かう姿をたくさん見ることができ，改めて学校司書と連携した授業の効果や図書の時間の大切さを感じた。読み聞かせを始める前に自分がどの場面が好きかを考えながら聞くよう児童に問いかけ，更に，児童が本の良さを友達に自ら伝えるという流れが国語の「読むこと」に関する主体的な学びの力につながる。今後も，学校司書と必要な資料を効果的に活用できるよう事前に話し合い，連携を深めながら，さらなる充実を探っていきたい。

分科会Ｃ　主体的に学ぶ力を育てる学校図書館

# 主体的に学び合う授業を支える学校図書館

岡山市立岡北中学校　指導教諭　利守　雅行
学校司書　羽原　祐子

## １　はじめに

岡山市立岡北中学校では「主体的に学び合う授業を支える学校図書館」を研究テーマとして令和２年度を中心に様々な教科，領域において授業実践に取り組んできた。

授業実践においては，学校図書館の機能である情報の収集，選択，活用能力を育てる活動を取り入れ，生徒が自分の考えをまとめ，表現する主体的な学習や学び合いを支援する授業を進めていくことについて教職員で共通理解した。

## ２　具体的な取組

（１）　授業実践１　国語科「鑑賞文（第１学年）」（図書館使用３時間）

本実践では図書館で調べたことを整理し，根拠を明確にした鑑賞文を書き，それを読み合い，助言し合うことを通して，自分の文章についてよい点や改善点を見出すことをねらいとした。

【授業の流れ】

①　鑑賞するということや鑑賞の４つのポイント，鑑賞文を書く手順について学習した。また，教科書に掲載されている鑑賞文の例を使って鑑賞のポイントが文章の中でどう生かされているかについて確認した。

②　図書館の資料（公共図書館から 80 冊借受）の中から興味をもった芸術作品について，４つの鑑賞のポイント「作品全体から受けた印象」「どんな場面，何が起こっているのか」「作品のしくみや技法の分析，表現の工夫や特徴」「作者の思い，伝えたかったこと」にそって調べる活動に取り組んだ。

学校司書と事前に打ち合わせを行い，この授業では取り上げる芸術作品を「絵画，彫刻，建築物」の３分野に絞り込み，資料を準備した。調べたことをレポートにまとめる活動の前に，資料案内，調べ方，関連本の紹介，出典の書き方などについて学校司書が説明を行った。

③　レポートにまとめたものを材料にして，鑑賞文を書く活動に取り組んだ。作成にあたって，調べた事柄を鑑賞の根拠として明確に表すことに重点をおいた。根拠の意味を押さえたり，既習の三角ロジックの内容を再確認したりして取り組んだ。

④　書き上げた鑑賞文をグループで読み合い，読み手がよい点や根拠をより明確にするためのアドバイスを記述した。生徒のアドバイスには，「文章の構成がわかりやすい。」「問いかけの表現がおもしろい。」「説明が詳しくてよい。」「自分の感想や考えをもう少し入れたほうがいい。」「大切な言葉を繰り返しているところがいい。」「作者の説明より，鑑賞した絵の説明が多い方が分かりやすい。」等があった。

読み手も他者の鑑賞文から自分とは違う見方を学び，また書き手もアドバイスをもらい自身の文章を見つめ直すなど，学び合いの姿があった。自分が興味をもった題材で取り組み，書いた鑑賞文であるので，意見の交流がより深められるものになったと思う。

⑤　最後に，書かれてある助言をもとに自分の鑑賞文のよい点，改善点を検討し，それらを取り入れながら鑑賞文を清書した。そこには，他者の意見や考えに進んで関わり，問題点や情報の共有などを通して一緒に新しい知識を得る学びがあったと思う。

【授業を終えて】

興味をもった芸術作品について調べることで意欲をもってスタートし，鑑賞文を書くというゴールに向けて，見通しをもちながら自ら学んでいく活動となった。

（２）　授業実践２　国語科「俳句の世界／俳句十句（第３学年）」（図書館使用 10 時間）

本実践では自力での俳句鑑賞，鑑賞の観

点を踏まえた俳句の創作に取り組んだ。

【授業の流れ】

① 国語の教科書に掲載されている俳句から１句を選び，表現上の工夫や作品の解釈に注意しながら,「印象に残ったこと,五感(視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚)，誰と誰が，いつ，どこで，どのような様子，季語(季節)表現方法」等について自分の言葉でまとめ，その内容をもとに鑑賞文を書く。

② 同じ俳句を選んだ生徒同士で鑑賞文を読み比べる。次に図書館の資料（公共図書館や他校から 56 冊借受）にある鑑賞文と自分の鑑賞文を比べ，参考になった所や新たな発見があった点を見つける。その際，学校司書が関連本の紹介，調べ方の説明を行う。

③ 分析した観点を参考にして俳句を創作する。工夫した点やアピールポイント，鑑賞文も書く。

④ 創作した俳句で，班対抗の俳句甲子園を行う。(今回は４人班のうち一句を選び対戦)

・対戦例「一窓にたわむれる子の霙かな」
「祖父の庭せのびしほおばるゆすらうめ」

【授業を終えて】

教科書掲載の俳句を鑑賞する際，生徒自身が考えた鑑賞文と図書館の資料に載っている鑑賞文を比較することで視点の違いに気づく。それが主体的な学びにつながっていくのではないか。さらに，俳句を創作する場面では歳時記（公共図書館から 80 冊借受）が役に立った。

また，俳句の創作は個人の作業だが，周りの生徒とお互いの作品を比較しながら，「この季語はどうかな。」「この表現方法を使ってみてはどうかな。」と，自然発生的な学び合いが生まれていた。生徒も,「図書館の資料やクラスの人が考えた俳句の鑑賞文を読み合うことで，違った見方を知ることができおもしろかった。」と感想をまとめていた。

（３） 授業実践３　英語科「My Favorite Words 心にひびくことば(第３学年)」(図書館使用１時間)

本実践では自分の気に入った言葉を見つけ，それを英語で表現することをめざした。

【授業の流れ】

① 図書館の資料から，自分の気に入った言葉を探す。

②「いつ，どこで，誰が言った言葉か，その人はどんな人か，なぜその言葉が好きなのか」等を英語でまとめる。

【授業を終えて】

限られた時間の中であったが，生徒たちは自分の好きな言葉を見つけることはできていた。しかし，英語で説明するという点についてはスローラーナーには厳しい場面もあった。

格言，名言を言った人の特徴を調べる際には，事前に準備した本（公共図書館から 25 冊借受）以外の図書館の資料を使用する生徒もいた。その際，学校司書は「こんなのもあるよ。」と参考になる本を紹介した。生徒は自分の求める（好みに合った）本を紹介されることで，英語の苦手な生徒も含め，進んでライティングや情報収集に取り組めていた。

図書館の資料には，格言と合わせてエピソードやわかりやすく英訳が載っているものもあり，英語が苦手な生徒も参考にしながら主体的に学ぼうとする姿が見られた。

（４） その他の授業実践

家庭科「絵本づくり（第２学年)」，国語科「新聞記事の読み比べ（第３学年)」，社会科と国語科の合科「SDGｓ新聞の作成(第３学年)」なども学校図書館を活用して授業実践を行った。

## ３　終わりに

主体的な学びにおいては，生徒自らが学ぶ気持ちになること（学ぼうとする意欲や学びの見通しをもつこと),そして学んだことの中から自分の意見を確立することが大切であると考える。また，自分の意見を持つことは他者との学び合いにおいても重要になる。

このような学習を行うためには，学校図書館の幅広く多様な資料の活用，授業内容や生徒の学習状況を把握し，関連資料を的確に提供する学校司書の役割が必要である。そして，授業者との綿密な連携も欠かせないと思った。

今後は探究的な学びについても視野に入れながら，学校図書館の機能を活用した魅力ある授業づくりに取り組んでいきたい。

分科会Ｃ　主体的に学ぶ力を育てる学校図書館

# 興味を広げる図書館
# ～いろいろな工夫～

津山市立北陵中学校　　教諭　　市村　舞子

## １　はじめに

本校は津山の中心市街地東部から北部にかけ，南北に細長い半扇形の地域を学区としており，学級数 21 学級，生徒数 612 人の学校である。「豊かな人間性を培い，主体的，創造的に自己実現をめざす，心身ともにたくましい生徒を育てる」という学校教育目標のもと，研究主題を「自己実現をめざす生徒の育成」と設定し，生徒一人ひとりの自己実現のために必要な基礎的・汎用的な能力の育成をめざしている。

生徒は，全体的に落ち着いて学習に取り組めており，生徒会活動や部活動にも積極的に取り組むことができている。しかし，語彙力不足から自分の考えを文章で表現するなどコミュニケーションが苦手な生徒や，長文の読解を苦手とする生徒も多い。そこで，生徒同士が教え合える，学び合える機会を積極的に設けている。例えば体育祭のブロック制度，学年を跨いだ縦割りの教え合い学習，近隣の高校生とも連携を図り，放課後に先輩から教えてもらえる補充教室などがある。同学年の横の繋がりだけでなく，先輩と後輩の縦の繋がりができる機会となっている。また，研究指定を受けた NIE を活用しながら，各教科での学習が実生活と結びつくよう工夫している。

本校の図書館は学校司書が常駐しており，毎休み時間，放課後に開館している。平成 30 年度に漸く貸出しや蔵書のコンピュータ管理ができるようになった。生徒たちは本の貸出しは勿論，読書のためや自主勉強のために利用している。昨年度の貸出し総冊数は 9,226 冊で，１日平均 50 冊ほどである。

## ２　具体的な取組

（１）　委員会

委員会の活動は月に一度の専門委員会をふまえ，内容を決めている。

①　朝読書チェック

週に一度(金曜日)朝読書にきちんと取り組めているかをチェックし，担任，学年の委員会担当の先生に表を提出している。内容は，「時間通りに始めているか」「本を準備し読書できているか」「別のことをしていないか」などがある。３年生は朝学習に取り組んでいるので，学習ができているかをチェックする。朝学習が早くすんだ生徒は朝読書をしている。

また，各クラスに図書館から貸出している学級文庫があるので，その管理も併せてしている。

②　図書館のカウンター当番

昼休みに，カウンターの仕事を学校司書に代わって行っている。前期は３年生が担当し，後期は２年生が引き継ぐ。貸出しの作業や，返却本の整理などを行う。

③　学年ごとの企画

学年ごとに文化委員が工夫を凝らし，読書や図書館利用へ，興味を持ってもらう企画を考えている。ポスターや新聞の作成だけでなく，各学年で「本を読もうキャンペーン」などを行い，各クラスが競うことで，参加意識を高める。昨年度まで前期・後期，各学年１回ずつ企画を行っていたが，今年度は読書週間（年２回６月・11 月）などを利用して全校での企画も予定している。

（２）　授業

Ｒ２年度は新型コロナウイルス感染症流行のため，なかなか実施が難しかったが，何度か授業で図書館や図書館の本を利用し，調べ学習などをすることができた。

１年生では，お勧めの本の POP の作成や，職業調べを行い，３年生では国語で学習した論語の中から自分の好きな言葉を探した。

職業調べや論語を調べる際，学校司書に手配を頼み，近隣の図書館から関係図書を借り

た。職業や，論語に関する本は１人に２冊ほど集めることができ，自分で選択する幅が広がり,生徒たちも積極的に本選びをしていた。

授業で図書館を使用することによって，いつもは図書館に向かわない生徒も本を借りたり，読んだりしており，図書館利用に興味がわいたようである。

（３） その他の取組

昨年度,一昨年度と NIE の研究指定を受け,生徒たちに新聞への関心を持ってもらう機会を設けてきた。情報活用能力及び思考力・判断力・表現力等の育成を目指すとともに，学びを実社会や実生活につなげていくことを目的として NIE の実践に取り組んでいる。

最近は新聞を購読している家庭が半数ほどになっており，新聞離れが感じられる。新聞を利用した授業を行ったり，校内でも新聞の記事を掲示したりすることにより，図書館に来た際，新聞を手に取る機会としている。

また，図書館独自の読書スタンプカードを作った。貸出しの際にスタンプを押し，18 スタンプでしおりなどのプレゼントが貰える。特に図書館をよく利用している生徒に好評だった。

## ３ おわりに

Ｒ２年度は，前年度まで行っていた少年・少女漫画の貸出しを止めたことで，全体的な貸出総数は減少したが，他分類の貸出数が伸びた。科学漫画や歴史漫画は引き続き貸出し，ドラえもん社会・科学ワールドシリーズなど，中学生が読みやすい本を増やすことで貸出数が増加した。

（１） 読書アンケートより

昨年度の２学期，全校生徒に読書アンケートを実施した。結果を見てみると，図書館を利用する生徒は全体の６割ほどと決して多くはなく，１ ヶ月の読書量も全体の４分の１は１冊も読み終えることができないと回答している。また，読書が嫌いだと回答した生徒も全体の４分の１いる。しかし，読書は必要だと感じている生徒は８割と多い。

アンケートを行うことにより，生徒の読書の実態を知ることができた。アンケート結果は教室にも掲示し，生徒たちも意識することができた。また生徒たちの好きなジャンルの本もわかったので，選書の参考にしたい。アンケートは毎年行い，図書館を利用しない生徒に理由を尋ねるなど，今後の図書館運営に活かしていきたい。

（２） 成果と課題

Ｒ２年度は４月，５月に休校があったために，毎年行っている年度始めの図書館オリエンテーションが行えない学年があった。朝読書もなく，図書館利用や読書から離れてしまった生徒もいると感じた。そのような中で，図書館の館内整理を積極的に行い，古い本を廃棄した。学級文庫もそうだが，本が古く，分厚いものが多いと難しそうだと手に取らない生徒が多い。読書が苦手な生徒も手に取りやすいよう，中学生向けの本を増やした。また，本の購入希望にはできる限り応え，津山市立図書館や岡山県立図書館などからも借りて貸出しするようにした。加えて，図書館展示の工夫として，机上の展示を増やした。表紙が見えることで興味がわき，普段は手に取られない本でも，図書館内で読んだり，借りられたりすることが増えた。一昨年度より新たに始めた，委員会のカウンター当番のおかげで，学校司書が生徒からの質問や相談を受けやすくなり，生徒との会話から中学生の流行り，興味あるもの，どんな本を読みたいかを知ることができた。全体として，落ち着いた利用ができたので，休み時間など１年生も利用しやすかったのではないだろうか。

今年度は，委員会だけでなく，図書館イベントとして前年度人気だった読書スタンプ集めも引き続き実施したい。クラス内での連絡だけでは実際に図書館まで足が向かない生徒もいるので，授業での利用や校内にポスターを貼るなど図書館の PR もしていく。

現在図書館には新聞４紙が入っているが，読む生徒は少ない。新聞の活用を増やすため，昨年度は文化新聞で紹介した。今年度も委員会での企画に組み込んでいきたい。

生徒一人ひとりの自己実現のために必要な知識や経験は，様々な場面で得ることができる。図書館もその一端を担っており，いろいろな分野や世界に興味を持つ，初めの一歩にもなるが，まずは図書館に来てもらうことが必要である。そのために，様々な工夫を凝らし，図書館利用の機会につなげたい。

分科会Ｃ　主体的に学ぶ力を育てる学校図書館

# ニーズに応える学校図書館づくり～倉敷中央高校の取り組み～

岡山県立倉敷中央高等学校　司書　　古賀　美佳子

## １　はじめに

本校には，普通科（類型・子どもコース・健康スポーツコース），家政科，看護科，福祉科の４科と看護専攻科がある。昨年度から普通科が１クラス減となり，今年度は１年と２年が７クラス，３年８クラス，専攻科２クラスの計 24 クラス，933 名が在籍している。共学ではあるが，男子は少なく，今年度入学者は２名，全校あわせて 13 名である。

図書館は中央棟４階にあるが，昼休みや放課後だけでなく，休み時間にも図書館を利用する生徒は多い。特に利用が多いのは課題研究の資料を利用する看護科・専攻科と日頃部活動で頑張っている健康スポーツコースの生徒である。

## ２　課題

赴任してきた当初，生徒の利用はそれなりにあるものの，貸出ジャンルはケータイ小説やコミックが大半であった。また，教職員の利用は少なかった。図書室内に季節や時事に応じたミニ展示コーナーを設置してみたがあまり反応はなかった。一方で「何かおもしろい本がないですか？」という質問はよく受けていたので，まずは，教職員，生徒ともにニーズを把握することが必要だと感じた。さらに情報発信することで，図書館をもっと身近に感じてもらい，利用の必要性を周知しようと考えた。

## ３　具体的な取組

（１）　生徒に対して

①　情報収集

本校図書館は１棟と２棟をつなぐ中央棟と呼ばれる場所に位置しているので，教室移動等で図書館を通り抜ける生徒も多い。その生徒たちに声をかけ雑談をすることで，今関心をもっていること，必要としていることなどを情報収集した。

②　１年生への利用案内

本校では１年生の図書館オリエンテーションを実質２回行っている。まず４月初めの校内見学で，５分程度の短時間ではあるが，利用案内を配るとともに簡単なオリエンテーションを行ってさまざまなジャンルの本を紹介する。次に６月の国語総合（現代文）の授業時間にワークシートを使って図書館を実際に使ってみてもらう。進路，興味・関心のあることをキーワードとして挙げ，それについて図書館の図書・雑誌・インターネットの情報を使って調べるという作業を行わせた。

③　２年生への利用案内

昨年度はコロナ感染症の影響を受けて６月のオリエンテーションは時間を短縮して行ったうえ，１クラスは実施できなかった。そのせいか１年生の利用だけが例年の半分ほどと伸び悩んだので，今年度は２年生でもオリエンテーションを実施することにした。

④　看護科へのアプローチ

看護科・専攻科の生徒の図書館利用率は非常に高い。学年が上がるにつれて利用は増える。

専攻科１年「看護研究」の授業では司書が蔵書検索のコツ，データベースの使い方などを説明したあと，個々のテーマに沿って図書館で文献を探す授業を実施している。授業時間の後も必要に応じて生徒は図書館を利用する。最初の年は１月に１時間をとっての授業であったが，翌年からは少し時期を早めて 12 月に実施，授業の時間も２時間連続となった。今年度は早めに文献調査を始めることでテーマについてより深く考えられるようにと教員と打合せをし，５月に２時間で実施した。

（２）　教職員に対して

①　雑談からの情報取集

教職員のニーズの把握をしようと思っても，あらたまって話をする時間をとることは難しい。そのため，機会を見つけては立ち話で授業内容などについて聞きとりをした。また，県立図書館の搬送便で本の取り寄せができること，個人で借りた本も学校から返却できることをＰＲした。実際に取り寄せをして提供することで，その後の利用につながっている。県立図書館から取り寄せた本を教員からの要望により自校で購入することもある。

授業の参考に用意したものは職員室へ届けている。そこで図書館を利用しての授業の計画が持ち上がることもある。打合せしている

のを聞いたほかの教員から図書館の利用について関心を持ってもらえることもある。

② 教職員向け利用案内の配布

シラバス作成時期にあわせて利用案内をすれば，授業計画の中に図書館の利用を入れてもらえると考えた。そこで４月の始業式前のできるだけ早い時期に教職員向け利用案内を配り，図書館の案内をした。

## ４ 成果と課題

【成果】

（１） 生徒主体の利用

図書館を使っての授業をきっかけに利用するようになる生徒，教員から紹介された本を探しに来る生徒，教員に図書館の利用を勧められて来る生徒が増えている。

① 進路実現

総合的な探究の時間でキャリアについて考えるため，職業や資格について調べにくる生徒が増えている。受験対策として小論文のテーマや書き方について質問されることも多い。そこで，進路・小論文コーナーを設置し，一覧できるようにした。また，生徒の興味・関心の傾向について教員から情報を得て選書の参考にしている。

② 興味・関心・問題解決

部活動，趣味の参考に図書館を利用する生徒も増えた。運動部の生徒がトレーニング方法やケガ予防の本を探す，書道部の生徒が題材を探す，自分で演奏したいから楽譜がほしいなど，さまざまな要望がある。家で食事のしたくをする生徒が家族のための献立の本を探す，など図書館の本を利用して課題解決のヒントとすることに気づくこともある。

通り抜けの途中での雑談から本の紹介に至ることも多い。通り抜けの途中に見てもらえるよう，カウンター横にテーマや期間は特に設けず随時入れ替えるミニ展示コーナーを設置している。展示を見ながらの生徒の会話も選書のヒントになることがある。

（２） 授業での図書館利用

① 美術

図書館を使って作品製作の素材集めをしている。動物の木彫製作のための三面図作成，油絵の構想，郷土カルタ製作のための地元調べ，デザインの授業では駄菓子のパッケージの特徴を調べて自分でデザインする。図鑑や写真集などの図書やインターネットの情報を使った授業が行われた。

② 国語表現（普通科３年）

ビブリオバトルのための本選びが行われた。最初に司書がブックトークで生徒が普段手に取らないような本を紹介し，そのあと，個々に本を選んだ。

図書館に集まっての授業以外にも，教員と打合せをして用意した図書を教室で使う授業や授業内容に即した資料を図書館で予め用意して，授業の後で生徒が個々に探しにくるという利用の形もできた。

専攻科の看護研究のように図書館を使用することを前提とした授業もあれば，教材研究のための資料の相談から授業そのものを図書館で実施する，あるいは生徒が利用できる図書も用意する方向に話が進むこともある。

授業の中に図書館を組み込んでいくためには司書と教員とで情報共有が必要なため，年５回発行しているライブラリーニュースは生徒用に加えて教職員版を作成している。

【今後の課題】

令和の学びの「スタンダード」となる GIGA スクール構想の実現に向けて，図書館にも Wi-Fi 環境が整った。今後，生徒が１人１端末を所持するようになるので，図書館でも文献調査のレクチャーなどが実施しやすくなる。図書館での ICT 活用の方法を検討していきたい。

## ５ おわりに

本校の図書室の座席は１クラス（40 人）が辛うじて収まる数しかなく，授業での利用にはかなり手狭である。一方，通路として利用されるため人の出入りは多い。そのため，物理的にも心理的にも風通しがよいという利点もある。

昨年度は休校期間があったため生徒の利用は少なかったが，一方で教職員の利用は増え，教材研究・生徒指導の参考になる本や自己研修，ストレス解消のための本がよく利用された。

図書館を利用する教員のことを意外と生徒はよく見ており，教員の利用する図書に大いに興味をもっている。教職員の利用が増えるにしたがって，生徒の利用も増え，その目的は進路，部活，授業と多岐に渡っている。

今年度は昨年の反動か，４月当初より授業で図書館が使われている。１，２年生の利用はまだ活発とまではいえないが，昨年に比べるとかなり増え，３年生は例年以上に意欲的に図書館を利用している。

今後も利用者とのコミュニケーションを密にして，ニーズに応える図書館づくりをめざしたい。

# 指導助言－分科会Ｃ
# 『主体的に学ぶ力を育てる学校図書館』

指導助言者　　倉敷市立玉島高等学校　校長　辻田　詔子

分科会Ｃは,「主体的に学ぶ力を育てる学校図書館」をテーマとしています。新しい学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」を実現するための学校図書館の効果的な活用について,特に「主体的な学び」を中心に考える分科会となっています。

「主体的な学び」については,「自分の学びを振り返り，次の学びや生活に生かす力を育む授業」や「見通しを持って，粘り強く取り組む力が身に付く授業」が期待されています。知の拠点とも言える学校図書館は，授業での活用はもちろんのこと，授業外でも，興味・関心を引き出し，課題意識を持って主体的に学び続ける力を育成する上で，重要な役割を担っていると言えます。

さて，この分科会テーマに沿って,「主体的な学び」を引き出す創意工夫された実践が５校から寄せられました。５校の先生方に感謝申し上げます。資料にはそれぞれ取組の詳細や，成果と課題が簡潔にまとめられており，改めて敬意を表したいと思います。ここでは，各実践において特に印象に残った内容について触れさせていただき，講評とさせていただきたいと思います。

岡山市立御野小学校の取組は，授業者と学校司書がねらいを共有し，効果的な場面を選んで学校図書館を活用することにより児童の主体性を引き出した実践です。ねらいに応じて，授業の導入段階や終末段階で学校図書館を活用した実践例がそれぞれ示されており，授業者と学校司書が綿密な計画のもと選書を行い，必要な図書を公共図書館等から収集して授業が展開されています。授業では，友人同士の意見の交流も積極的に行われており，それにより異なる作品世界にも興味関心を広げられているという効果も生まれています。

岡山市立牧石小学校の取組は，授業者と学校司書が協働し,「読書の楽しさ」を伝えることを通して主体的な学びを目指した実践です。「スイミー」を教材として,「絵本を読みたくなる気持ち」を喚起できるよう,大型絵本を用いたり児童が面白いと思った点を紹介カードにさせたりして、豊かな言語活動を展開しています。読書経験の少ない児童に「本と出会わせる工夫」を行い,成果を次の学年の読書意欲につなげたいとの思いは,読書習慣の形成の点からも重要な意味を持つものとなっています。

岡山市立岡北中学校の取組は,様々な教科で学校図書館を利活用し,生徒が自分の考えをまとめ表現する授業に取り組んだ実践です。学校司書との連携により,公共図書館や他校など外部から豊富な資料を集めたり生徒の様子を見ながら本を紹介したりして,一人一人の興味を引き出すことができています。どの取組も興味をもとに情報を収集,選択,そして活用するという学習活動が展開されており,自らの考えを持つというねらいの達成とともに,学びの一つのスキルを身に付ける機会になっています。

津山市立北陵中学校の取組は,「自己実現を目指す生徒の育成」を研究主題とした,授業，委員会，朝の読書，学年企画など，幅広い実践です。背景には，実践者や学校司書の丁寧なニーズの把握があります。全校生徒への読書アンケートを実施して状況の把握に努め，その結果を教室に掲示したり選書の参考にしたりして活用しています。また，学校司書がカウンター当番の生徒との会話から興味関心をキャッチするなど常にアンテナを高くし，生徒の図書館に向かう気持ちを後押しすることができています。

岡山県立倉敷中央高校の取組は，司書が生徒と教職員に働きかけを行い，図書館の利用を活発化させた実践です。生徒の興味・関心の幅を広げるため，ミニ展示コーナーの設置や図書館の利用指導等を行うとともに，教職員の利用の少なさに注目し資料の取り寄せ方や教職員版ライブラリーニュースを発刊する等して情報提供（研修とも言える）に努めています。これが教職員だけでなく，生徒の利用増加にもつながり，司書・教職員・生徒の動きが結びつき読書機会が作られた点は成果だと言えます。

寄せられた実践は，いずれも身に付けさせたい力を明確にし，授業者と学校司書がそれぞれの専門性を生かし，協働して取り組まれたものばかりです。そのことにより，授業の幅が広がり，豊かなものとなっています。また，児童生徒の興味・関心を大切にしながら，気に入った作品や自分の考えを他の人に伝えるという学習活動が取り入れられている点も，主体的な学びにおいて効果的だと言えます。取り入れた知識を再構成してアウトプットする学習活動の過程において，活発に思考が働くからです。実践者のしかけが，「知りたい」「読みたい」「伝えたい」という思い，主体性を引き出していると感じます。

一方，「読書習慣」同様，「主体的な学び」は発達段階に応じて積み上げられていくことが期待されます。高校生の不読率（55.3%　第65回学校読書調査2019による）は依然として高止まりしています。その理由として，①中学生までの読書習慣の形成が不十分である，②高校生になり読書の関心度が低くなった，③スマートフォンの普及などによる読書環境の変化，などが挙げられています。今回紹介された実践などにより，学校図書館の利用をきっかけとして読書意欲が高まり，読書により学習基盤が一層形成されることが望まれます。今後，新学習指導要領のもと，発達段階ごとの取組が系統性や連続性をもって行われ，読書意欲，読書習慣が形成されるよう，各段階での取組の推進をお願いいたします。

最後になりましたが，５校の実践を参考にしていただき，皆様の学校での取組が一層推進されますことをご期待申し上げ、私からの講評とさせていただきます。

分科会Ｄ　絵本部会　心をつなぐ絵本

# 教師と子ども　子どもと子どもの心をつなぐ
# ～「繰り返し絵本」「参加型絵本」の読み聞かせを通して～

岡山市立豊小学校　教諭　　酒本　　薫

## １　はじめに

本学級は１年生，男児 18 名，女児 17 名計 35 名の少し幼さの残る明るい学級である。１学期は，コロナウイルス感染症に伴う休校で，学校生活に慣れる時間や，授業時間が十分に取れない状況であった。図書の時間も，密になってしまうことを懸念して，貸し借りのみでおこなってきた。読み聞かせをする時間も十分に取れなかったが，教室の中で何度か行った。数冊読んだ中でも，「繰り返し」が出てくるお話を好み，集中して聞いたり，読み聞かせをしてもらった後に何人もの児童が自分で借りたりする姿が見られた。そこで，コロナ禍で触れ合えない状況でも絵本を通して友達と関わっている感覚がもてる「参加型絵本」，子どもたちの好きな「繰り返し絵本」の読み聞かせを通して子どもと子ども，子どもと教師の心をつないでいけたらと思い，本研究に取り組むことにした。

## ２　具体的な取組

下校前，授業が早く終わったときなどの隙間の時間を使って，ご褒美的に読み聞かせを行っていった。教師の周りに集まるのではなく，教室の中で自分の席に座ったままで読み聞かせた。読み聞かせの後は，しばらくの間教室の後ろにその絵本を置き，自分の好きなときに手に取って読めるようにした。

## ３　絵本の実践

参加型絵本… ㊂　繰り返し絵本… ㊅

㊅『ちゃんとたべなさい』

出版社：小峰書房
作：ケス・グレイ
絵：ニック・シャラット

豆を食べたくないデイジーと母親との攻防戦。豆を食べさせるために母親があれこれ提案していく。提案内容が突拍子もなくて面白いのはもちろん，母の提案に対して何度も「おまめだいきらい」と言い返すデイジーの様子が面白く，大笑いしていた。繰り返しに合わせてデイジーの顔が少しずつ大きくなったり文字の大きさが大きくなっていったりするのも視覚的に楽しめるようであった。読み聞かせ後は，絵本を回して読んだり，順番に借りたりする姿が見られ，読み聞かせを通した実際のつながりを感じることができた。また，デイジーの他の絵本を見つけて読む子ども，デイジーの文庫本版を見つけて借りる子どもの姿も見られ，本と子どものつながりも感じることができた。

㊂㊅『くまくん』

出版社：ひかりのくに
作：二宮　由紀子
絵：あべ　弘士

“くまくん”が逆立ちをして“まくくん”になるところからお話は始まる。“まくくん”にであった動物たち（りす，とら，かば，やまあらし）が逆立ちをして，名前がひっくり返るというお話。こどもたちは逆立ちをした“まくくん”を微笑ましく見ていた。りすの場面ではなるほどと感心し，とらの場面では一緒に考え，かばの場面では「言ったらいけないやつだ！」と小声で言いながらも“ばかくん”に大笑いしていた。やまあらしの場面では「これはむずかしい。」と言いながら頭をひねり，考えていた。読後は，自分の名前をさかさまにしてみる児童が多くいた。友達と言い合っている児童がいたので，名前で遊ぶことにつながってしまわないか不安視したが，伝えあってふふふっと笑う程度だったので，微笑ましかった。

㊂ ㊥『どっしーん！』

出版社：大日本図書

文・絵：岩田　明子

急いで走ってきた動物たちが「どっしーん！」とぶつかって，体が合体してしまうお話。「どっしーん！」とぶつかる場面が出てくるたびに子どもたちも読み手に合わせて「どっしーん！」と叫び，合体したおかしな姿に大笑いしていた。最後に蜂に「ぶすっ！」と刺される場面では，どうなるんだろうと息をのんで絵本に見入っていた。もとの姿に戻った動物たちに安心した表情を浮かべる子どももいた。

㊂ ㊥『あいうえおりょうりめしあがれ』

出版社：イースト・プレス

著：accototo　ふくだとしお＋あきこ

ばらばらになったひらがなを入れ替えて，料理名を作っていくお話。例えば「すんこーぷー」を使って「こーんすーぷ」を作る。答えを言いたい子どもと答えを聞きたい子どもがいた。嬉しくてついつい答えを叫ぶ子どもに「答え言わないで！」と必死に頼む子ども。「さいごになりましたが…」の言葉に「最後は絶対言わないでね！」と釘を刺されクラスがシーンとなった。「るすみいくあ」から「みるくあいす」。さらに，「くるみあいす」に変身し，最後には全員が「おいしそーう。」とほほを緩めていた。たった一人「よくわからんかったな。」と言っていた子どもがいた。彼女はひらがなを覚えきっていないため，本書の面白さを実感することができなかったのだと思う。

㊂『たべものやさんしりとりたいかいかいさいします』

出版社：白泉社

作：シゲタ　サヤカ

題名通りのお話。お店対抗でしりとりをしていく。「ん」がつく食べ物が出てくると子どもたちは大焦り。「ん」が出てくると「ピピピピ―！」という笛の音とともに注意をされる。２回目の「ん」のときには教師が読むよりも前に「ピピピピ―！」と子どもの方から聞こえてきた。「ん」がつくたべものたちが帰らされ，仲間が減ったパン屋とラーメン屋の様子を見た子どもたちの中から「かわいそう・・・」という声も聞こえてきた。しりとりが続くページもみんな嬉しそうに聞き，餃子が優勝した時には一緒に喜んでいた。読後は絵の細かい部分まで楽しむ子どもが何人もいた。

新刊図書を中心に実践を載せたが，読み聞かせをした絵本の中で子どもたちの反応の良かったものを下記に挙げる。

『こねてのばして』　『おおかみだあ』
『うえきばちです』　『まるくておいしいよ』
『ぜったいにおしちゃダメ？』　『100』
『うんちっち』　『とんねるとんねる』
『なにからできているでしょーか？』
『とんでもない』　『りゆうがあります』
『いいからいいから』　『まてまてー』
『おしくら・まんじゅう』
『ばけばけばけばけばけたくん』
『かえるくんにきをつけて』　『かける』
『とんことり』　『いちにちむかしばなし』
『パンダオリンピックたいそう』
『りんごだんだん』　『おかあさんのパンツ』
『中をそうぞうしてみよ』　『これだれの』

## 4　おわりに

コロナ禍でソーシャルディスタンスを保っての読み聞かせは，はっきりと大きな絵が描いてある絵本を選ばないといけないと思い込んでいたが，子どもたちの反応や様子を見ることで，細かい絵のある絵本は読後に手に取ってみたくなるという利点があることが分かった。読み聞かせ中，子どもたちは絵をよく見たり教師の言葉をよく聞いたりすることで教師と心をつなげたり，友達との一体感を感じることで子ども同士で心をつなげたりすることができていた。それだけではなく，読後は新たな発見を教師に伝えることで教師と心をつなげたり，感想を言い合うことで子ども同士で心をつなげたりすることができていた。また，読み聞かせをした絵本を何度も読む子どもや同じシリーズや作家さんの絵本を探す子どもの姿も見られ，絵本と子どものつながりも感じることができた。読み聞かせによってクラスがまとまることを改めて実感することができた。

分科会Ｄ　絵本部会　心をつなぐ絵本

# 心　を　つ　な　ぐ　絵　本
## ～命と向きあう絵本～

倉敷市立庄中学校　教諭　　難波　　真

### １　はじめに

私は現在,倉敷市内の総合病院の中にある「院内学級」（正式名称は病弱・身体虚弱特別支援学級）を担当している。「病気が治ってから勉強すればいいじゃないか。」「入院中に学校？」という声も時々聞こえるが，病気で入院している子どもたちの学びを保障することは，学校に通っている子どもと同じく大切なことであると強く感じている。今まで多くの生徒と出会ってきたが，初めて院内学級担任となった年に受け持った中３女子の言葉は，今でも忘れることができない。彼女は朝，目が覚めたら胸に手を当てて心臓が動いていれば感謝するのを日課としていると言うのだ。私は今まで，ただの一度も自分の心臓の鼓動に感謝したことはなかった。

「命は大切」であることを学校で生徒に伝えてきたつもりではいたけれど，今一度このような状況下で命と向きあうことの大切さを，絵本を通して伝えていきたいと思った。

### ２　絵本の紹介

「命」をテーマとしたブックトーク（中学生向け）に選んだ絵本

◎　導入に

『ええところ』

出版社：学研教育出版
作・くすのきしげのり
絵・ふるしょうようこ

自分にはひとつも「ええところ」がないと思っていたあいちゃんが,「ええところ」を見つけてくれた友達や他のみんなの「ええところ」をいっぱい見つけていく絵本。

命は大切だと思うためには,まず自分を大切に思えるようになることが必要だと思う。そして自分以外の誰かの命も等しく大切なものだと認識し,この絵本のようにお互いのよいところを伝え合って,教室の空気を温めていく雰囲気作りをする。

◎　命とは

『いのちのおはなし』

出版社：講談社
文・日野原重明
絵・村上康成

2017年に105歳で天寿を全うした医師の日野原重明さんが,10 歳の子どもたちに行った「いのち」の授業を再現した絵本。

「自分のもっている自分の時間。それが自分のいのち」というメッセージにはっとさせられる。

◎　死ぬとはどういうことか

『かないくん』

出版社：東京糸井重里事務所
作・谷川俊太郎
絵・松本大洋

特に親しいわけでもない級友の死。悲しみとは違う喪失感。死ぬってどういうことなのか,と考え始める年頃に読み聞かせたい絵本。

１日でこの文章を綴ったという谷川さんと,２年を費やして描いた松本さんの絵が心に迫ってくる。

『ぼく、こわかったんだ』

出版社:BL 出版
作・絵　横須賀香

ぼくは死んだらどうなるの？誰もが一度は想像するであろう「死ぬ」とはどういうことか。そしてその恐怖。不安なのはきみだけじゃない，怖くていいんだよと伝えてくれる絵本。

◎　死を受け容れる

『でも、わたし生きていくわ』

出版社：文溪堂

作・コレット・ニース＝マズ-ル

絵・エステル・メーンス

訳・柳田邦

７歳の少女ネリーは両親の突然の事故死で兄弟と離れて暮らすことになる。しかし，まわりのサポートや温かな人とのつながりでネリーは楽しく暮らしていく。「悲しみは消えないけれど，いま，わたしは，しあわせ。」というネリーの言葉には，前向きに生きる力が溢れていて感動する絵本。

◎　命はつながる

『いのちの木』

出版社：ポプラ

作・絵・ブリッタ・テッケントラップ

訳・森山　京

年老いて静かに死んでいったキツネ。優しかったキツネの思い出を，森の仲間だった動物たちが語るたびに，キツネのいた場所からオレンジ色の木の芽が顔を出し，やがて大きな木へと育っていく。

誰にでも死は訪れるけれど，思い出が永遠の別れの悲しみを優しく包んでくれることを教えてくれる絵本。

◎　病気を抱える子どもたち

『ぼくのいのち』

出版社：岩崎書店

作・細谷亮太

絵・永井泰子

田舎の蔵で見つけた写真から，自分が小さい頃白血病だったことを知ったぼく。ぼくは治って元気になったけれど，一緒に入院していたお友だちの中には亡くなってしまった子もいることをお医者さんから聞いた。その日の帰り道に見た風景を，いつもと違う，とてもきれいと感じるぼく。キャンパス地に描かれた絵が温かい絵本。

院内学級の生徒に向けては配慮のいる内容だが，学校に通えている子どもたちには，病気と闘っている子どもたちがいるという事実や当たり前の日常が過ごせることへの感謝を絵本を通して感じてほしいと思う。

『チャーリー・ブラウンなぜなんだい？
―ともだちがおもい病気になったとき―』

出版社：岩崎書店

作・チャールズ・M・シュルツ

訳・細谷亮太

アメリカ・カリフォルニア州の看護師さんが，スヌーピーの作者であるチャールズ・M・シュルツ氏に「ガンと闘っている幼い子どもたちのために，スヌーピーとその仲間の力を貸してほしい」という手紙を出したのがきっかけで出来上がった絵本。白血病で入院したジャニスを巡って世間が作る壁，親や病気の子ども自身が作ってしまう壁，いろいろな病気の子どもたちを悩ませている障壁を取り除くにはどうすればいいかスヌーピーの仲間になったつもりで考えてほしい。

## ３　おわりに

数年前は院内学級に在籍している子どもたちだけでなく，小児科病棟に入院している幼児にも声をかけて行事を兼ねたお楽しみ会を開き，絵本の読み聞かせをさせてもらえた。コロナ禍の中で，今までしていたような絵本の読み聞かせを行うことが，病院では特に難しくなってきている。入院中の子どもたちの心を癒やす絵本タイムも，医療用ゴーグルにマスク越しでは楽しさが伝わりにくい。

「はじめに」で触れた中３女子は絵を描くことが好きで，院内学級でも絵本の読み聞かせを楽しみにしてくれていた。院内学級を卒業して数年後にはその生涯の幕を閉じ，遠いところに旅立ってしまった彼女の笑顔は今も私の胸に鮮やかによみがえる。私は生きていることは素晴らしい奇跡の連続であることを彼女から教わった。まだ厳しい状況は続いているが，子どもたちに笑顔を届けることのできる絵本を楽しむ機会を工夫して作っていかなければ，と思っている。

# 指導助言－分科会Ｄ
# 『心をつなぐ絵本』

指導助言者　　真庭市立中央図書館　前館長　杉浦　俊太郎

新型コロナウイルス感染症の現状をふまえ，誌上での研究発表を決断された実行委員会ならびに発表者である先生方に対し，まず深い敬意をお伝えしたいと思います。学校図書館は常に進化を続けており，最新の研究成果を反映したアップデートが個々の学びの場の質的向上に繋がってゆきます。中止ではなく誌上発表という形をとることで，みなさんの努力の積み重ねを今年も継続することができました。ウィズコロナ時代の新たな研究大会のあり方を提示して下さったことは大変意義深かったと考えます。そして，何よりも未来を担う子どもたちにとっても，かけがえのない成果ではなかったかと思います。豊かな読書環境に恵まれた真庭市へお越しいただく機会が失われたのは残念でしたが，ぜひ別の機会に真庭市へいらしてくださいますよう，お願い申し上げます。

分科会Ｄ「心をつなぐ絵本」は，まさに新型コロナウイルス感染症と人類が向き合う中で大切な，心と心のつながりを研究テーマに据えた，「今」を強く意識したタイムリーな発表であったと思います。子どもたちだけでなく大人たちも新型コロナ禍でリアルに触れ合う場を失っている中で，そうした状況を嘆くのではなく，そうした状況だからこそ出来る読み聞かせを実践された岡山市立豊小学校の酒本薫先生の研究，またコロナ禍によって大切な人たちを次々に失った私たちが改めて感じている「いのちと向き合う大切さ」を伝える実践をされた倉敷市立庄中学校の難波真先生の研究は，どちらも読みごたえのある興味深い内容でした。

酒本先生はまず，参加型絵本の意義を「コロナ禍で触れ合えない状況でも絵本を通して友達と関わっている感覚がもてる」と捉えるとともに，子どもたちが好きな繰り返し絵本の読み聞かせを通して「子どもと子ども」「子どもと教師」それぞれの心をつないでいくことに注力されました。

先生が担任されている１年生の学級は，コロナ禍で学校が休校となり学校生活に慣れる時間や授業時間が十分に取れず，図書の時間も密になる懸念があったため貸し借りのみ，読み聞かせの時間も十分取れなかったとのことでした。しかし，そうした状況を前向きにとらえ，具体的な実践を行われた点に強く共感致しました。教師の周りに子どもたちを集めなければ読み聞かせができない，というこれまでの常識を見直し，教室の中で自席に座ったままで読み聞かせを行う新たな試みに活路を見出したことが，今回の意義ある研究成果につながったと思います。読み聞かせ後に絵本を回し読みさせたり，自分の好きなときにその絵本を手に取って読めるようにされたりしたことで，子どもたちが自分の意思で絵本の世界を追体験できる環境整備をされたことも，読み聞かせ後の自主的な読み返しを促す取り組みとして，有効だったのではないかと感じました。

もう一点，酒本先生ご自身が気づきとして報告されている「コロナ禍でソーシャルディスタンスを保っての読み聞かせは，はっきりと大きな絵が描いてある絵本を選ばなければいけないと思い込んでいた」というバイアスが，実践活動を通じ子どもたちの反応をリアルに観察したことで消え，むしろ「細かい絵のある絵本は読後に手に取ってみたくなる利点がある」との発見につながりました。先入観や思い込みで結果を決めつけず，柔軟かつフラットな姿勢で子どもたちと向き合われた酒本先生の取り組みを通じ，私も多くの気づきをいただきました。酒本先生，ありがとうございました。

次に難波先生は，倉敷市内の総合病院の中にある院内学級で，日々病気の子どもたちの学びを保障する大切な役割を担っていらっしゃいます。私自身，長期の入院や療養によって学びの機会を失

ってしまった子どもたちを支援している某非営利活動法人の活動を応援していることもあり，思いを重ねながら難波先生の研究報告を拝読しました。難波先生がレポート冒頭で書かれていますが，初めて院内学級を担任された年に受け持った生徒の「朝，目覚めたら胸に手を当てて心臓が動いていれば感謝するのを日課としている」との言葉が重く響きました。コロナ禍という状況下だからこそ，改めていのちと向き合う大切さについて絵本を通して伝えたい，という難波先生の思いに強く共感いたしました。

病気を抱える子どもたちへの支援は，主に院内学級を中心とした入院中の支援にはじまり，退院後の自宅療養時の双方向ウェブ学習，さまざまな体験学習や友達と再会できる場づくり，復学に向けた学習支援など段階を踏んでゆきますが，院内学級での支援はすべての基礎となる大切な取り組みです。退院や自宅療養の叶わない重篤な病状の子どもたちも多いことから，難波先生のご苦労は大変なものと推察します。

今回難波先生が選ばれた絵本は，一つひとつが重いテーマであり，コメントしたいことが沢山あるのですが，とても大切だと感じたのは「院内学級の生徒に向けては配慮のいる内容だが，学校に通えている子どもたちには，病気と闘っている子どもたちがいるという事実や当たり前の日常が過ごせることへの感謝を絵本を通じて感じてほしいと思う」と書かれたことです。

さまざまな多様性を尊重する教育が広がってきていますが，最も重要な「他者への想像力」を豊かにする教育の重要性が増す中で，こうした絵本を通じたアプローチが広がっていって欲しいと思いました。難波先生，ありがとうございました。

## 大会役員

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 会長 | 倉敷南高等学校 | 校長 | 鳥越　信行 | 県SLA　会長 | 高教研学校図書館部会<br>会長 |
| 副会長 | 岡南小学校 | 校長 | 森　　淳 | 県SLA　副会長 | 小教研情報教育部会<br>学校図書館部　会長 |
| | 操南中学校 | 校長 | 青木　伸晃 | 県SLA　副会長 | 中教研学校図書館部会<br>会長 |
| 代表理事 | 津山高等学校 | 校長 | 赤松　一樹 | 県SLA<br>津山ブロック　代表理事 | 高教研学校図書館部会<br>美作地区　会長 |
| | 岡山市立西小学校 | 学校司書 | 大橋　昭子 | 県SLA司書部会　会長 | |

## 大会実行委員会

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 委員長 | 津山高等学校 | 校長 | 赤松　一樹 | 県SLA<br>津山ブロック　代表理事 | 高教研学校図書館部会<br>美作地区　会長 |
| 副委員長 | 八束小学校 | 校長 | 山本　信子 | 県SLA津山ブロック<br>小学校代表理事 | 小教研情報（図書館）部会<br>美作地区　会長 |
| | 蒜山中学校 | 校長 | 廣瀬　正明 | 県SLA津山ブロック<br>中学校代表理事 | 中教研学校図書館部会<br>美作地区　会長 |
| | 成名小学校 | 校長 | 池上　敏子 | 県SLA津山ブロック　各支部会長 | |
| | 富小学校 | 校長 | 影山　典子 | | |
| | 誕生寺小学校 | 校長 | 西村　恭子 | | |
| | 東粟倉小学校 | 校長 | 宗森　雄子 | | |
| | 勝央北小学校 | 校長 | 宮川　美香 | | |
| 委員 | 久米中学校 | 校長 | 頼経　英博 | 県SLA津山ブロック　各支部副会長 | |
| | 鏡野中学校 | 校長 | 筒塩　　操 | | |
| | 中央中学校 | 校長 | 有元　満治 | | |
| | 勝山中学校 | 校長 | 近藤美沙子 | | |
| | 作東中学校 | 校長 | 忠政　勇之 | | |
| | 勝央中学校 | 校長 | 竹内　由明 | | |
| 総務部 | 勝田小学校 | 校長 | 服部　克彦 | R1県SLA津山ブロック　小学校代表理事 | |
| | 美咲中央小学校 | 校長 | 唐木　美穂 | R2県SLA津山ブロック　小学校代表理事 | |
| 研究部 | 東粟倉小学校 | 校長 | 宗森　雄子 | 美作・西粟倉支部会長 | |
| | 作東中学校 | 校長 | 忠政　勇之 | 美作・西粟倉支部副会長 | |
| 会場部 | 八束小学校 | 校長 | 山本　信子 | 真庭支部会長 | |
| | 勝山中学校 | 校長 | 近藤美沙子 | 真庭支部副会長 | |
| | 成名小学校 | 校長 | 池上　敏子 | 津山支部会長 | |
| | 久米中学校 | 校長 | 頼経　英博 | 津山支部副会長 | |
| | 富小学校 | 校長 | 影山　典子 | 苫田支部会長 | |
| | 鏡野中学校 | 校長 | 筒塩　　操 | 苫田支部副会長 | |
| | 誕生寺小学校 | 校長 | 西村　恭子 | 久米支部会長 | |
| | 中央中学校 | 校長 | 有元　満治 | 久米支部副会長 | |
| | 勝央北小学校 | 校長 | 宮川　美香 | 勝田支部会長 | |
| | 勝央中学校 | 校長 | 竹内　由明 | 勝田支部副会長 | |

## 県SLA事務局

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事務局 | 岡南小学校 | 教諭 | 早川夕加里 | 小教研　事務局長 |
| | 牧石小学校 | 教諭 | 武田　綾子 | 小教研　事務局長 |
| | 高松中学校 | 教諭 | 池田　麻子 | 中教研　事務局長 |
| | 中山中学校 | 教諭 | 湯浅　憲一 | 中教研　事務局長補佐 |
| | 倉敷南高等学校 | 教諭 | 平松　玲子 | 県SLA　事務局長 |
| | 倉敷南高等学校 | 教諭 | 高橋　綾美 | 高教研　事務局長 |
| | 倉敷南高等学校 | 学校司書 | 大西　結美 | 県SLA　事務局員 |

# 第67回読書感想文岡山県コンクール

## Ⅰ　日　程

6月17日(木)　応募要項配布
　　第１回支部事務局長会議
9月29日(水)　応募締め切り(必着)
　　応募先・事務局
　　*小・中・・・岡山市立高松中学校
　　池田　麻子
　　*高校・・・岡山県立倉敷青陵高等学校
　　王尾　宏造

10月 7日(火)　第1回合同審査会
　　～　　《審査期間》
10月21日(木)　第2回審査会(最終審査)
　　〈小学校・中学校・高等学校 校種別〉

12月16日(木)　表彰式

## Ⅱ　県審査員

審査委員長（SLA 会長）
鳥越　信行　　岡山県立倉敷南高等学校
審査副委員長（SLA 副会長）
安達　一正　　毎日新聞社岡山支局長
森　　淳　　岡山市立岡南小学校
青木　伸晃　　岡山市立操南中学校

審査委員
西村　浩子　　岡山市立鹿田小学校
相賀　惠理　　岡山市立桃丘小学校
中島　恵実　　岡山市立高島小学校
古田　彩歌　　岡山市立高島小学校
梅原　志穂　　岡山市立豊小学校
今﨑　裕樹　　岡山市立平島小学校
篠田　青空　　岡山市立福田小学校
髙杉　健太　　岡山市立福田小学校
山中亜理沙　　岡山市立福島小学校
森川　　歩　　和気町立本荘小学校
島口くみ子　　和気町立本荘小学校
小野　詩織　　瀬戸内市立今城小学校
岡村　彰紀　　瀬戸内市立牛窓東小学校
宇治美恵子　　瀬戸内市立牛窓東小学校
三宅　千恵　　吉備中央町立津賀小学校
尾田　鮎菜　　吉備中央町立円城小学校
古谷恵津子　　倉敷市立倉敷西小学校
渡邊　佳子　　倉敷市立中洲小学校
片岡　未咲　　倉敷市立葦高小学校
長島　有沙　　倉敷市立長尾小学校
橋本　紗希　　倉敷市立連島西浦小学校
西　めぐみ　　倉敷市立琴浦東小学校
井上　　尚　　倉敷市立船穂小学校
伊地知　理　　総社市立清音小学校
小田久美子　　総社市立山手小学校
橋本　　希　　井原市立稲倉小学校
松井　征代　　高梁市立中井小学校
梅林　　渚　　新見市立西方小学校
尾原　友美　　津山市立清泉小学校
頼信百合子　　鏡野町立香北小学校
池上　真琴　　美咲町立柵原西小学校
濱田身江子　　西粟倉村立西粟倉小学校
首藤未勇士　　岡山市立足守中学校
引野　　希　　岡山市立吉備中学校
塚本　海斗　　高梁市立有漢中学校
中村　恭輔　　津山市立勝北中学校
藤本　久美　　倉敷市立南中学校
木村咲恵子　　赤磐市立高陽中学校
佐藤　成悟　　玉野市立荘内中学校
池田　麻子　　岡山市立高松中学校
湯浅　憲一　　岡山市立中山中学校
石井　浩治　　岡山県立岡山操山高等学校
清水　梨恵　　玉野市立玉野商工高等学校
金田　好史　　岡山高等学校
石原　雅子　　岡山県立岡山工業高等学校
村山　順子　　岡山県立西大寺高等学校
片山　博隆　　倉敷市立工業高等学校
藤井　隆史　　興譲館高等学校
安部　沙織　　井原市立高等学校
大久保緑子　　高梁市立宇治高等学校
藤森　紀子　　岡山県立高松農業高等学校

## Ⅲ　岡山県指定図書

| 学年向 | 書名（シリーズ）<br>著者名 | 発行所 |
|---|---|---|
| 小<br>（低） | 『ころがれない　いしっころリッキー』<br>ミスター・ジェイ | イマジネイション・プラス |
| | 『区立　あたまのてっぺん小学校』<br>間部　香代 | 金の星社 |
| | 『雨の日は、いっしょに』<br>大久保　雨咲 | 佼成出版社 |
| 小<br>（中） | 『セイギのミカタ』<br>佐藤　まどか | フレーベル館 |
| | 『チャーリー、こっちだよ』<br>キャレン・レヴィス | BL 出版 |
| | 『ぼくらしく、おどる　義足ダンサー大前光市、夢への挑戦』<br>大前　光市 | 学研プラス |
| 小<br>（高） | 『雷のあとに』<br>中山　聖子 | 文研出版 |
| | 『おじいちゃんとの最後の旅』<br>ウルフ・スタルク | 徳間書店 |
| | 『ケンさん、イチゴの虫をこらしめる「あまおう」栽培農家の挑戦！』<br>谷本　雄治 | フレーベル館 |
| 中学校 | 『赤毛証明』<br>光丘　真理 | くもん出版 |
| | 『囚われのアマル』<br>アイシャ・サイード | さ・え・ら書房 |
| | 『ウルド昆虫記バッタを倒しにアフリカへ』<br>前野ウルド浩太郎 | 光文社 |

## Ⅳ　結果

1）応募作品数・応募校数

| 区分 | 令和元年度 | 令和２年度 | 令和３年度 |
|---|---|---|---|
| 小学校低学年 | 6,340 編 | 3,481 編 | 5,381 編 |
| 小学校中学年 | 10,478 編 | 5,329 編 | 8,478 編 |
| 小学校高学年 | 10,876 編 | 6,084 編 | 9,150 編 |
| 中学校 | 23,480 編 | 19,118 編 | 21,107 編 |
| 高等学校 | 13,877 編 | 8,546 編 | 11,367 編 |
| 計 | 65,051 編 | 42,558 編 | 55,483 編 |
| 応募校数 | 576 校 | 556 校 | 593 校 |

2）特別賞受賞者（最優秀賞受賞者）

**岡山県知事賞**

瀬戸内市立邑久中学校　　片山　　祐

**岡山県議会議長賞**

岡山県立倉敷青陵高等学校　　金井　侑里

**岡山県教育委員会教育長賞**

倉敷市立倉敷東小学校　　西﨑　千青

**岡山商工会議所会頭賞**

倉敷市立長尾小学校　　逸見　晋平

**岡山市長賞**

倉敷市立薗小学校　　諏訪　雄大

**岡山県読書推進運動協議会会長賞**

玉野市立大崎小学校　　平藤　正堂

井原市立県主小学校　　藤井　碧輝

岡山県立倉敷天城中学校　　山本亜生子

**毎日新聞社岡山支局長賞**

倉敷市立豊洲小学校　　根木瑛士朗

玉野市立荘内小学校　　三宅　遼果

総社市立総社東中学校　　花田　琴音

**岡山県学校図書館協議会会長賞**

岡山市立旭東小学校　　森下　允喜

岡山市立旭操小学校　　池嶋　英菜

岡山県立津山高等学校　　野亀　志織

3）　全国コンクール入賞者

**内閣総理大臣賞**

倉敷市立倉敷東小学校　　西﨑　千青

審査概評

## 小学校低学年の部

### ◉自由読書

今年度の県審査対象作品は、一年生が十七編、二年生が五十編、計六十七編であった。

感想文に取り上げられた内容は、家族や友だちとの関わりをテーマにしたもの、動物が主人公になっているもの、命について取り上げたもの、伝記や図鑑を読んでのもの、環境問題や、世界に目を向けたものと、多岐にわたっていた。

本との出会いについては、本の題名や絵に興味をひかれた、一度読んだことがある本をもう一度読んでみた、家族に紹介された、自分の好きなもの・興味があるものに関わる本を選んだなどであった。本とのよい出会いが、感性を豊かにさせていることを感じた。

中でも、家族や友達に関する内容は低学年の児童にとって、最も共感できる身近な世界である。物語の主人公に自分の姿を重ねながら、物語の世界を味わったり、自分の経験を振り返ったりしながら、感じたことを素直な言葉で表現できていた。主人公の言動から、日頃の自分の思いや行動を振り返り今後の自分をより成長させようとする意欲が伝わってくるものや、家族や友達の大切さに気付き、今後の自分の役割について述べられている作品が多くあった。また、読書が、家族との関わり合いを見つめなおすきっかけとなり、兄弟姉妹や家族に対する感謝の気持ちを表す内容のものもあった。

環境問題やＳＤＧｓに触れる本を読み、自身の日々の生活や環境を振り返り、生き物のため、地球のために何ができるかを家族と話し合ったり、自分にできることを具体的に考えたりしている作品もあった。

伝記を読んで、書かれた作品もあった。低学年の児童にとっては、感想を書くことが少し難しいと感じたが、人物のすばらしさや挑戦することへの勇気に感動した気持ちが伝わってくるものであった。

興味を持っていることの図鑑を読み、その歴史や成り立ちを知り、知識を深めるだけでなく、そのあり方から自分の生き方にまで考えを及ばせている作品もあった。

表現の方法としては、選書の理由、あらすじと読み取り、読後の感想という基本的な構成ができている作品が多かった。また、自分が一番心に残った部分を自分の体験や気持ちと重ね合わせながら表現することから始めるものもあった。また、登場人物に話しかける文体を取り入れた作品もあり、登場人物の気持ちに寄り添い、自分の思いを低学年らしい素直な書きぶりで表現することができていた。

低学年にとっては、八百字に感想をまとめることは容易ではないと思われる。しかし、読書を通して自分の生活や経験を振り返ったり、新しいことに感動したりして、伝えたいことを表現することができていた。

審査を終えて、低学年児童の感性や表現力の豊かさに感動させられた。読書は、子どもたちの物の見方や考え方を変えたり広げたりするきっかけをくれるのだと実感し、読書のすばらしさを改めて感じることができた。これからも、多くの本と出会い、新しい感動や発見を見つけていってほしい。そして、さらに豊かな感性を育んでいってくれることを願う。

担当　尾原　友美

### ◉課題読書

今回の県審査対象作品は、一年生十八編、二年生二十七編、合計四十五編でした。これを図書別にみると次の通りです。

『そのときがくるくる』　十五編
『みずをくむプリンセス』　十四編
『どこからきたの？おべんとう』　十一編
『あなふさぎのジグモンタ』　五編

全体的に、低学年らしく、表紙の絵を見て読みたくなった、不思議だなと思ったなど、素朴な思いが本を読むきっかけとなったようです。今年度

の低学年課題図書は、現在の世界的課題となっているＳＤＧｓにも繋がる内容であったように思います。低学年の頃にこのような内容の図書に触れ、自分なりに考えを持つことはとても大切な体験となります。感想文には、自分ならどうするか、自分にできることは何かを考えた内容が多かったです。その中で実際に調べたり、やってみたりしたという内容もありました。次世代を担う子ども達には、実生活に繋がるような読書をして欲しいと思います。

図書別にまとめると次のようになります。

『そのときがくるくる』

「そのときがくるくる」の言葉がおもしろくて、何が来るのだろうと思ったことが読むきっかけになったようです。主人公と同じように自分にも苦手な食べ物があるという共通点が見つかり、児童は共感の気持ちで読み進めた様子が分かりました。また、主人公のおじいちゃんが、主人公が苦手なナスを食べられるように肉巻きにしてくれたことを参考に、自分の苦手な食べ物を食べられるように、お家の人と考えて作って食べてみたら少し食べられたという実体験も書かれてありました。

食べ物だけでなく、苦手な勉強やスポーツなど、自分ががんばりたいことに対して諦めずに取り組めば、いつか「そのときがくる」（できるようになる）のではないかと期待して、今後も頑張っていきたいという感想も多数見られました。

『みずをくむプリンセス』

児童の思うプリンセスはお姫様。でも、題を見てなぜお姫様が水を汲むのか、また、表紙の女の子はなぜ悲しそうな顔をしているのかが読むきっかけになっていました。児童と同年代の子どもが学校に行かずに遠い所まで水を汲みに行っていること、また、その水は濁っていることに、とてもびっくりしたという感想が多数ありました。

主人公の住んでいる国の人々は、汲んできた水をとても大切に使っています。日本では、蛇口をひねればきれいな水が好きなだけ使えます。このことを幸せと感じ、大切に使っていく方法や世界の人々がきれいな水を飲むことができる願いが、具体的に書かれてありました。低学年の児童なりに一生懸命に考え感想を持つ姿に感銘を受けました。

『どこからきたの？おべんとう』

児童はお弁当が大好きです。そんなお弁当が「来る」とはどういうことか題を見て不思議に思ったことと、表紙のお弁当の絵がおいしそうだったことが読むきっかけになったようです。ひとつのお弁当ができるまでにはいろいろな人が関わっていることに気づき、自分でも調べたことが書かれている作品が多数ありました。

調べ方は様々でしたが、共通して、食材を作っている人（育てている人や漁で捕る人など）、それを運んでいる人、それを売っている人、そして、それを買ってお弁当にしている人がいることに気づいたということが書かれてありました。この気づきから、お弁当だけでなく食事をするときには「いただきます。」「ごちそうさま。」の感謝の気持ちをもって残さず食べたいという感想につながっていました。

『あなふさぎのジグモンタ』

主人公のジグモンタは、布に開いた穴をふさぐ仕事をしています。登場人物は大切な物に開いた穴を直してもらうと、とても喜んで嬉しい気持ちになります。流行遅れの物は捨てて新しい物を買う登場人物もいます。

それぞれの登場人物の気持ちを自分自身と重ね合わせて、物を大事にした経験やこれからも大切にしたい物があることについて、具体的に書かれてありました。また、相手が喜んでくれるためにできることも書かれてあり、読んでいて温かい気持ちになりました。

担当　梅林　　渚

**◉指定読書**

今年度の県審査対象作品は、一年生十一編、二年生十九編、合計二十九編であった。これを図書別に見ると、次の通りである。

『ころがれない　いしころ　リッキー』　　十四編

『区立　あたまのてっぺん小学校』　九編
『雨の日は、いっしょに』　六編

どの図書も題名から、かんたんに話の内容が想像でき興味を引かれたのではないかと思われる。また、なぜ転がることができないのか、どうして頭のてっぺんに小学校があるのか、嫌いな雨の日にどんなことが起こるのかなど、感想をもちやすかったのではないだろうか。

それぞれの指定図書について、感想の傾向をまとめると、次のようになる。

『ころがれない　いしころ　リッキー』

リッキーのおしりは平たくなっており、友達に「いっしょにころがろう」と誘われても一緒に転がることができません。でも友達はリッキーと遊びたいので、どうすれば一緒に転がって遊ぶことができるか考えていく。くじけない決意と勇気、そして思いやりと勇気があれば、ぜったい無理なこともできてしまうというところに共感した作品が多かった。作品の中には、自分の中で無理と思っていたことも家族や友達の支えにより、できるようになった。あきらめなければできるようになる。いろんな人と助け合っていきたいという気持ちが表れていた。

『区立　あたまのてっぺん小学校』

ある日突然、頭のてっぺんに小学校を建てられてしまったリョウくん。そしてそんな頭を「おっかしの！きもちわるー」と友達にからかわれてしまう。しかしリョウくんはキミドリたちと仲良くなり、「ぼくにはこれがふつうだ」と言い返すことができるようになった。自分にとっての普通とはいったい何なのか。体が不自由な人、得意なことや苦手なことがある人など、児童がまわりの人と自分を比べて「普通」について考え直していた作品が多かった。人と違ったとしても「ふつうだよ」とリョウくんみたいに言うことができるようになりたいと思ったようだ。

『雨の日は、いっしょに』

雨の日、学校でハルくんを待つ黄色い傘。ハルくんはのんびりやの一年生だが、今日は走ってやってきた。傘をもって開いたとたんにハルくんは転び、風にあおられて傘はいろんな人の元へ飛んでいった。黄色い傘は新しい持ち主になってほしいといろんな人にお願いをするが断られてしまう。そんなことを知らないハルくんはずっと黄色い傘を追いかけていた。ハルくんと離れた傘は、離れて初めてある気持ちに気づいた。普段何気なく使っている傘の気持ちに寄り添うことで、いろいろなものや人を大切にする気持ちが高まったのではないかと考えられる。作品の中には自分が元気でいること、家族や友達がいることなど、普段当たり前だと思っていることが大切であると気づいていた。

全体として、物語の要点をしっかりと捉え、これからの自分が大切にしたいことを的確に書き表すことができていた。これからも読書に親しんで、多様な価値観に触れていってほしい。

担当　池上　真琴

## 小学校中学年の部

### ◉自由読書

自由読書の部で審査の対象となった作品は、六十編であった。学年別に見ると、三年生が二十七編、四年生が三十三編であった。

感想文に取り上げられた内容は、家族や動物、友情、環境、戦争・平和、人権など多岐にわたっており、子どもたちが物語からノンフィクションまで、幅広い作品に興味をもっていることが分かった。選書の理由としては、家族の薦め、本の題名や表紙に心を惹かれたからなど様々であった。

内容としては、登場人物と自分の性格や考え方、生活経験を比べて共感したり疑問に感じたりしていることを表現した作品や、家族や友達との関わりについて見つめ直した作品などが見られた。読書を通して、自分を振り返り、気持ちの変化について自分の言葉で表現した心温まる作品が多かった。また、新たな知識を得たり、目標や夢をもち、今後の自分の成長につなげたりすることもできていた。ノンフィクション類の作品も多くあった。今の社会問題に目を向けて、自然保護や環境保全

といった現代社会が抱える問題について自分にできることはないかという視点で考えた作品、障害やジェンダーなどを取り上げ、相手のことを大切に思い理解することの大切さに気付いた作品、オリンピックやパラリンピックのアスリートの生き方に感銘を受け、自分の生き方について考え直した作品など、難しいテーマであっても、中学年の子どもたちなりに考え、表現したものが多く、感心した。選書に関して言えば、物語が少ない印象を受けた。高学年に向けてファンタジーの作品のおもしろさも味わい、読書の幅も広げていってほしいと思う。自由読書だからこそ、身近な題材で自分の経験と結び付けられる本を選び、読書を通して感じたことを表現することができるのではないだろうか。

文章表現については、選書の理由、あらすじ、読後感想という構成の作品が多かった。なぜその本を選んだのか、心に残った言葉の引用、登場人物への語り掛けなど、感想文の読み手の興味を引くような工夫が見られた。経験と重ね合わせて感じたことを自分の言葉でしっかりと表現できている作品については、本人の思いが伝わり印象に残った。工夫された作品が多い中で、いくつか課題もあった。あらすじの紹介が多く、自分自身の経験や考えなどの感想の部分が少ないものや、逆に、自分自身の生活経験の記述が中心になり、読後の感想が十分に表現されていない作品があった。また、かぎ括弧を多用し、会話文と引用や強調との区別ができていない作品も多く見られた。原稿用紙の使い方についても指導の必要性を感じた。

今回の審査に携わり、読書は子どもたちの物の見方や考え方を変えたり広げたりするきっかけをくれるものだと実感し、読書の素晴らしさを改めて感じることができた。どの作品も自分の経験や生活を振り返り、自分の思いを素直に表現することができていた。読書感想文は、子どもたちに多くのことを学ぶチャンスを与えてくれる。これからも多くの本に出会い、さらに豊かな感性を育んでいってくれることを願っている。

担当　長島　有沙

**◉課題読書**

今回の県審査対象作品は、三年生十五編、四年生二十八編、計四十三編であった。これを課題図書別に見てみると次の通りである。

| | |
|---|---|
| 『カラスのいいぶん』 | 二十六編 |
| 『ゆりの木荘の子どもたち』 | 五編 |
| 『ぼくのあいぼうはカモノハシ』 | 六編 |
| 『わたしたちのカメムシずかん』 | 六編 |

全体として、自分の生活と結び付けたり、豊かに感想を広げたりしている作品が多かった。図書別にまとめると次のようであった。

**『カラスのいいぶん』**

いちばん身近な鳥、カラス。ごみを散らかす黒くて大きくて怖いみんなの嫌われ者。そのカラスにも、どうやら「いいぶん」がありそう。その声に耳を傾けることは、私たち人間の生活を見直すことにつながるのでは。カラスの生態に学ぶことの大切さを投げかけるノンフィクション作品である。

カラスの行動を今までどのように見てきたかを振り返りながら、徐々に心を寄せていく感想が多くあった。カラスの習性を知るということは、相手の立場を知るということ。それは、思いやりや助け合いにつながっていく。人間社会で大切にされるべき視点をしっかり捉えて、感想文に記述していた。筆者が投げかけた課題に真摯に向き合おうとする気持ちを表現した内容に感銘を受けた。

**『ゆりの木荘の子どもたち』**

六人のお年寄りが暮らす老人ホーム「ゆりの木荘」で起こった不思議な出来事。なんと、子どもに戻ってしまうのだ。解決の手がかりを見つけていくうちに、忘れ去られていたことを思い出していく。ゆっくりとした時間が流れる中で、エキゾチックな描写表現と思いもよらぬ展開が読者を引き付ける作品である。

不思議な出来事に心を奪われ、その後の展開にわくわくして読み進めたことが伝わってくる感想文が寄せられた。子どもに戻り体が軽くなっても、

思考は大ベテランの大人。落ち着いた行動で、真相に迫っていく姿を、身近なお年寄りに見出した感想が目に付く。枚挙にいとまなく出される人生の大先輩を敬う言葉。そのすてきな表現に心温まる思いがした。

『ぼくのあいぼうはカモノハシ』

人間の言葉を話す「カモノハシ」のシドニー。ルフスとの思いがけない出会い。そして、二人でドイツを旅立ち、オーストラリアを目指す。子どもらしい発想からの作戦と意外な展開、そして、あっと驚く結末。ほのぼのとした二人の関係と愉快なやり取りは、読者をどんどん二人の応援団にしていくような作品である。

二人の行動の大胆さに驚きつつ、あまりにも稚拙な計画にくすっと笑ってしまう。そして、いつの間にか追体験もさせられている。感想文の表現に、そんな児童の姿を思い浮かべさせられた。また、ほとんどの児童は、二人のくじけず頑張る姿に共感し、自分も同じような経験があったことを綴っている。自分の頑張りを再発見する機会にもなったような感想に触れ、改めて児童の感性の豊かさに感心させられた。

『わたしたちのカメムシずかん』

岩手県葛巻町の小学校を舞台に繰り広げられる「カメムシ」との出会い。校長先生の呼びかけまでは、ただのやっかい者。しかし、調べてみれば、何とも面白くて不思議いっぱいの虫。夢中で研究し、一年後は児童全員がカメムシ博士に。カメムシに関わる子どもたちの輝く瞳に促され、学校や地域全体が痛快に変容していく。小さな生命の神秘さを感じ取れる作品である。

児童もカメムシをやっかい者と捉えて読み始めていた。虫好きを自負する児童も同様であった。しかし、カメムシの生態や子どもたちの生き生きとした活動を知るにつれて、いつの間にかカメムシを共に暮らす虫と感じ取っている。自分が飼育した生き物との関わりを振り返る感想も多数あった。生命の大切さ、崇高さに改めて気付くことができた児童が多くいたようである。

担当　井上　　尚

## ◉指定読書

今年度の県審査対象作品は、三年生十二編、四年生十七編、合計二十九編であった。これを図書別にみると次の通りである。

『チャーリー、こっちだよ』　六編
『セイギのミカタ』　十四編
『ぼくらしく、おどる―義足ダンサー大前光市、夢への挑戦―』　九編

どの図書も親しみやすい文体で、分量も中学年が本の世界に引き込まれ没頭するのにちょうどよいものが揃えられた。読みやすい文章ながら、いずれの図書もテーマは多様性であり、自分とは異なる他者があることについて中学年に考えさせるものであった。

それぞれの指定図書について感想の傾向をまとめると次のようになる。

『チャーリー、こっちだよ』

野生動物を保護する施設〈だれでもぼくじょう〉で出会ったヤギのジャックとウマのチャーリーを中心に、牧場の他の動物や世話係の人間との交流についての物語。温かく優しいタッチの挿絵に乗せて、ふたりが歩み寄り困難を乗り越え、お互いの傷ついた心身に寄り添っていく様子がドラマチックに描かれている。

他人を理解することは相手の立場で考えることだと気付き、自分の友達との接し方について見直した作品が多く見られた。また、本文中には描写のない周囲の動物の様子など、絵本ならではの挿絵の読み取りができていた作品もあった。

『セイギのミカタ』

主人公のキノこと木下守は、赤面症のため人前で目立つことが人一倍苦手。毎日、クラスのお調子者大我に赤い顔のことをからかわれるが、いつも必ず周一が止めに入る。正義の味方のような周一が、キノは実は苦手だった。余計目立つだけでなく、かばわれている自分がまるで本当にいじめられているように感じるからだ。クラスの中で周一の他にもう一人だけ、騒がしい大我におもねないのがひとみ。からかわれても愛想笑いばかりの

キノに、いつも何か言いたげな視線を向けてくる。

キノ・周一・ひとみの内、つい周りに合わせてしまう主人公のキノだけでなく、自分に近い登場人物に共感し、自分の行動や態度を省みた作品がそれぞれに見られたのが大変興味深かった。クラスでの居場所の作り方という子ども達の日常に直結した物語で、作中それぞれの人物が語る「『空気を読む』なんて、きらいだ」という言葉を、自分の立場で受け止め考えたことが表現されていた。作品数も最も多く、多くの児童が、自分を投影し、気付かずにいた自分の意識を自覚してこれからの行動を考える読書体験ができたことがうかがえた。

『ぼくらしく、おどる―義足ダンサー大前光市、夢への挑戦―』

プロダンサーを目指し努力を続け、やっとつかんだデビューの矢先に、事故で足を切断することになった大前光市さんの自伝的物語。本文に記載のＱＲコードから大前さんの踊る様子を動画で見ることもでき、実際にアクセスしてみた感想も多く見られ、令和の伝記読書を感じさせた。ちょうど一年遅れの東京オリンピック・パラリンピック開催中の夏休みにあたり、無観客の中での大前さんのパフォーマンスに心を揺さぶられたことを表現した作品も印象的であった。何度も困難にぶつかりくじけても、そのたびに自分を立て直し目標に向かって挑戦し続ける大前さんの姿に励まされ、自分の目標に改めて向き直したことを素直に表現した作品が多く集まった。この本を通して、多くの児童が夢をもつ大切さに気付き、自分の努力に向き合うことができたと思われる。

全体として、登場人物の態度や姿勢に触れてこれまでの自分を見つめ直し、今後の自分の行動について考え実際に取り組んだことを表現した作品が多かった。どの図書の感想でも、自分と他人のものの見方や感じ方の違いに気付き、違うことをスタートに他者を理解していこうとする自己の変容について表現できていた。読書は、自分の知らない世界への扉になる。これからも読書を通して感性を耕し、多様さを認め合う豊かな心をもつ人へと成長していってほしいと思う。

担当　島口くみ子

## 小学校高学年の部

### ◉自由読書

自由読書の部で県審査の対象となった作品は、六十六編であった。学年別に見ると、五年生が二十二編、六年生が四十四編であった。

感想文に取り上げられた内容は、家族、友情、個性や障害、いじめ、虐待、LGBTQ、貧困問題、職業、感染症、環境問題、動物愛護についてなど、テーマは多岐に渡るが、新型コロナウイルス感染症の拡大という未曾有の事態に直面して、今まで当たり前だと思っていたものが急に当たり前ではなくなった昨今の社会状況の影響か、もう一度当たり前とは何かを問い直していく作品が多く見られた。

一冊の本から様々なメッセージを読み取った作品もあったが、複数のメッセージについて触れると考えが浅くなっている印象があった。やはりテーマを一つに絞り、深く考えていく過程をしっかりと表現する方が、読み手はより引き込まれのではないだろうか。

本との出会いにおいては、家族との会話から、関連する本が読みたくなったという作品や、ニュース番組等で興味をもったことについて詳しく知りたくなったという作品が多く見られた。日頃から、自分自身を取り巻く環境や自分が何を考えているのかということについてアンテナを高く張り、自身の課題を見つけ、その答えを探す手がかりに読書活動を位置付けていることに感心した。構成としては、本との出会い、登場人物への共感、自分だったらどうするかと考え、そこから生じた自分自身の変化について考えていくという作品が多かった。

自分自身の中にあった「当たり前」をもう一度点検し、それが本当に当たり前なのか、本との出会いをきっかけに問い直す作品が多く、読書を通して児童らが葛藤して、自分なりの答えを見つけたり、思考を深めたりしている過程が感想文という形になって表れていた。

以前、買い物帰りのバスの中で、こんなことが

あった。小学校高学年くらいの子どもに、その母親と思しき人物が「学力がつくし、集中力も上がるから本を読みなさい。ノートに記録しましょう」と言っていたのだ。子どもは「はあい」とあまり気のない返事をしていたのだが、この会話に私は違和感を覚えた。「読書の目的って一体何だろう。」悶々としたが答えは見つからないまま、バスは私の目的地に着いてしまった。

審査を通して、私はあの時の答えを見つけた気がした。審査対象となった作品では、児童が日常生活に潜む偏見や、今まで気づかなかった人とのつながりや愛情に気付き、葛藤しながらも、よりよい社会実現や人間関係構築のために自分自身がどうなりたいかと考えていた。読書という行為は人によっては娯楽であったり、勉強であったり、苦行であったりするだろう。しかし、この読書感想文からもわかるように、人々が自己を見つめ直す時に読書は有効な手段だと言えるし、自分を見つめ直し成長しようとし続けることは生きる醍醐味だと言えるのではないだろうか。三枚の原稿用紙という制約の中で、子どもたちが自己を見つめて成長する過程を見せてもらうことができ、私にとって得難い経験となった。

どの作品も本や自分自身と向き合い、一生懸命考えた様子が窺えた。これからも多くの児童に、読書や読書感想文を書くという行為を通して、自分を成長させる経験を積んでいってもらいたい。

担当　古田　彩歌

## ◉課題読書

今回、課題図書の部の県審査対象となった作品は三十八編で、学年別では五年生が十八編、六年生が二十編であった。これを図書別に見ると、

『エカシの森と子馬のポンコ』　七編
『サンドイッチクラブ』　十六編
『おいで、アラスカ！』　八編
『オランウータンに会いたい』　七編

であった。作品の多かった図書は、同年代の主人公が塾に通う様子や、その主人公が抱える悩みに共感しやすい本であった。また、そのほかの図書も動物たちが登場したり、取り上げられたりしていることで、児童が関心をもったと思われる。四編の課題図書について、それぞれの感想をまとめると次のようになる。

**『エカシの森と子馬のポンコ』**

牧場から逃げ出し、エカシの森で暮らす子馬のポンコ。周りに流されず自由に生きる登場人物に影響され、ポンコも「おとなになること」について考えていく。児童は、森の仲間たちが「どんな自分も自分。」と捉えていることに、刺激を受け、自分のこととしてふり返りながら作品に表現していた。また、作中ではアイヌの文化にもふれられていて、児童にとって今まで知らなかった文化を知るきっかけにもなっていた。様々な出会いにより、成長していくポンコの姿とこれからの自分を重ねながら、「こんな自分になりたい。」という強い意志を感じる作品が多かった。

**『サンドイッチクラブ』**

二つの塾を掛け持ちしながら、中学受験に備え勉強している珠子が、成績は上位だが関わりの少なかったヒカルに、サンドアートの審判を頼まれる。ヒカルが真剣に砂を削って像を造る様子に心を打たれ、気持ちが変化していく珠子の姿に、自分の現状や心情を重ねた作品が多かった。具体的な目標がないことへの不安や変化を恐れる気持ちを素直に表現した作品が多く見られ、児童にとって身近なテーマだったと考えられる。そうした不安を抱えながらも、今を大切に積み重ねていきたいという思いが伝わり、図書との出会いによる成長が感じられた。

**『おいで、アラスカ！』**

パーケルは自分をからかう転校生スフェンを疎ましく思っていた。しかし、パーケルが昔飼っていた介助犬アラスカが、スフェンの元にいることを知る。アラスカを取り戻すために、スフェンの家に忍び込むが、そこでパーケルはスフェンの知らない一面を知ることになる。作品には、それぞれの児童が抱える悩みが語られている作品が多く、悩んでいるのは自分だけだと思っていたが、誰し

も表面には見えづらい悩みや不安があるのだと気付いた様子だった。そして、相手が抱えている悩みや不安に寄り添えるようになりたいと表現している作品が多く、児童の心の温かさを感じた。コロナ禍による不安と結び付けている作品もあり、今の児童が先の見えない不安を多く抱えていることも伝わってきた。

『オランウータンに会いたい』

インドネシアに生息するオランウータンだが、その野生の行動はあまり知られていない。二十年近く研究を続ける著書が、食生活・子育て・習慣などを説明する。作品には、「オランウータン」をあまり知らなかった児童が、生態を知り、驚いたことや人間と似ているところを語っているものが多かった。さらに、オランウータンが生き続けるためには、今の世界のままでは難しいという現状を知り、自分にできることは何かを考え、持続可能な社会への意識の向上につながっている作品もあった。中には、自分の地域に住む希少な生き物の現状を結び付け、地域で取り組みたいことを表現している作品もあり、頼もしく感じた。

これからも、新しい本と出会った児童が、視野を広げながらその世界で感じたことを表現できるような自分を創っていくことを願っている。

担当　小野　詩織

## ◉指定読書

今回、指定読書の部で県審査対象となった作品は、二十九編で、学年別では、五年生十四編、六年生十五編で、これを図書別に見ると次の通りである。

『雷のあとに』　四編
『おじいちゃんと最後の旅』　七編
『ケンさん、イチゴの虫をこらしめる「あまおう」栽培農家の挑戦！』　十八編

数に偏りはあるものの、どの作品も自分の生活や経験を結び付け、考えを述べることができていた。三編の指定図書についての感想の傾向をまとめると、次のようになる。

『雷のあとに』

小学校五年生の睦子は、自分の名前が平凡で兄と仲よくするために付けられたと思い込んでいる。母親との関係や友達との関係に悩み、亡き叔父の家が唯一の居場所となっている。思春期を迎えた児童にとって、きょうだいと比較されること、自分の友達が転校生と仲良くなり自分から離れていくつらさ、母親の「言うことをききなさい。」「友達を選びなさい。」という言葉に反発する気持ちに共感するものが多かった。物語の終末、雷の中で家族が語り合い、雷の後に新しい季節が始まるという展開から、自分の気持ちを言葉で伝える大切さに気付き、家族との会話を増やしたり自分なりに人とつながる方法を考えたりと、自分にできることをやっていこうという想いを膨らませていた。

『おじいちゃんと最後の旅』

心臓病と足の骨折で入院しているおじいちゃんのことが大好きなウルフ。両親に内緒で病院にうそをついて、死ぬ前にもう一度、今は亡きおばあちゃんと暮らしていた家へ帰りたいというおじいちゃんと旅をする。ウルフの大胆な行動にドキドキしながら読み進めた児童が多く、幸せになるための特別なうそや思いやりについて考えを深められていた。亡くなった人の人生の一部が詰まっているものが宝物で、思い出と共に生きている人とつながっているということを、自分の祖父や祖母など家族との体験を重ね実感しているものもあった。天国でおばあちゃんと再会するためにきれいな言葉を使おうとするおじいちゃんの姿から、本当のやさしさや愛情、後悔のない「死」について考えを深めている作品が印象的だった。

『ケンさん、イチゴの虫をこらしめる「あまおう」栽培農家の挑戦！』

福岡県八女市で福岡名産「あまおう」栽培に、農薬を使わずにダニをもってダニを制する「天敵農法」や「バンカープランツ法」など、自然の仕組みも利用したＩＰＭという新発想で取り組むケンさん（樋口賢治さん）のチャレンジを描いたノンフィクションである。自分自身の植物の栽培経験や家族のイチゴ栽培を比較しながら、失敗して

も何度も挑戦するケンさんの情熱や分からないことを人に教わる謙虚さ、自分が学んだことを人に与える寛大さなどに心を惹きつけられたという感想が多かった。ケンさんの生き方に勇気付けられ、自分も努力を続け、前向きに生きていきたいという決意が力強く表現されていた。

今年度の指定図書は、自分自身の生き方や自分と身近な人とのつながりについて改めて考えるきっかけを児童に与えていたように思う。これからも様々な本との出会いによって、多くのことを感じたり学んだりしながら自分の想いをもち、心豊かに成長していってほしいと願う。

担当　三宅　千恵

## 中学校の部

### ◉自由読書

今年度、自由読書の部で県審査の対象となった作品は、九十編であった。

感想文に取り上げられた内容は、家族や友人との関わり、命について、自己啓発、戦争や平和に関するものなど多岐にわたっていた。社会問題に目を向けたものも多く、差別や偏見などの困難に立ち向かい、多様性を認め合える社会を目指す生き様や活動について書かれた内容も見られた。また、書かれた年代も様々な本が選ばれていた。中学生が、多様な視点で、時代や先入観に囚われず、読書を楽しんでいる状況がうかがえた。

全体的に、物語の登場人物の言葉や生き方に共感し、自らの体験と重ね合わせながら書かれたものが多かった。登場人物の医者や患者や患者の家族の考え方から、自身の今置かれた現状を受け止め、これからの自分の生き方について考えた作品。心理学の考え方を通して、これまでの自分を振り返り、前向きに一歩を踏み出そうとする作品。登場人物たちの自由な生き方に魅力を感じ、自分に自信をもって生きることの大切さに気付いた作品。自身の抱える不安や悩みと向き合い、自分の生き方や在り方について深く考えており、感心した。また、平和とは何か、当たり前とは何か、誰もが認め合える社会を実現するにはどうすればよいかなど、新たな価値観や考え方との出会いを通して、社会の在り方や自分にできることについて書かれたものも多かった。戦時下の大学病院でのエピソードを通して、身の周りの問題に目を背けず、向き合おうという気持ちをもった作品。シトラスリボンプロジェクトという取り組みから、差別や偏見がなく、誰もが暮らしやすい社会について考えた作品。審査した作品を通して、日々葛藤しながらも未来に希望を抱き、社会に目を向け、力強く生きる中学生の姿を垣間見ることができた。

審査を通じて感じたことは、読書感想文として評価することの難しさだ。表現については、印象に残った台詞や場面を一部抜粋し、感想を列挙する作品や、経験についての記述が多くなり、本の内容に関する記述が薄くなっているものが多かった。内容やストーリー全体を捉え、学んだことや感じ取ったことを自分の言葉で表現する感想文を期待したい。また、巧みな文章表現で独自性のある考察を述べる作品も見られた。読書感想文は批評文とは異なるが、鋭い着眼点に驚かされた。自己の体験や変容と関わらせて具体的に書くことで、より心に訴えるものになると感じた。

読書を通して、私たちは新たな「他者」と出会い、様々な知識や生き方や価値観にふれることができる。その出会いは、私たちの心を揺さぶり、時に励まし、成長させてくれる。そして、読書感想文として、自分で考えたことや感じたことを言葉で表現することで、その経験はより深まっていくはずだ。これからも、たくさんの本と出会い、そこに込められたメッセージを、素直な「今」の気持ちで受け取ってほしい。そして、自分自身の世界を広げ、豊かな人生を歩んでいってほしい。

担当　首藤未勇士

### ◉課題読書

今年度の課題図書は『with you（ウィズ・ユー）』『アーニャは、きっと来る』『牧野富太郎：日本植物学の父』の三冊である。県の審査対象となった

感想文は、全部で四十二編。その内訳は、『with you（ウィズ・ユー）』が二十二編、『アーニャは、きっと来る』が九編『牧野富太郎:日本植物学の父』が十一編であった。また、学年別では、一年生が十一編、二年生が十二編、三年生が十九編であった。

『with you（ウィズ・ユー）』は、母親の介護に携わる「ヤングケアラー」の少女・朱音と、優等生である兄と比べられることに、コンプレックスを抱いている中学生・悠人が出会い、交流していく中で、互いに惹かれ合う物語である。中学生の淡い恋愛、進学といったテーマだけでなく、家族の問題、「ヤングケアラー」の介護の辛さや現実を知ることができる作品である。

感想文の内容としては、『わたしは、いなくなんて、なれないんだ』という朱音の言葉から「ヤングケアラー」の過酷さを強調させた上で、自分自身にできることを考えている内容が主であった。一方で、「ヤングケアラー」は特殊な家庭環境であるため、自身の経験と重ね合わせることは難しく、朱音の境遇に共感することはできるものの、体験談や自己の変容につなげる際には、どうしても客観的になってしまう傾向がみられた。しかし、「ヤングケアラー」は近年になって認識され始めた問題であるため、現実や課題を知り、考えていくためのきっかけになってほしい。

『アーニャは、きっと来る』は、フランスの静かな山間部に住む、羊飼いの少年・ジョーが、村人全員と協力し、ナチスの迫害から逃れてきた十二人の子どもたちを、スペインへ亡命させるという物語である。ユダヤ人であるベンジャミン、ナチス兵であるホフマン伍長とジョーとの関わりから、戦争の悲惨さ、兵士の苦悩、人間の力強さを読み取ることができる。

感想文の内容としては、人種差別の悲惨な歴史を現代の人権問題（いじめや偏見など）と関連付け、自分がどんな意識を持ってこれから行動していくかということを論じている作品が多く見られた。その中でも、特に印象的だったのが、コロナウィルスによる、医療・介護従事者、感染者に対しての「差別」を取り上げた作品であった。コロナウィルス関連の問題は、子どもたちが初めて経験するものであったため、印象も強く、感情移入もしやすかったのではないかと思われる。未経験の出来事に恐れるあまり、感染してしまった人々や、最前線で尽力している医療・介護従事者への心無い言動を人種差別と重ね合わせることで、いかにコロナ差別が非道徳的であるのかということを際立たせて論じることができていた。

『牧野富太郎：日本植物学の父』は、植物を愛し、研究に没頭した牧野富太郎の伝記である。富太郎の植物に対する愛情や熱意によって、数多くの新種の植物が発見されたというエピソードからは、自分の好きなこと、やりたいことを追求し続けることの大切さを読み取ることができる。また、富太郎が植物に情熱を注ぐことができた要因として、彼を献身的にサポートする、祖母、妻、周りの人たちの存在が挙げられている。一生を植物研究に捧げるためには、いかに周囲の協力が必要不可欠であるかということも強く感じられる作品である。

感想文の内容としては、植物に対して情熱を注ぐ富太郎の様子を、自身の部活動や、趣味などの成功体験と重ね合わせ、続けることの重要性を論じている作品が多く見られた。富太郎の姿は中学生にとって、自身の経験と結びつけやすく、共感しやすい内容であったため、どの作品も体験談や自己の変容を具体的に述べることができていた。「中学生」という時期、様々なことに迷いを感じ、悩む時期だからこそ、富太郎のように、愛情や熱意をもって追求することの大切さ、周囲の人がサポートしてくれていることのありがたさを再認識し、今後の生活に活かしていってほしい。

本と出会い、新しい世界に触れることで、幅広い視野が身についていく。今回の課題図書三冊は、それぞれの視点から、中学生の感性を刺激する作品であった。中学生には読書感想文を書くことで、登場人物、筆者の見方、考え方に触れ、自分の視野を広げてほしい。そして、読書を通して、これからの人生を更に豊かなものにしていってほしい。

担当　中村　恭輔

### ◉指定読書

今年度の指定図書は『赤毛証明』『囚われのアマル』『ウルド昆虫記バッタを倒しにアフリカへ』の三冊である。県審査に出品された感想文は全部で四十二編。出品数の内訳は、『赤毛証明』二十三編、『囚われのアマル』十六編、『ウルド昆虫記バッタを倒しにアフリカへ』三編であった。また、学年別では、一年生十編、二年生十四編、三年生十八編であった。

『赤毛証明』は、主人公めぐが、ある日突然、赤毛であることを校則違反とみなされ、それを改善すべく、行動していく話である。校則問題や障がい者差別、友情とは何か、「ふつう」とは何かなど、めぐは様々な壁にぶつかっていく。また、登場人物すべてが「ふつう」でない。そして、この「ふつう」という言葉をキーワードに書かれた感想文が多かった。自分の「ふつう」が、「ふつう」でなくなった経験や、「ふつう」にできなくて悩んでいたことがめぐの悪戦苦闘する姿から、「ふつう」にこだわらなくていいと気付いてく様子が書かれていた。周りと同じであることが「ふつう」だと思われがちだが、十人十色、千差万別という言葉もあるように、一人として同じ人はいないということを、改めて考えさせられた。

『囚われのアマル』は、教師になることが夢だった十二歳のアマルが、父親の借金のせいで、自由と夢を奪われてしまうが、元の生活や夢を取り戻そうと、理不尽や不公平と戦っていく話である。現在のパキスタンの話として、自分の生活と照らし合わせて読んでいる感想文が多かった。また、男女差別、格差社会、貧困など、世界には一人の人として生きていく権利を侵害されている人々がたくさんいることに心を動かされ、自分にできることは何かと真剣に考えている様子が目に浮かんだ。

『ウルド昆虫記バッタを倒しにアフリカへ』は、昆虫博士前野ウルド浩太郎が、アフリカで、大規模な蝗害を起こすサバクトビバッタを、駆除しようと奮闘する話である。アフリカの大自然で暮らすこと、文化の違い、バッタ研究への情熱など、どの話題を切り取っても興味深く読める話である。この本の感想文は、研究者はこうありたいとか、夢を追いかけることのおもしろさに魅了されたとか、とにかく楽しんで読んでいるのが伝わるものばかりであった。作者の生き様が軽快な文章によく表れており、それが読む人をわくわくさせ、生き方にも刺激を与えていた。

指定図書の三冊は、主人公が様々な問題に直面し、乗り越えていく姿が描かれており、多様な視点で読めるような内容のものであったが、感想文は概ね似たような話の展開のものが多かった。その中で、最優秀や優秀作品に挙がった感想文は、体験に基づいた独自の論が述べられていたり、一歩踏み込んで考えを深めていたりしたものである。多様性を認め合うことを勧める社会の中で、本と寄り添いながらも、個性あふれる発想が盛り込まれた感想文が書かれていくことを期待する。

担当　藤本　久美

## 高等学校の部

### ◉自由読書

本年度、県審査へ応募された自由読書の作品数は、四十校から二百二十三編で、昨年度より八校・二十五編の増加となった。昨年度、新型コロナウイルス感染に伴う一学期の休校と夏期休業の短縮の影響で応募数が大きく減少したためで、応募校数はほぼ回復し、作品数は回復途上にあるという状況である。新型コロナウイルスによる影響や学校現場の更なる多忙化などの諸事情がありながら、作品を応募して下さったことに感謝申し上げたい。

自由読書の部は、課題読書以外のあらゆるジャンルの図書を対象としている。ノンフィクションや評論などは、小説と比較するとともすれば「感動」とは無縁なものに感じられ、読書感想文の対象図書としてはハードルが高いというイメージを持つ生徒がいるかもしれない。今年度の応募作品の対象図書として多かったブレイディみかこの『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』は、

このハードルを下げたものと言えるだろう。これを筆頭として、内容としては様々な視点からの多様性を軸としたものが、ジャンルとしてはノンフィクションが、いずれも例年と比べて多かったことが今年度の主な傾向である。また、人間の生死や医療をテーマとした本も多く読まれていることが窺え、戦争や平和に関するものも根強い。そしてテーマやジャンルの如何を問わず、コロナ禍の影響や一年延期された東京オリンピック・パラリンピックとの接点を見いだし、自身の思いを語ったものが目立った。

応募作品には、選書の理由や動機、本の内容の紹介やあらすじ、それに対する感想や自分自身の経験、という一定の型のものが多く見られた。しかし、本との出会いには偶発的なものも多く、その本を読むきっかけが、自分の置かれた状況や心境と必ずしも結びつくとは限らない。また、本のあらましは、感動の中心と特に関係がないのであれば省略してよいだろう。更に、内容の解釈や分析を試みることも無駄ではないにせよ、そこに読者の姿が見えなければ、感想文としては空疎な感が否めない。その本を読んで大きく揺さぶられた心のありさまを吐露し、自分の内面と向き合い、思索し続け深化させる。そこには実体験に裏打ちされた真情もあろう。それらを筆の勢いに任せて綴ることで、巧まずして既成の型が破られた文章にもまた、新鮮さや力強さが感じられるものである。無論奇を衒う必要は全くなく、これまでに培ってきた表現力でストレートに書き進めていくことが肝要であろう。

本年度の最優秀賞に選ばれたのは、金井侑里さんの「『生き方』の選択」である。宮下洋一のノンフィクション『安楽死を遂げるまで』を読んだもので、自らの体験も交えて死について巡らせた思索を、今をいかに生きるべきかという生のあり方の問いとして前向きに捉え直している。安楽死という結論の出ない問題に正面から向き合い、心の中の迷いを素直に表現した自然体の文章が高く評価された。

優秀賞に選ばれた細川紗菜さんの「私はここで咲く」は、渡辺和子の『置かれた場所で咲きなさい』を読んだもので、自身の小学校時代の決断を肯定的に受け止め、他者に視点を置くことの大切さへの気づきが、軽快なテンポの文章によくまとめられていた。宇野さくらさんの「『幸せとは何か』」は、吉野源三郎の『君たちはどう生きるか』を読んだもので、登場人物の言葉を自分の体験と照らし合わせて咀嚼し、人生を通して考え続け成長していこうとするひたむきな気持ちが伝わってくる作品である。伊東好香さんの「私は『何者』？」は、熊代亨の『何者かになりたい』を読んだもので、人間の存在を「構成要素」という概念によって捉えた説明に共感し、そこから自分の将来の進路や今後の生き方についての道が見いだせたことを力強く語っている。川西優凜さんの「自分だけの星を探して」は、今村夏子の『星の子』を読んだもので、信じることについて深く考察した意欲作であり、不確かさや危うさにも目を向けた上で、自分の「信じるもの」を探していこうという決意が見られた。江田愛來さんの「支え合える存在の奇跡」は、吉本ばななの『キッチン』を読んだもので、家族の死と孤独に直面する主人公への想いを、自らの体験をからめながら率直に表現しており、家族の存在意義についての認識を深めていくさまがよく窺える。大木鈴華さんの「他人の靴を履く」は、ブレイディみかこの『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』を読んだもので、他人の価値観を大切にして、悩みながらも多様化する社会を楽しんで生きていこうという明るい決意が清々しい作品である。二宮麗さんの「自分の色をもち、生き抜く」は、村田沙耶香の『コンビニ人間』を読んだもので、同調圧力の中で不自由に生きている自分を見つめ直すことで、他の人とは違う自分を確立し誇りを持って生きる重要性を力強く訴えていた。丸山華央さんの「『殻を破る。』」は、石井睦美の『ぼくたちは卵のなかにいた』を読んだもので、これまでの学校生活を振り返り、風刺画の中に自分を見いだしながら、安定した環境から未知の領域へ羽ばたこうとする決意を真摯に綴っている。

読書が、自己の内面の変革のみならず、日常生活や今後の人生にまで、たとえ些細なことであっても何らかの形で前向きな変化をもたらすならば、その本との出会いは、その人にとってかけがえのないものと言えるだろう。

### ◉課題読書

課題読書部門は、この一年以内に発行された本から、ＳＬＡが選んだ三冊を対象とした「感想文」を審査する。昨年度は感染症対策により、夏休みが短縮されたこともあり、十四校から四十六編と、例年に比べ少ない応募数となった。しかし、今年度は二十九校から百六編の応募があり、まだまだ苦しい状況が続く中、一昨年並の応募数となった。夏休みの課題とはいえ、一冊の本を読み通し、感想文を書くのは大変なこと。頭と心を精一杯使った生徒のみなさん、その作品一編一編に目を通された先生方に改めて感謝申し上げたい。

応募作品の内訳は、『科学者になりたい君へ』が十二編、『兄の名はジェシカ』が二十七編、『水を縫う』が六十七編と、書籍ごとの応募数に偏りがみられた。高校生の主人公清澄を中心とした家族小説『水を縫う』は読者にとって共感しやすく、また読みやすい文体も応募数の多かった原因であろう。

本年度最優秀賞に輝いたのも、その『水を縫う』を読んだ野亀志織さんの作品である。自分も、そして誰もが同じ課題を抱えていると登場人物に寄り添いながらも、「居心地の悪さ」を感じると言及する。ただ、「誰もが失敗する権利がある」という清澄の祖母の言葉には一筋の光を感じたようだ。高校受験での体験とも重なったのだろう。家族の気持ちを丁寧に咀嚼し、自分が感じた「居心地の悪さ」を分析していくうち、自分自身が様々な「普通」にとらわれていることに気づく。以前は「失敗する権利を認めず、自分の普通を押しつけた」と苛立っていた彼女がだ。そして、「何と人間はお互いを理解できないのであろう」という冒頭の嘆きも、最後には多様な考え方を面白いと感じ、自分と違った『普通』に触れていきたいという、前向きな発信に変化した。まさしく文章を書くことで自分自身と向き合い、変わろうとする高校生の限りない力と成長を感じた作品である。

優秀賞四作品のうち、二作品も『水を縫う』を読んだものであった。下村奈央さんは、小学校時代の体験から我々の潜在意識の中にジェンダー差別の概念が残っていると考察し、意図しない言動で誰かを傷つける可能性があることを危惧している。それと対称的に学校での話し合いで多様な考えを知ることを面白いとも感じているのが印象的であった。山口奈津美さんは、自分の意見に自信がを持てない時にこの本に出会ったという。特に清澄の祖母を「かっこいい」と表現し、清澄の名前が流れる水に由来することに「なんとすてきな名前」と感動し、周囲に流されそうな時はこの本を思い出し、「自分は自分」と心の中で呟やこうと決意する素直さに好感が持てた。

『科学者になりたい君へ』を読んだ上田紗菜さんは、研究職に就いている家族のようになりたいと、この本を手に取った。「学びと真っ直ぐ向き合える人間になる」ヒントをつかむためだ。最も心打たれたのは「科学者と倫理」というコラム。科学技術が戦争で誤った使い方をされた過去を踏まえ、「もしも父や兄の発見が、人殺しに使われたら」と心を痛める。しかし、コラムを読むことで、学びと向き合うヒントをつかむことができた。科学者を初めとした先人たちが導き出した原理や知識を受け継ぐために学ぶのだと。この作品を選んだこと、そして、この感想文を書き上げたことに、上田さんが家族を尊敬し、誇りに思う気持ちがうかがえた。

もう一人の優秀賞は『兄の名はジェシカ』を読んだ佐々木佳乃さんである。「今日から女になります」と男の子がみんなの前で発言した体験は、小学校五年生だった彼女には「違和感」「異様」と感じられたが、この作品を読み「腑に落ちる言葉を見つけた」と語る。それは「個性」。持病と闘っている彼女自身もマイノリティでなく、「個性」。この世界は「個性」が集まってできていると考えら

れるようになったという。この世の差別はまだまだ止まらない。でも見方を変えるだけで、人も「個性」も驚くほど素敵で誇らしいものになることを学んだ彼女は、「個性」を尊重できる理想世界の創造へ一歩を踏み出した。そんな彼女を応援したい。

今回は課題図書のうち、二作品が家族と多様性をテーマとした、現代社会を象徴する本であり、感想文も「普通とは」「自分らしさ」といった言葉が目についた。そこには自分らしい生き方を模索する高校生の心情が赤裸々に綴られているとも言えよう。『水を縫う』の一場面、清澄の刺繍に「え、めっちゃうまいやん。松岡君すごいな」と返ってきたスマフォのメッセージを、くり返し読む清澄の姿が描かれている。この友人宮田が学校に、社会に何人もいてくれたら……。また、今回の読書体験を通して宮田の役割をしてくれる高校生が増えたら……と考えるのは贅沢だろうか。

自由読書の審査概評

岡山県立岡山操山高等学校　石井　浩治

課題読書の審査概評

高梁市立宇治高等学校　大久保緑子

# 第 33 回読書感想画岡山県コンクール

## Ⅰ　日　程

6 月 17 日(木)　応募要項配布
　　第 1 回支部事務局長会議席上
12 月 17 日(金)　小・中 応募締め切り
応募先・事務局
　＊小学校・・・岡山市立竜之口小学校
　　山﨑　博之
　＊中学校・・・岡山市立岡山中央中学校
　　稲田　智恵
1 月 7 日(金)　高 応募締め切り
　＊高　校・・・岡山県立倉敷青陵高等学校
　　大口千恵子
1 月 7 日(金)　小学校の部審査
　　(岡山市立竜之口小学校)
1 月 12 日(火)　中学校の部審査
　　(岡山市立岡山中央中学校)
　　高等学校の部審査
　　(岡山県立倉敷青陵高等学校)

## Ⅱ　県審査員

審査委員長（SLA 会長）
鳥越　信行　　岡山県立倉敷南高等学校
審査副委員長（SLA 副会長）
青木　伸晃　　岡山市立操南中学校
森　　淳　　岡山市立岡南小学校

審査委員
平坂多恵子　　岡山市立幡多小学校
眞賀　典子　　岡山市立横井小学校
田村　敬子　　岡山市立南輝小学校
小橋　　諒　　岡山市立福浜小学校
古谷　浩子　　岡山市立平井小学校
上森　麻衣　　岡山市立東疇小学校
難波伊津美　　岡山市立福島小学校
田中　満史　　岡山市立馬屋下小学校
佐藤　泰之　　岡山市立第一藤田小学校
森下　智子　　岡山市立竜之口小学校
森田　英莉　　岡山市立竜之口小学校
有森　　香　　岡山市立竜之口小学校
片山のぞみ　　岡山市立竜之口小学校
山﨑　博之　　岡山市立竜之口小学校
相川　美穂　　岡山市立芳田中学校
藤本　久美　　倉敷市立南中学校
藤岡　昌子　　倉敷市立東中学校
眞賀　芳郎　　岡山市立吉備中学校
松﨑　千恵　　岡山市立足守中学校
藤本　淳平　　岡山市立高島中学校
達脇　知弘　　倉敷市立北中学校
松永美紀子　　倉敷市立北中学校
稲田　智恵　　岡山市立岡山中央中学校
藤原　光　　岡山県立備前緑陽高等学校
高取　亨一　　岡山県立瀬戸高等学校
妹尾　佑介　　岡山県立玉島高学校
横山　倫子　　岡山県立鴨方高等学校
大口千恵子　　岡山県立倉敷青陵高等学校

## Ⅲ　結　果

1）応募作品数・応募学校数

| 区分 | 令和元年度 | 令和２年度 | 令和３年度 |
|---|---|---|---|
| 小学校 | 850点/23校 | 1,226点/21校 | 755点/16校 |
| 中学校 | 115点/10校 | 75点/13校 | 64点/10校 |
| 高等学校 | 62点/11校 | 28点/ 9校 | 28点/10校 |
| 計 | 1,027点/44校 | 1,329点/43校 | 847点/36校 |

2）最優秀賞受賞者

**小学校低学年の部・自由**
　岡山市立第一藤田小学校　　1 年　松田　　龍
**小学校低学年の部・指定**
　岡山市立第一藤田小学校　　2 年　川上　美朱
**小学校高学年の部・自由**
　倉敷市立連島西浦小学校　　5 年　沖　かの子
　岡山市立御南小学校　　6 年　小西　花英

**中学校の部・自由**

| | | |
|---|---|---|
| 倉敷市立倉敷第一中学校 | 2年 | 西出　翔喜 |
| 倉敷市立北中学校 | 1年 | 冨谷　優花 |

**中学校の部・指定**

| | | |
|---|---|---|
| 倉敷市立連島中学校 | 2年 | 沖　メイ子 |
| 岡山県立岡山操山中学校 | 3年 | 湯浅　　心 |

**高等学校の部・自由**

| | | |
|---|---|---|
| 岡山操山高等学校 | 1年 | 沖　菜々心 |
| 岡山城東高等学校 | 1年 | 福本　千晴 |

**高等学校の部・指定**

| | | |
|---|---|---|
| 倉敷青陵高等学校 | 1年 | 片岡　郁登 |
| 総社南高等学校 | 2年 | 笹井百里子 |

3）全国コンクール入賞者

該当なし

# Ⅳ　審査報告

**【小学校の部】**

岡山市立竜之口小学校　山﨑　博之

○　審査事務の流れ

第３３回読書感想画岡山県コンクールへの応募校は，１６校と前年度より減少，応募作品総数も昨年度より減少し７５５点であった。そのうち，応募要項にもとづいて各校の校内審査を経た作品５３点が県コンクールに出品された。

審査会は，１月７日（金）に岡山市立竜之口小学校で行われた。図画工作・国語等に造詣の深い１５名の先生方にお集まりいただき，厳正かつ慎重に審査をしていただいた。

司書の尽力により，感想画の図書がアイウエオ順に並べられ，参考図書が傍らにあることで内容や挿絵の模写などの確認がスムーズであった。応募の規定に関する違反が数校で見られたので，指導者や担当者が，指導の段階から応募の決まりや趣旨などをしっかりと把握しておく必要があると感じた。

３学期はじめのご多用の中，ご協力くださった審査員の先生方に心より感謝申し上げる。

| | 自由読書 | 指定読書 |
|---|---|---|
| 最優秀 | 低１点　高２点 | 低１点　高０点 |
| 優　秀 | 低１点　高２点 | 低１点　高１点 |
| 入　選 | 低９点　高11点 | 低８点　高２点 |

【最優秀作品】

自由読書・低学年

指定読書・低学年

自由読書・高学年

指定読書・高学年

「該当なし」

○　審査概評・今後の課題等（※審査員の声を総括）

・「作品は，貼り絵や版画などオリジナリティーのあるものが多く，見ごたえがありました。作品に対する時間のかけ具合がすばらしい。しかし，出品作品が少ないのが，昨年度に続き悔やまれます。来年度もきっとこの傾向なのでしょうが…。高学年児童の「読書＋絵に表す」というハ ードルの高さを感じます。」

・「作品がもっとたくさん集まるような工夫があるとよい。（例えば，参加賞があると，もっと集まるかも？）授業で取り組むとき，ハードルが上がっていると思う。」

・「高学年の作品の審査を担当しました。１枚の画用紙の画面いっぱいに丁寧に表現した作品がいくつもあり，読書から受けた感銘と絵に表すことの楽しさ，喜びを感じる作品が，優秀賞，最優秀賞に選ばれていました。」

・「自分のクラスで取り組んでも「本の絵は真似したらだめよ。」と言っただけでは，挿絵に引っ張られていまうと思う。そう考えると，本の絵って読者にとっても重要なものなのだなあと感じた。その中で，本の世界を頭の中で展開させて自分の世界を築いている子の絵は，本当にすばらしいと思った。」

・「読書の感動が伝わるかどうかという基準で作品を見ると，確かに思いが伝わるものがある。と改めて感じました。読書の感動を絵に表すことの素敵さに気付くことができました。」

読書感想画に取り組むには，伝え合う力，想像力，表現力，読書に親しむ態度などが，求められる。そして，作品に表現することで様々な能力や態度の育成が期待できる。このコンクールの趣旨やよさを一層啓発し，各学校で積極的に取り組み，本コンクールが一層，発展・充実していくことを期待している。

**【中学校の部】**

岡山市立岡山中央中学校 稲田　智恵

募集要項に基づき、各校で応募作品を募り、校内審査を経た作品がコンクールに出品されました。本年度は、参加校 10 校、全応募作品数 64 点、県コンクールには 40 点の作品が応募されました。審査会は 1 月 12 日（火）午後 2 時 30 分から、岡山市立岡山中央中学校図書館にて行われました。県内の国語科・美術科担当の 8 名の先生方にお願いし、厳正な審査の結果、最優秀作品 4 点を中央コンクールへ出品しました。オミクロン株の脅威が迫る中、感染予防対策を徹底して審査を担当してくださった先生方には、大変お世話になりました。ありがとうございました。

指定読書部門に応募された作品については、例年よりもさらに出品数が少なかったのですが、質は高く、作者の視点が生かされた感想画が多く見られました。構図・色彩・画材に対する工夫が感じられ、スパッタリング、といったテクニックが使われている作品もありました。時間をかけて丁寧に仕上げられており、細部まで心情を表す努力がなされていることに感心しました。

自由読書部門に応募された作品については、様々な表現技法が遣われていて、色の塗り方も丁寧でした。作品の内容がしっかりと伝わってくる感想画に仕上げられていました。図書を自由に選択することはよいことですが、残念ながら、表現に対する甘さが感じられるものもありました。また、本の内容理解が不十分に感じられたり、表紙や挿絵に影響されたりしたものも見られました。

コロナ禍の中ではありましたが、学校司書の協力を得て予め準備を行った結果、スムーズに審査を行うことができました。今後の課題としては、年々減少していく応募数の食い止めをいかに図るかということが挙げられます。例年寄せられる意見ではありますが、応募時期を繰り上げてほしいという現場からの声が切実です。また、本審査会の時期が、倉敷市の先生方にとって、学校行事と重なるため出張しにくいという課題も寄せられました。さらに、審査の観点として、感想画の裏面の作文や、本の内容理解が審査の主流にならず、画の美しさや技術的な面が重視されるのであれば、審査員の割合を半々から国語科減、美術科増としてはどうかという意見が寄せられました。

今年度も本コンクールに応募・参加してくださった多くの学校の先生方にお礼申し上げます。来年度さらに多くの皆様にご参加いただけますよう、ご協力お願いいたします。

【高等学校の部】

岡山県立倉敷青陵高等学校　　大口　千恵子

**○審査事務の流れ**

読書感想画岡山県コンクールは，２００４年度から小学校・中学校・高等学校の部に分かれて事務局を置き，県ＳＬＡ事務局と連携して審査事務を行っている。

本年度は支部事務局長会議で岡山県コンクールの募集要項を配付し，支部内の各校への要項配付と説明を支部事務局に依頼した。９月末には中央コンクールの募集要項が配付され，指定図書が発表された。『世界とキレル』（佐藤まどか 著），『零から０へ』（まはら三桃著），『きみのいた森で』（ピート・ハウトマン 作　こだまともこ 訳），『大切な人は今もそこにいる：ひびきあう賢治と東日本大震災』（千葉望　著），『武器ではなく命の水をおくりたい　中村哲医師の生き方』（宮田律著）の５冊が今年度の中学校・高等学校の部の指定図書であった。

１月７日（金）に締め切られた県コンクールへの応募数は以下の通りである。

**〈コンクール応募総数〉**

| 応募校数 | 自由読書 | 指定読書 | 作品合計 |
|---|---|---|---|
| ９校 | ２２点 | ５点 | ２７点 |

岡山県コンクール審査会は，１月１１日（火），倉敷青陵高等学校の会議室で行われた。国語・美術の担当教諭で，特に学校図書館に造詣の深い４名（備前支部２名，備中支部２名）に審査をお願いした。

事務局から応募点数・審査基準などの説明・確認をした後，指定読書・自由読書の順に審査を行った。応募作品の対象図書を手元に用意し，作品と参照しながら対象図書の表紙や挿絵の引き写しなどがないか，対象図書が「募集要項」に適合しているかなどを確認し，厳正かつ慎重に審査を行った。

その結果，自由読書２点，指定読書２点，計４点の最優秀作品を決定し，中央コンクールに出品することができた。

**〈受賞作品数〉**

| | 自由読書 | 指定読書 |
|---|---|---|
| 最優秀 | ２点 | ２点 |
| 優　秀 | ２点 | ３点 |
| 入　選 | １０点 | ０点 |

**○審査概評・今後の課題**

審査の先生方から以下の講評をいただいた。

- 本の内容に対する自分なりの読みを表せて、読書から豊かなイメージを膨らませている力作が多かった。単に印象的なシーンを絵にするのではなく、読んだ人なりの思いを、工夫を凝らした色使い、構成などで表現されていた。出品者のコメントも参考になる。簡単に言葉にできないものを絵で表現するのは意味のあることだと思う。
- どの作品もレベルが高く、落選してしまった生徒も素晴らしいものを持っていると感じたので、自信を持ってほしい。
- 作品のイメージを自分なりに解釈する時間や、解釈したことを伝えるために、何をどのようにどんな技法で描くのか、試行錯誤する時間をしっかり持ってほしい。
- どこかで見たことのあるイメージに頼りすぎるのではなく、自分と本との共同作業で描くような気持で進めてほしい。
- 指定読書の出品が少ないのが残念である。要項の発表時期も影響していると思われる。
- もう少し大きいサイズにチャレンジしてほしいと感じるものが多かった。
- 本や絵画に触れてこころを動かされる体験を得る機会を積極的に作ってほしい。

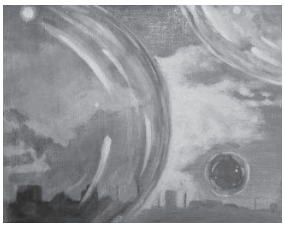
**指定読書部門　最優秀賞**

「越えて」

「虹ふうせん」

**自由読書部門　最優秀賞**

「二人で」



「瞳のフィルター」

# 絵　本　研　究　部　会

## １．令和３年度の活動状況

本年度は22年度から続けている「心をつなぐ絵本」というテーマのもと，サブテーマを「SDGs とつながる絵本」とし，研究を進めました。

研究部会では新刊絵本を中心に幼稚園から高等学校までの実践報告を持ち寄り，報告し合いました。

毎年発行している「読み聞かせたい絵本」は№３８を発行・配布しました。

## ２．研究部会絵本研究部会設置要綱

（1）設置について

岡山県学校図書館協議会規約第４条２項により，絵本研究部会を設置する。

（2）目　的

この部会は，絵本の指導のあり方を研究し，児童・生徒・父母の読書活動を促進する。

（3）活　動

①毎月に開く部会で，研究する内容

ア．絵本の見せ方・選び方

イ．絵本の読ませ方・読み聞かせのあり方

ウ．絵本作りのあり方

エ．その他　絵本研究のための必要な活動

②研究成果の発表

ア．各郡市地区事務局を通じての内容紹介

イ．研究収録への収録

ウ．研究大会での発表

エ．その他　絵本実践を推進するための発表

（4）構　成

①（部員の委嘱）

部員は，地区組織を通して募集し，会長が委嘱する。

②（部員数）

部員の人数は約10名とし，幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教諭・司書を含める。

## ３．令和３年度絵本研究会委員

（敬称略　順不同）

| | | |
|---|---|---|
| 部会長 | 森　　淳 | 岡山市立岡南小学校長 |
| 事務局長 | 武田　綾子 | 岡山市立牧石小学校教諭 |
| 研究部員 | 西垣　淳司 | 岡山市立陵南認定こども園<br>保育教諭 |
| 〃 | 篠　　崇敏 | 岡山市立鹿田認定こども園<br>総括主任 保育教諭 |
| 〃 | 森田　英莉 | 岡山市立竜之口小学校教諭 |
| 〃 | 難波　　真 | 倉敷市立庄中学校教諭 |
| 〃 | 山田　宏美 | 倉敷市立東陽中学校教諭 |
| 〃 | 山本　　泉 | 岡山市立岡山後楽館高等学校教諭 |
| 〃 | 高槻　美保 | 岡山県立玉島商業高等学校教諭 |

## ４．今年の取り組み

今年度は県大会で２名の部員が発表しました。「心をつなぐ絵本」というテーマのもと，サブテーマを「心をつなぐ絵本」とし，実践を発表しました。コロナ禍で人との触れ合いが難しい中，絵本を通して命の大切さや，人との絆を感じてほしいという願いからです。幼児や小学校低学年向きには，友達と関わっている感覚がもてる「参加型絵本」や「くり返し絵本」で心をつなぐことを研究しました。

また、今年度から新しくサブテーマを「SDGs とつながる絵本」とし、子どもたちが自分たちの住む地球環境や他の生き物の様子に目を向け、これからの生活を考えるきっかけになる絵本を研究しました。「読み聞かせたい絵本」の中で紹介しています。子どもたちがよりよい絵本と出会えるよう，得られた情報をより多くの教育現場で実践にかけていただくために，今後も紹介文研究も引き続き進めていきます。

# 読み聞かせたい絵本　No.３８

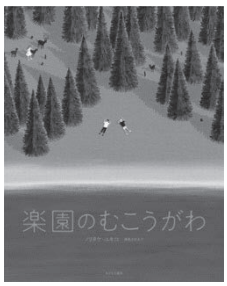
2021.12

岡山県学校図書館協議会絵本研究部会

岡山県学校図書館協議会絵本研究部会では，「心をつなぐ絵本」という研究テーマのもと今年度は「ＳＤＧｓとつながる絵本」をサブテーマとし，研究と実践を続けてきました。研究を通して確認された絵本と新しく出会った絵本の中から，読み聞かせたい絵本をお知らせします。

書　　名
著　　者　　出版社　税込価格　出版年　実践学年

## ＳＤＧｓとつながる絵本

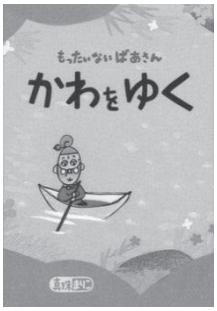



**楽園のむこうがわ**

ノリタケ・ユキコ 作　椎名かおる　文　あすなろ書房　￥1,650
2021　　小高～高

同じ場面から２つのストーリーが始まります。大好きな場所をもっと大好きな場所にするために，自分たちの幸せを求めて……。

自分たちの今の暮らしを，未来を，世界の進む先を，自分のペースでゆっくりじっくり考えたくなる絵本です。




**もったいないばあさん　かわをゆく**

真珠まりこ　作　　講談社　　￥1,650　　2019　　小～中

「もったいない」が口ぐせのもったいないばあさんが，ポイ捨てがどんなに悪いことなのかということを教えてくれます。この絵本を読んだ後は，ごみのポイ捨てなんてしたらいけない！ごみが落ちていたら拾わなくっちゃ！という気持ちにさせてくれるのではないでしょうか。

**プラスチック星にはなりたくない！地球のためにできること**

ニール・レイトン　作・絵　いわじょうよしひと　訳
ひさかたチャイルド　　￥1,760　　2020　　小～高

今注目を集めているプラスチック製品についてよくわかる絵本です。プラスチック製品がどうやってできたのか，環境にどう影響を与えるのか，絵や写真を通して興味深く紹介しています。調べ学習にも活躍しそうな一冊です。

**こんにちは！わたしのえ**

はた　こうしろう　作　ほるぷ出版　￥1,540　2020　幼～高

まっしろの紙に自分の絵を描くときのあのドキドキ感やワクワク感。絵筆だけではなく，手や足，からだ全部を使って表現する。「絵を描くのって，たのしい！きもちいい！」そんな感覚を一緒に楽しめる一冊。鮮やかな色遣いと生き生きとした女の子の表情にも注目です。

**もっとおおきなたいほうを**

二見正直　作・絵　　福音館書店　￥990　2009　幼～小低

王様は先祖代々伝わる大砲を撃ってみたくてしかたがありませんでしたが，戦争がないため撃つことができませんでした。そんなある日，ひょんなことから川の向こう岸のきつねを追っ払うために，大砲を撃つことになりました。逃げていったと思ったきつねは，もっと大きな大砲を持って現れます。それに負けじと王様も……。ページをめくるたびに驚きや笑いが起こる一冊です。そして何より平和が一番と思わせてくれる絵本です。

## 命について考える絵本

**秋**

かこさとし　文・絵　　講談社　￥1,760　2021　小高～高

「私はちいさいときから，秋が大好きでした。ところが，そのすてきな秋を，とてもきらいになったときがありました。とてもいやな秋だったことがあります。」戦争のイメージは終戦を迎えた夏のように思っていましたが，絵本のこの言葉を読んでタイトルを「秋」にした作者の思いが伝わります。秋の季節に読み聞かせて，子どもたちと日常の中の平和について語り合いたいと思わせる絵本です。

**ぼく，こわかったんだ**

横須賀　香　作・絵　ＢＬ出版　　￥1,650　2019　小中～高

「ぼく，さいきんしぬってことを考えると，すっごくこわい。」死んだらどうなるのか，不安でたまらない少年。子どもの頃，誰もが一度は死に対する漠然とした恐れを抱くと思いますが，そんな不安にやさしく寄り添ってくれる絵本です。写実的でありながら温かさを感じる絵にも引き込まれます。

## 心が癒やされる絵本

**しずかな夏休み**

キム・ジヒョン　作　光村教育図書　￥1,540　2021　幼～高

モノトーンの色調の絵が静かで優しい，字のない絵本です。林の中を吹き抜ける風，セミの声や湖畔の波のキラキラまでページから立ち上ってくるようで，まさに絵がたくさんのことを語りかけてきます。帰省もままならないこの時期に，田舎に帰る気分を子どもたちと共有できそうです。

## あたたかな気持ちになる絵本

**ちびゴリラのちびちび**

ルース・ボーンスタイン　作　岩田みみ　訳

ほるぷ出版　　￥1,375　1978　　幼～小低

ちいさなかわいいゴリラのちびちび。おかあさんもおとうさんも森の動物たちも，みんなちびちびが大好きでした。どこに行っても愛されているちびちび。そんなある日，なにかが起こりました。ちびちびがどんどん大きくなって……。みんなに愛され大きくなっていくちびちびのかわいいお話に心の温まる絵本です。

## 版画の絵本

**雨ニモマケズ**

宮沢賢治　作　小林敏也　画

好学社　　￥1,870　2013　幼～高

「雨ニモマケズ」の有名なフレーズが版画の絵本になりました。詩の一言一言が，紙面いっぱいに広がり，版画独特の迫力と美しさに目が離せません。ちょっとした遊び心もあって，子どもから大人まで楽しめます。

**みたらみられた**

竹上　妙　作　　アリス館　　￥1,650　2021　幼～中

散歩道で出会った野良猫，野原で草を食べる牛たち，ふと目が合った生きものたちを「見たら」なんと向こうからも「見られた！」ドキッとする瞬間を，迫力ある木版画の絵で色鮮やかに，そしてどこかユーモラスに描いています。

楽しい絵本

**どんぐり**

エドワード・ギブス　作　谷川俊太郎　訳

光村教育図書　　￥1,430　2014　　幼～小

地面に落ちた小さな一粒のどんぐり。いろいろな動物がやってきて食べられそうになるのですが，そのたびに「お願い，いまは食べないで。いまにもっとおいしくなるから」と言います。やがて立派な樫の木になるどんぐり。繰り返しが心地よく，最後はページが広がる仕掛けにも驚かされます。動物たちの思いやりや，小さなどんぐりに詰まった生命力が感じられます。

**なわとびょ～ん**

シゲリカツヒコ　作

KADOKAWA　　￥1,540　2021　　幼～中

なわとびが苦手なケンタの前に，謎のカエル男の二人組が現れてケンタをなわとびに誘います。意外なメンバーが意外な場所で大なわとびを跳んでいく繰り返しが楽しめます。跳ぶ前と跳んだ後のページを見比べると，いろいろな発見もあります。運動会の前に読むと盛り上がるかも。

**ねこはるすばん**

町田尚子　作　　ほるぷ出版　　￥1,650　　2020　　小～高

家の人がみんな出かけた後，ねこはどんなふうにおるすばんをしていると思いますか？実はみんなの知らないところでカフェや美容室，釣り堀などへ行っているかも……！？ページをめくるたびに，笑いとねこへの愛が生まれる絵本です。

# 優　良　図　書　研　究　部　会

## 1　活動内容

当部会では、５月、６月、８月、１０月、１１月、１月、２月の年８回、県立図書館の御協力において、新刊図書の中から、小学校・中学校の児童・生徒のための「おすすめの本」を選定しています。

研究員は、小学校（低学年・中学年・高学年）と中学校の４グループに分かれ、下記の選定基準に沿って、また、過去の傾向や、価格面、ページ数、字の大きさなど、いろいろと配慮しながら、それぞれのグループで意見交換した上で選定作業（書評の記入等）をすすめています。

ただ、インターネットの利用拡大に伴い、本の現物が少なくなっている現状もあります。そのため、選定月により新刊本の出版数に多い少ないがあり、また、学年によっては、分類が偏る傾向があるなど、年間を見通した選定も必要となります。

長期休業中を利用して、児童・生徒に「こんな本を読んでみたらどうですか」と、お勧めの本も紹介しています。このお勧めの本は、読書感想文のための本とは限らず、各学年に応じて、読んでおいてもらいたいという本の最新刊をそれぞれ選定しています。

これは、それまでの各月の選定図書の中から選ばれ、夏休みと冬休み前に、県下の小・中学校に「みなさんにすすめたい本」として、本の書評をつけて、配布しています。（カラー版ではないのが残念ですが・・・）今年度は感染症拡大予防として県立図書館の閉館があり、冬休み前の１回のみの配布となっています。

これらの本は、岡山県青少年保護育成条例に基づく推薦図書の中にも入れられ、「岡山県公報」に載せられて広く紹介されています。

岡山県青少年読書感想文コンクールでは、岡山県独自のものとして、昭和５５年から指定図書を設けていますが、ここでも、当部会の選定図書をもとに、毎年３月、岡山県指定図書選定委員会が県立図書館にて開かれ、優良図書として選定された本の中から、小学校低・中・高学年・中学校向けに、３冊ずつを選んでいます。

この研究部会の活動が、県下の小・中学校の児童・生徒の読書、先生や保護者の方々の読書指導の道標として、今後も、より効果的に機能するように活動していきたいものです。

## 2　選定基準

１　内容事項

（1）教育課程によく合っていて、その内容を豊かにするものであるかどうか。

（2）　子どもたちが、興味をもって読め、小（低）、小（中）小（高）、中学生の発達段階に合ったものであるかどうか

（3）分かりやすく、正確で、現代の進歩に応じているかどうか。

イ）統計は正確で、調査年度、出典が正確であるかどうか。

ロ）より新しい知識であり、新研究であるか、新しい方法であるかどうか。

ハ）事実の叙述は、科学的に正確で、実際的であるかどうか。

ニ）引用文、挿し絵、写真、図表などは、正確、鮮明、適切であるかどうか。

ホ）翻訳は原意を伝え、分かりやすく、原著者、年代、原著書が明記されているかどうか。

ヘ）断片的な知識でなく、体系的にまとまりのあものであるかどうか。

（4）　主題を単に解説したものはとりあげない。

２　編集・出版事項

（1）　短編集は採用しない。

（2）　多くの合さんのものは採用しない。

（3）　新刊書であること。

（4）　辞典、事典類は採用しない。

（5）　シリーズ全巻を対象としない。

３　図書群の構成事項

（1）　特選図書全体を通して、ある分類ばかりに偏り過ぎない。できるだけ広い分野で考慮する。

（2）小（低）、小（中）、小（高）、中学生向けのバランスを考慮する。

４　装丁・体裁事項

（1）製本、外観、大きさが適切で、書誌的体裁が整っているか。

（2）用紙は上質、印刷は鮮明、色彩は美しく、字の大きさ及び行間の余白が適切であるか。

## 3　優良図書研究会部員

部会長　森　淳　岡山市立岡南小学校長

事務局長　武田　綾子　岡山市立牧石小学校教諭

研究部員

〈小学校の部〉

木下由布子　岡山市立陵南小学校教諭

大﨑　薫　岡山市立豊小学校教諭

小川　薫　岡山市立芳泉小学校教諭

森田　英莉　岡山市立竜之口小学校教諭

沖田　恭子　岡山市立御南小学校司書

住友　加奈子　岡山県立図書館総括主幹

〈中学校の部〉

岡本　大典　倉敷市立琴浦中学校教諭

藤本　久美　倉敷市立南中学校教諭

牧野　佳恵　岡山市立操山中学校司書

西川　依里　岡山市立上道中学校教諭

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

令和３年12月

# みなさんにすすめたい本

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

**岡山市教育委員会**
**岡山県学校図書館協議会**

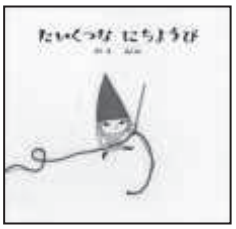
もうすぐ楽しい冬休みがやってきます。みなさんにおすすめしたい本を学校図書館協議会の先生方に選んでもらいました。これらの本の中から一冊でも多く読んで，楽しい時間を過ごしてください。

**〈おうちのかたがたへ〉**

保護者が子どもに本を読むことは，読書に親しむ基礎づくりになります。また，読書をすすめることにより，心が通じ合い，対話がよりいっそうふえることになります。

しょうがっこうていがくねんむ
## 小学校 低学年向き

| 分類 | 著者名 | 書　　名 | 発行所 | ページ<br>価格（税込） |
|---|---|---|---|---|
| E | MICAO/作・絵 | **たいくつな　にちようび** | 理論社 | 31ページ<br>1595円 |




たいくつにしていた日よう日にあらわれた，赤いぼうしの女の子，ステッチさん。なにやらぼうしから，さいほうどうぐをとりだして，チクチクチクチク…。はりと糸から生まれるワンダーランドへいってみよう。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 913 | 川之上英子・川之上健<br>／作・絵 | **おじょうさま小学生はなこ　②<br>VS　にがてなてつぼう** | 岩崎書店 | 71ページ<br>1210円 |

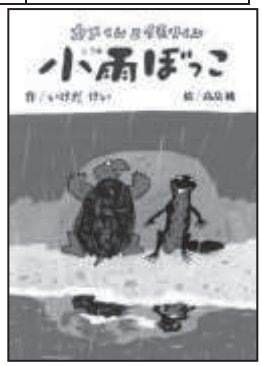
はなこは，おじょうさま小学生。あしたの体育はてつぼうだけど，はなこはさかあがりができません。学校をやすんでしまおうか，どうしようかとなやんでいるようです。はなこはどうやってのりきるのでしょうか。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 913 | 宮下すずか/作 | **でんごんゲーム<br>ゆかいなことば　つたえあいましょうがっこう** | くもん出版 | 64ページ<br>1100円 |

みなさんは「でんごんゲーム」をしたことがありますか？きいたことを口で まちがいなく正かくに あいてにつたえるのはむずかしいことですね。どうやら，つたえあいましょうがっこうでは たいへんなことになってしまったようです。

## 小学校中学年向き

| 分類 | 著者名 | 書　　名 | 発行所 | ページ<br>価格（税込） |
|---|---|---|---|---|
| 913 | いけだ　けい／作 | **カメくんとイモリくん<br>小雨ぼっこ** | 偕成社 | 126 ページ<br>1320 円 |

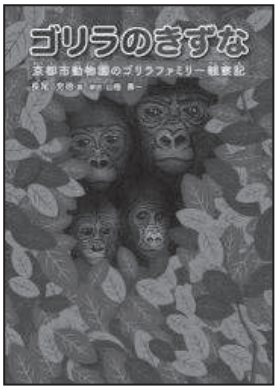



カメくんとイモリくんはなかよしのおとなりさんでした。しかし，イモリくんは家が大雨で流され，流れ着いた遠くの「ひきがえる池」に引っこしてしまいます。１年ぶりに再会したうれしそうな２人の世界に引きこまれます。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 913 | 枡野　浩一／作 | **みんなふつうで、みんなへん。** | あかね書房 | 95 ページ<br>1320 円 |

かんちがいや思い込みはだれもがすること！人はだれでも“へん”なところがある。けれど，それは本人にとっては“ふつう”なこと。だから「みんなふつうで，みんなへん」。それでいいんだと思える１冊です。

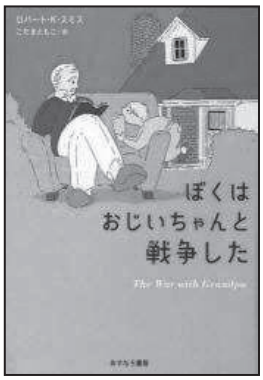
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 489 | 長尾　充徳/著 | **ゴリラのきずな<br>京都市動物園のゴリラファミリー観察記** | くもん出版 | 128 ページ<br>1540 円 |




日本一有名なゴリラの家族を知っていますか。それはこの本に出てくる「モモタロウファミリー」です。お父さんのモモタロウ，お母さんのゲンキ，長男のゲンタロウ，次男のキンタロウの４頭の性格や生活について，飼育スタッフの長尾充徳さんが書いています。読んでいるうちに人間の話を読んでいるのかと思ってしまうくらい親しみ深いモモタロウファミリー。読んだ後は京都市動物園に行きたくなります。

## 小学校高学年向き

| 分類 | 著者名 | 書　　名 | 発行所 | ページ<br>価格（税込） |
|---|---|---|---|---|
| 933 | ロバート・K.<br>スミス／作 | **ぼくはおじいちゃんと戦争した** | あすなろ書房 | 167 ページ<br>1320 円 |




おじいちゃんが自分の家に引っ越してくると聞いて，ピーターは大喜び。しかし，自分の部屋を明け渡すことに納得がいかないピーターは，大好きなはずのおじいちゃんに宣戦布告。どんどんエスカレートしていく争いを止める方法とは何でしょうか。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 913 | 葉山 エミ／作 | **ベランダに手をふって** | 講談社 | 175 ページ<br>1540 円 |

毎朝お母さんと手を振り合い，登校する輝（ひかる）。お父さんを亡くしてからずっと続けてきたこの習慣ですが，クラスメイトに見られてからかわれ…。大人への一歩を踏み出した子どもたちの成長が丁寧に描かれた，心温まる物語です。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 489 | 森本　祈恵／著<br>小林　朋道／著 | **カワネズミを見てみたい！**<br>**水にもぐる銀色の小動物の研究** | くもん出版 | 144 ページ<br>1540 円 |

「モグラなのに名前はネズミ。泳ぎ，銀色に光る」という不思議な生き物，カワネズミ。彼らに魅了された大学院生が，岡山出身で『先生！』シリーズでもおなじみの小林朋道教授とともに，多くの実験や観察を経てその秘密に迫る，探求心にあふれた一冊です。

## 中学生向き

| 分類 | 著者名 | 書　　名 | 発行所 | ページ<br>価格（税込） |
|---|---|---|---|---|
| 913 | 山本悦子／著 | **ボーダレス・ケアラー**<br>**生きてても、生きてなくても**<br>**お世話します** | 理論社 | 237 ページ<br>1540 円 |

夏休みの間だけ祖母の介護を引き受けたカイトは，未練があってあの世とこの世の境目でさまよう‘ボーダー’たちの姿が見えるようになる。彼らの心残りの解決を手伝う（ケアする）ことにしたカイトは，仲良くなったセーラの心残りを調べ始めるが…。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 933 | ベン・デイヴィス／著 | **サヨナラの前に、ギズモにさせてあげたい９のこと** | 小学館 | 363 ページ<br>1760 円 |

ジョージの愛犬ギズモは１４歳。お別れの日が来るまでにギズモとやりたいことを考えて，リストアップ。ジョージとギズモは，思いもよらぬ冒険や壁を共に乗り越え，１つ１つやり遂げていきます。ギズモ目線のコメントも楽しい本です。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 489 | 田島木綿子／著 | **海獣学者、クジラを解剖する。**<br>**海の哺乳類の死体が教えてくれること** | 山と溪谷社 | 335 ページ<br>1870 円 |

「解剖」「死体」というと非日常的な世界のことに思われますが，実はそこからどのように生きたのかが明らかになります。そして，海の生き物の生死に，陸に住んでいる私たちの生活が深く関わっていることも教えてくれる本です。

# 指定図書選定委員会

令和４年３月４日（金），に予定していた，指定図書選定委員会がコロナ禍で中止されたため，令和４年度第68回青少年読書感想文岡山県コンクールの「県指定」図書は書面協議で選定した。来年度４月に発表される全国コンクールの課題図書と照合し同作品が課題図書となった場合は、候補作の中の優先順位の高い作品から選定する予定である。

## 指定図書選定委員

〈県ＳＬＡ〉

鳥越　信行　　岡山県立倉敷南高等学校
森　　淳　　岡山市立岡南小学校
青木　伸晃　　岡山市立操南中学校
武田　綾子　　岡山市立牧石小学校
早川夕加里　　岡山市立岡南小学校
池田　麻子　　岡山市立高松中学校
湯浅　憲一　　岡山市立中山中学校
平松　玲子　　岡山県立倉敷南高等学校
大西　結美　　岡山県立倉敷南高等学校

〈小学校委員〉

木下由布子　　岡山市立陵南小学校
大﨑　　薫　　岡山市立豊小学校
小川　　薫　　岡山市立芳泉小学校ひばり分校
森田　英莉　　岡山市立竜之口小学校
沖田　恭子　　岡山市立御南小学校
住友加奈子　　岡山県立図書館

〈中学校委員〉

岡本　大典　　倉敷市立琴浦中学校
藤本　久美　　倉敷市立南中学校
西川　依里　　岡山市立上道中学校
牧野　佳恵　　岡山市立操山中学校

〈アドバイザー〉

後藤　直之　　岡山県教育庁義務教育課

## 岡山県指定図書について

１　内　容

読書感想文コンクールの自由読書と課題図書の他，岡山県独自の応募区分「県指定」を設ける。

２　目　的

(1)　岡山県の状況に応じた読書普及を推進する。

(2)　何をどう読ませるか，図書の選択や読書指導の手がかりにする。

(3)　よりよい図書をより多くの子どもたちに読ませ，読書生活を豊かにさせる。

(4)　岡山県優良図書選定委員会の選定した図書の有効活用を図る。

３　方　法

(1)　岡山県指定図書は，指定図書選定委員会を設けて協議し，決定する。

(2)　岡山県学校図書館協議会優良図書研究部会の選定した図書などから選定する。

(3)　冊数は，小学校低学年３点，小学校中学年３点，小学校高学年３点，中学校３点とする。

４　その他

(1)　字数，用紙，応募作品，出品数，締め切り，送付先，審査，その他の注意事項については，他の区分の応募要項に準ずる。

(2)　全国コンクールの応募については，自由読書と一緒にして再度審査し，規定どおり出品する。

(3)　岡山県指定図書は，昭和55年度（第26回）から設けている。

令和３年度岡山県指定図書（県指定）

| 学年向 | 書名（シリーズ）<br>著者名 | 発行所 |
|---|---|---|
| 小<br>（低） | 『ころがれない　いしっころリッキー』<br>ミスター・ジェイ | イマジネイション・プラス |
| | 『区立　あたまのてっぺん小学校』<br>間部　香代 | 金の星社 |
| | 『雨の日は、いっしょに』<br>大久保　雨咲 | 佼成出版社 |
| 小<br>（中） | 『セイギのミカタ』<br>佐藤　まどか | フレーベル館 |
| | 『チャーリー、こっちだよ』<br>キャレン・レヴィス | BL 出版 |
| | 『ぼくらしく、おどる　義足ダンサー大前光市、夢への挑戦』<br>大前　光市 | 学研プラス |
| 小<br>（高） | 『雷のあとに』<br>中山　聖子 | 文研出版 |
| | 『おじいちゃんとの最後の旅』<br>ウルフ・スタルク | 徳間書店 |
| | 『ケンさん、イチゴの虫をこらしめる「あまおう」栽培農家の挑戦！』<br>谷本　雄治 | フレーベル館 |
| 中学校 | 『赤毛証明』<br>光丘　真理 | くもん出版 |
| | 『囚われのアマル』<br>アイシャ・サイード | さ・え・ら書房 |
| | 『ウルド昆虫記バッタを倒しにアフリカへ』<br>前野ウルド浩太郎 | 光文社 |

# 岡山県学校図書館協議会司書部会 活動報告

## １．令和3年度岡山県学校司書研修会（津山大会）　中止

新型コロナウイルス感染拡大防止のため，令和３年５月１７日付で令和３年度岡山県学校司書研修会の中止を連絡。それに伴い総会資料はＨＰで公開して意見を集約，８月４日にWeb会議システムを利用して臨時理事会兼総会を開催し，報告と議案の承認を行った。

## ２．令和３年度学校司書実態調査

目　的：学校司書の配置並びに雇用状況と，各地区での活動状況について情報収集する。
上記情報と会員名簿を作成し，大会で配布する。
但し，令和３年度も昨年度に続き大会を中止としたため，情報のみをＨＰで公開。

日　程：３月初旬　理事選出支部へＥメールを送付して依頼。
４月中旬　支部事務局長へＥメールを送付して依頼，支援学校へFAXで依頼。
５～６月　各支部事務局内の各学校に調査依頼・回収・集計。
６月４日　調査結果回収締切。
６～７月　まとめ作業，不明な点は確認，情報部分のみをＨＰで公開。
会員名簿は，理事会保管とする。

実　態：

- 岡山市では，正規職員２名の退職を公共図書館からの正規司書１名の異動と会計年度任用職員１名の採用で補充したため，正規職員が１名減となった。
- 赤磐市では，会計年度任用職員が１名増員されたことで兼務が解消され，今年から１校１名の全校配置になった。
- 加賀郡吉備中央町では，会計年度任用職員が１名増員されたことで，小学校１校が専任になった。
- 倉敷市では長年１校１名全校配置を堅持してきたが，児童数の減少により司書が１名減となり，司書未配置校が生じることになった。
- 浅口市，高梁市，久米郡美咲町，真庭市では，兼務ながらも全校に司書が配置されていたが，司書の欠員や少子化を理由に司書未配置校が生じることになった。
- 苫田郡鏡野町では，新たに２名の会計年度任用職員が配置され，兼務ではあるものの全校が司書配置校になった。
- 美作市では，会計年度任用職員が１名減となり８人での兼務になった。
- 備中地区では，司書不在だった私立高校が中学部新設で中高一貫校になったのを機に，正規職員の司書が１名配置された。

## ３．司書部会ホームページ

ＵＲＬ：http://okayamasisho.qee.jp/

目　的：学校司書の配置状況ならびに雇用の状況，地区での活動状況，司書部会沿革，司書部会活動状況等を広報するために運営

内　容：上記の他，学校図書館関連ニュース（新聞記事や議会議事録），図書館イベント情報（講演会や研修会），学校司書採用試験情報，司書教諭と学校司書の連携協力による実践事例，学校図書館の活用方法や児童生徒の読書活動に関する情報収集・共有など

課　題：広く情報収集をしていくことと，その情報を閲覧してもらうこと
情報がありましたら，県立岡山一宮高等学校・加茂さん（TEL:086-284-2241　FAX:086-284-2243　E-MAIL：seitarou_kamo@pref.okayama.jp）までお願いいたします。

## ４．司書部会理事会

◇第１回理事会　　令和３年６月３日　岡山県立倉敷南高等学校予定を中止　書面回覧
・各支部の研修計画・学校司書実態調査について
・令和３年度岡山県学校司書研修会(津山大会)中止について
・総会準備について

◇臨時理事会兼総会
令和３年８月４日　岡山県立倉敷南高等学校予定をWeb会議システムに変更
・令和２年度の活動，決算・監査について（報告）
・令和３年度活動方針案，予算案について
・令和３年度学校司書実態調査について（報告）
・第４４回岡山県学校司書研究協議会（岡山大会）及び今後の大会について

◇第２回理事会　　令和３年９月３０日　Web会議システムにて
・令和３年度活動方針に係る具体的な役割分担について
・学校図書館の充実に関する提案書について
・第４４回岡山県学校司書研究協議会（岡山大会）及び今後の大会について

◇第３回理事会　　令和３年12月２日　Web会議システムにて
・第４４回岡山県学校司書研究協議会（岡山大会）及び今後の大会について
・令和４年実態調査について

◇第４回理事会　　令和４年３月３日　Web会議システムにて開催予定
・第４４回岡山県学校司書研究協議会(岡山大会)及び今後の大会運営について
・令和４年実態調査について
・司書部会会則改正について

※学校司書研究協議会は開催地の実行委員会が運営。その前年度は理事会を年３回開催
学校司書研修会は司書部会理事会が運営。その前年度は理事会を年４回開催。
（但し，令和３年度においては今後の大会に関する協議のため４回を予定）

## ５．その他

◇「学校図書館の充実に関する提案書」の提出について
提出日：令和３年１１月４日（木）
提出先：岡山県教育委員会
内　容：実態調査の結果を踏まえ，①県下すべての学校で一校一人体制の学校司書の配置促進　②学校司書の資質向上のため，継続的な研修とそれに伴う予算措置について，各自治体へ働きかけを行うよう提案した

◇第４４回岡山県学校司書研究協議会（岡山大会）について
日　時：令和４年７月２８日（木）14:00～15:30　予定
会　場：（岡山市）オンラインで開催予定　　発表部分は事前配信予定
内　容：司書部会総会（実態調査報告等）
全体会　　（岡山市・備前地区の実践発表を受けての討議）

研究協議会と研修会は隔年で行い，各地域（岡山・倉敷・玉野・津山）が担当する。
岡山と倉敷は２年続けて研究協議会と研修会を受け持つ年度もある
研修会は研究協議会を簡素化したものにしていきたいとの考えで，日程や分科会などを検討している

# 令和３年度事業報告

| | 実 施 事 項 | 期 日 | 会 場 | 内 容 |
|---|---|---|---|---|
| 5月 | 新旧代表役員会及び研修会 | ~~5/13(木)~~ | ~~倉敷南高等学校~~ | ・役員の確認<br>・総会提出議案の協議 **→書面協議** |
| 6月 | 第1回司書部会理事会及び研修会 | ~~6/ 3(木)~~ | ~~倉敷南高等学校~~ | ・学校司書実態調査について<br>・学校司書研修会について<br>・津山大会について、各地区情勢報告<br>**→書面協議** |
| | 第70回総会及び研修会 | ~~6/ 8(火)~~ | ~~ライフパーク倉敷~~ | ・令和2年度事業・決算報告<br>・令和3年度事業計画・予算案<br>**→書面協議** |
| | 第1回支部事務局長会議及び研修会 | ~~6/17(木)~~ | ~~倉敷南高等学校~~ | ・総会議決事項報告<br>・事務連絡　他 **→書面開催** |
| 7月 | 令和3年度岡山県学校司書研究大会 | ~~7/28(水)~~ | ~~津山市総合福祉会館~~ | ・総会　全体会　その他<br>**→中止　総会は書面協議** |
| 8月 | 令和3年度学校図書館研究大会 | ~~8/20(金)~~ | ~~勝山文化センター~~ | ・講演　分科会<br>**→書面開催** |
| 9月 | 第2回司書部会理事会及び研修会 | 9/30(木) | ~~倉敷南高等学校~~ | ・研修会報告について<br>・令和4年度研究協議会について<br>**→オンライン開催** |
| 10月 | 読書感想文コンクール審査準備会及び研修会 | 10/ 5(火) | 高松中学校 | ・審査会準備 |
| | 読書感想文コンクール第1回合同審査会 | 10/ 7(火) | 倉敷南高等学校 | ・審査日程・審査基準について |
| | 読書感想文コンクール第2回審査会 | 10/21(木) | 岡南小学校 | ・小中高別の審査 |
| | | 10/21(木) | 高松中学校 | |
| | | 10/21(木) | 倉敷青陵高等学校 | |
| 11月 | 読書感想文コンクール最終校正会議 | 11/30(火) | 倉敷南高等学校 | ・「読書感想文集2021」最終校正 |
| 12月 | 第3回司書部会理事会及び研修会 | **12/ 2(木)** | 倉敷南高等学校 | ・令和4年度研究協議会について<br>・学校司書実態調査について<br>**→オンライン開催** |
| | 読書感想文コンクール表彰式及び研修会 | 12/16(木) | 岡山県立図書館 | ・表彰式 |
| 1月 | 第2回支部事務局長会議及び研修会 | 1/13(木) | 倉敷南高等学校 | ・令和3年度事業中間報告<br>・事務連絡　他 |
| | 読書感想画コンクール審査会 | 1/ 7(金) | 竜之口小学校 | ・小中高別の審査 |
| | | 1/11(火) | 岡山中央中学校 | |
| | | 1/11(火) | 倉敷青陵高等学校 | |
| 2月 | 代表理事会及び研修会 | 2/15(火) | 倉敷南高等学校 | ・令和4年度総会提出議案の協議<br>**→オンライン開催** |
| 3月 | 第4回司書部会理事会及び研修会 | 3/ 3(木) | 倉敷南高等学校 | ・令和4年度研究協議会について<br>・学校司書実態調査について<br>・各地区情勢報告　他<br>**→オンライン開催** |
| | 指定図書選定委員会 | ~~3/ 4(金)~~ | ~~岡山県立図書館~~ | ・令和4年度青少年読書感想文岡山県コンクールの県指定図書の選定<br>**→書面協議** |

優良図書研究部会

絵本研究部会

# 令和３年度　岡山県学校図書館協議会支部協議会事業報告書

| 支部名 | 実施事業名 | 実施期日 | 実施会場 | 内　　容 | 参加人数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 岡山 | 第１回正・副会長研修会 | ６月 21 日（月） | 岡山市立石井中学校 | 令和２年度事業報告・決算報告，令和３年度事業計画・予算案など | 15 名 |
| | 総会 | ６月下旬 | 紙面総会 | 令和２年度事業報・決算報告，令和３年度事業計画・予算案 | |
| | 第１回区別研修会 | 中止 | | | |
| | 第１回理事研修会 | ７月７日（水） | 岡山市立石井中学校 | 第 67 回読書感想文コンクール　岡山市一次審査会に向けて | 20 名 |
| | 全体研修会並びに第２回区別研修会 | 中止 | | ・第 67 回読書感想文コンクール　岡山市一次審査に向けて<br>・岡山市二次審査に出品する作品の選考，入賞者作品名簿の作成<br>・各区の応募総数の確認，二次審査の審査員の推薦 | |
| | 第 67 回読書感想文コンクール<br>第一次審査会（区） | ９月８日（水） | 北１区　福祉交流プラザ旭東 | | 35 名 |
| | | ９月７日（火） | 北２区　岡山市立桃丘小学校 | | 30 名 |
| | | ９月７日（火） | 中区　岡山市立旭東小学校 | | 31 名 |
| | | ９月７日（火） | 南区　岡山市立福田小学校 | | 40 名 |
| | 第 67 回岡山市読書感想文コンクール<br>第二次審査会（市） | ９月 16 日（木） | 岡山市立石井中学校 | 特選（県出品），金賞，銀賞作品の選考 | 30 名 |
| | 第２回理事研修会 | １月 26 日（水） | 岡山市立石井中学校 | 読書感想文，賞状の仕分け | 10 名 |
| | 第３回理事研修会<br>第３回区別研修会 | 中止 | | | |
| | 第４回区別研修会 | ３月上旬頃開催予定 | 岡山市立石井中学校 | 今年度の反省，次年度への引き継ぎ | |
| | 第２回正・副会長研修会 | ３月中旬頃開催予定 | 岡山市立石井中学校 | 令和３年度事業報告，令和４年度事業計画案 | |
| | 反省と課題<br>・今年度はコロナの影響で研修会が開催できないことが多かった。<br>・研究部会を開催することはできなかったが，県大会で発表された中学校区の小中学校が研究授業や研究協議を行い，滞りなく発表することができた。<br>・読書感想文の出品について，書き方や文字数など細かい点が各校へ周知徹底出来ていなかった。<br>・二次審査会では様々な要因があり時間がかかってしまった。要因の一つとして，作品の文字数が足りない，質として不十分等の理由がある作品が二次審査会にあげられてきており，少ない審査員で多くの作品を審査しなければならなくなった。<br>・次年度からは，今年度の反省点を各校に周知徹底したうえで一次審査会を行う必要がある。 | | | | |
| 赤磐 | 赤磐市内読書感想文審査会及び研修会 | ９月９日（木） | 赤磐市立笹岡小学校 | 各小・中学校から代表者が集まり，低学年・中学年・高学年に分かれて審査を行った。審査の方法についての研修をおこなったり，事後読み合わせを行って見識を深めることができた。 | 20 名 |
| | 反省と課題<br>審査会当日は事前に児童数の多い学校については人数を増やしたり審査担当者に多く来ていただいたり，どの学年を誰が担当するかを決定していたことで審査を効率的に行うことができた。<br>しかしコロナの感染状況に応じて全体会が持てなかったため，図書館教育についての研修や意見交換が行えず，図書館教育についての指導の方法等を深めることができなかったことが課題である。 | | | | |
| 和気 | 第 67 回岡山県読書感想文コンクール和気郡審査会 | ９月９日（木） | 和気町立本荘小学校 | 読書感想文コンクール和気郡審査、諸連絡 | ８名 |
| | 反省と課題<br>コロナ禍で研修等を計画するにも状況を見ながらになり，審査会以外はほぼメールや資料配布のみのやりとりとなった。<br>研修会を簡単に持てないので，配付物の配付の仕方が難しかった。郵送費や出張費などの捻出手続きがわかりにくく，個々の個人負担になることがあった。<br>学校ごとに取り組み方が異なり，出品のない学校もあり推進の仕方が難しかった。 | | | | |
| 備前 | 第１回　備前市学校図書館部会研修会 | ４月 30 日（金） | 備前中学校 | ○令和２年度の事業報告，令和３年度の組織作り・事業計画作成 | |
| | 並びに司書部会研修会 | | | ○各校の情報交換 | 15 名 |
| | 第２回　司書部会研修会 | ７月 29 日（木） | 日生西小学校 | ○全体研修（蔵書点検），連絡・情報交換，各部会研修 | 15 名 |
| | 第２回　研修会並びに読書感想文審査 | 小学校の部<br>９月６日（月） | 日生西小学校 | ○各校の読書指導情報交換，読書感想文の審査と反省 | 11 名 |
| | | 中学校の部<br>９月６日（月） | 伊里中学校 | ○各校の読書指導情報交換，読書感想文の審査と反省 | ５名 |
| | 第３回　司書部会研修会 | 11 月 26 日（金） | 伊里中学校 | ○おすすめの本プロジェクト | 13 名 |
| | 第４回　司書部会研修会 | １月７日（金） | 備前市市民センター | ○おすすめの本プロジェクト，各部会研修 | 15 名 |
| | 第５回　司書部会研修会 | ２月 25 日（金） | 三石小学校 | ○全体研修，小・中学校各部会研修会（予定） | |

| 支部名 | 実施事業名 | 実施期日 | 実施会場 | 内　　容 | 参加人数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 備前 | 反省と課題<br>〈読書感想文審査会より〉<br>・課題や指定への応募は少なかった。自由に比べると、自分の体験と本の内容とを関連付けて書くのは難しいという印象を受けた。<br>・本のあらすじ、感想が多くて、自分の実体験が少ない。またはその逆など、全体的にバランスよく書かれているものが少なかった。<br>・面白い発想や論の種は良いのに、それを言語化できていなくて惜しいと感じる作品が多かった。枚数が多くても深まりがないのが惜しい。<br>・選書指導の必要性を感じた。誰が書いてもその感想にしかならないという本を選んでしまい、可能性を狭めている。<br>・本との距離感も指導する必要がある。本の主題だけを抜き出して書いてもいけないし、あらすじをなぞるだけでもいけない。本の題材を使いながら、自身の体験や感想をバランス良く書けるように指導する必要性を感じた。<br>〈司書部会研修会より〉<br>　今年度は研修を設けるのが難しかったが、研修内容を精査し、必要な研修を行うことができた。おすすめの本プロジェクトを司書部会で行い、集まることが難しい中司書同士で連携し完成することができた。今年度は形のあるものを完成することができたが、今後の読書活動を高めるための研修、連絡などをどのような形であれ、随時行えるようにしたい。校内で学校図書館業務を行い、一人で抱えることが多く思う者もいたかと思うが、お互いに相談できる環境づくりを行いたい。 | | | | |
| 瀬戸内 | 第 67 回岡山県青少年読書感想文コンクール瀬戸内市審査会・研修会 | 9 月 16 日（木） | 瀬戸内市中央公民館 | 読書感想文の審査と審査に係る研修等 | 17 名 |
| | 反省と課題<br>　昨年度に比べると応募数は増加したものの、一昨年度に比べると減少している状況にある。 | | | | |
| 玉野 | ・玉野市学校図書館協議会総会及び研修会 | 6 月 18 日（金） | 資料配付 | ・令和 2 年度支部事業・決算等報告<br>・令和 3 年度支部事業・予算等計画<br>・読書感想文コンクール実施計画 | |
| | ・青少年読書感想文コンクール支部　（小学校）審査会及び研修会 | 9 月 14 日（火） | 玉野市立田井小学校 | ・小学校低・中・高学年で各類ごとに審査 | 17 名 |
| | （中学校） | 9 月 27 日（月） | 玉野市立荘内小学校 | ・中学校各類ごとに審査 | 14 名 |
| | ・司書研修会 | 11 月 9 日（火） | 玉野市立田井小学校 | ・学校図書館の運営と事務、読書推進等の研修<br>・学校図書館における情報端末の活用 | 21 名 |
| | 反省と課題<br>・読書感想文コンクールの審査や、そのために必要な研修は効果的に実施できている。事務局が交代する際に、きちんと引継ぎができる体制を整えたい。また、学校司書研修会については、司書の資質能力の向上に寄与している。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度の研修は必要に応じて、資料配付のみとしたり、オンラインで実施したりした。 | | | | |
| 加賀郡 | ・第 1 回研修会 | 9 月 14 日（火） | 大和小学校 | ・読書感想文の書き方指導等についての研修<br>・読書感想文加賀支部出品作品の審査 | 11 名 |
| | 反省と課題<br>・今年度は，コロナウイルス感染拡大防止のため，年度始めに集まらずに計画をたてた。<br>・研修会では，感想文の書き方の研修や読書感想文の審査会など，充実した活動ができた。 | | | | |
| 倉敷 | 学校図書館協議会第 1 回理事会及び総会【中止】 | 6 月 23 日（水） | くらしき健康福祉プラザ | 今後の見通しの計画の立案 | |
| | 学校図書館協議会第 2 回理事会 | 7 月 26 日（月） | 第四福田小学校 | 読書感想文コンクールに向けて | 27 名 |
| | 学校図書館協議会研修会【中止】 | 8 月 6 日（金） | くらしき健康福祉プラザ | 「豊かな心を育む学校図書館教育」 | |
| | 読書感想文コンクール倉敷地区審査（中） | 9 月 7 日（火） | 東中学校 | 中央審査に向けての読書感想文の地区別の審査 | 約 30 名 |
| | 読書感想文コンクール児島地区審査（中） | 9 月 7 日（火） | 児島中学校 | 中央審査に向けての読書感想文の地区別の審査 | 約 30 名 |
| | 読書感想文コンクール倉敷地区審査（小） | 9 月 8 日（水） | 中州小学校 | 中央審査に向けての読書感想文の地区別の審査 | 約 30 名 |
| | 読書感想文コンクール水島地区審査（小） | 9 月 8 日（水） | 水島小学校 | 中央審査に向けての読書感想文の地区別の審査 | 約 30 名 |
| | 読書感想文コンクール船穂･真備地区審査（小） | 9 月 8 日（水） | 柳井原小学校 | 中央審査に向けての読書感想文の地区別の審査 | 約 30 名 |
| | 読書感想文コンクール児島地区審査（小） | 9 月 8 日（水） | 緑丘小学校 | 中央審査に向けての読書感想文の地区別の審査 | 約 30 名 |
| | 読書感想文コンクール玉島地区審査（小） | 9 月 8 日（水） | 富田小学校 | 中央審査に向けての読書感想文の地区別の審査 | 約 30 名 |
| | 読書感想文コンクール西部地区審査（中） | 9 月 8 日（水） | 真備東中学校 | 中央審査に向けての読書感想文の地区別の審査 | 約 30 名 |
| | 読書感想文コンクール水島地区審査（中） | 9 月 8 日（水） | 福田中学校 | 中央審査に向けての読書感想文の地区別の審査 | 約 30 名 |
| | 読書感想文コンクール中央審査（小） | 9 月 15 日（水） | 第四福田小学校 | 県出品に向けての審査 | 約 30 名 |
| | 読書感想文コンクール中央審査（中） | 9 月 16 日（木） | 東中学校 | 県出品に向けての審査 | 約 30 名 |
| | 学校図書館協議会第 3 回理事会【中止】 | 2 月 10 日（木） | 第四福田小学校 | 本年度のまとめと来年の計画の立案 | |
| | 反省と課題<br>今年度も，感染症拡大防止の観点から第 1 回理事会及び総会を中止とし，議題は校支援の回覧板での書面表決をとった。<br>研修会は中止とした。第 3 回理事会も中止としたが，校支援の回覧板にて連絡事項を伝えた。来年度は例年と同様に取り組みたい。 | | | | |

| 支部名 | 実施事業名 | 実施期日 | 実施会場 | 内　　容 | 参加人数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 浅口 | 小教研浅口支会学校図書館教育研究部会夏季研修会 | 8月3日（火） | 浅口市立金光小学校 | 実演・講話「本とつながりたい子どもたち」<br>ボランティア人形劇サークル　風の子 | 12名 |
| | 読書感想文浅口支部審査会 | 9月9日（木） | 浅口市立金光小学校 | 読書感想文支部審査 | 23名 |
| | 反省と課題<br>夏季研修会では、ボランティア人形劇サークル「風の子」のみなさんに実演をしていただいたり，代表の山内悦子さんの講演を聞いたりした。実演では，絵本や物語を題材にしたエプロンシアター，フランネルシアター，大型紙芝居など，様々な手法での読み聞かせを披露していただいた。実際に子どもたちに向けて行うように実演していただいたので，参加者も子どもの立場に立って観ることができた。語りの口調や声色を工夫したり，それぞれの実演でたくさん仕掛けを用意していたりと，子どもたちが物語や絵本の世界に入り込めるように様々な工夫がされていた。読み聞かせの際には，本を選んだ理由やその本の見どころなどを紹介されているのを見て，子どもたちが読んでみたいと思えるきっかけづくりをされていると感じた。読み聞かせは身近で取り組みやすい活動なので，本と子どもたちをつなげるきっかけをつくることを教師も意識して読み聞かせの活動をする必要があると感じた。講話は，代表の山内さんと部長の対談に，「風の子」のみなさんや研修参加者が交じって話をする形式だった。印象に残っているのは，ICT機器が子どもたちの生活において身近なものになっている今日，子どもたちの活字離れも問題となっているという話題だ。山内さんのお話を聞き，子どもたちが文字や言葉にふれるきっかけをつくるために，大人が働きかける必要がある。学校ではその役割を教師が担い，子どもたちに本を読む楽しさを味わってもらったり，活字にふれるきっかけをつくってあげたりすることが大切であると感じた。<br>読書感想文支部審査会では、コロナ禍の中の夏休みで出品数も多くなかったが、じっくりと感想文を読み合い、審査をすることができた。 | | | | |
| 笠岡 | 読書感想文コンクール支部審査会 | 9月15日（水） | 笠岡市立城見小学校 | ○岡山県読書感想文コンクールの支部審査 | 19名 |
| | 反省と課題<br>本年度もコロナウイルス感染症対策のため、図書館教育部会の研修を実施することができなかった。読書感想文コンクールの支部審査については、感染症対策を行いながら予定通り実施した。 | | | | |
| 小田 | 小田郡学校図書館協議会（小学校） | 4月30日（金） | 矢掛町立矢掛小学校 | ・令和2年度事業報告　・役員選出<br>・令和3年度事業計画立案 | 5名 |
| | 小田郡学校図書館協議会総会<br>並びに感想文審査会 | 9月13日（月） | 矢掛町立三谷小学校 | ・令和2年度事業報告　・令和3年度事業計画　・予算決算報告<br>・読書感想文の支部審査会 | 11名 |
| 井原 | 読書感想文支部審査 | 9月14日（火） | 井原市立荏原小学校 | ・令和3年度の活動計画についての協議<br>・井原市学校図書館協議会の役員紹介<br>・支部審査会<br>小学校低学年の部<br>小学校中学年の部<br>小学校高学年の部<br>中学校の部 | 20名 |
| | | 9月下旬<br>～10月上旬 | 各校 | ・支部審査会での特選・入選の児童の表彰 | |
| | | 10月22日（金） | | ・読書感想文集の注文とりまとめ　→　県事務局に申し込み | |
| | | 1月17日（月） | | ・読書感想文集・県出品の賞状等を各校に配付 | |
| | | 1月下旬 | 各校 | ・県審査会での優秀賞・入選・佳作児童の表彰 | |
| | ・岡山県の応募票を使うことや，応募票の添付の仕方等，出品に際して不十分な学校があった。より確実に周知できるようにする必要がある。<br>・コンクールに出品するという点を考慮した指導の充実が望まれる。 | | | | |
| 総社 | 図書館教育班会 | | | | |
| | 第1回図書館教育班会 | 8月4日（水） | 維新小学校 | 新刊を含む児童書等の選書会 | 12名 |
| | 第67回岡山県青少年読書感想文コンクール<br>総社支部審査会 | 9月14日（火） | 維新小学校 | 読書感想文コンクール審査 | 23名 |
| | 学校司書部会 | | | | |
| | 第1回学校司書部会 | 7月9日（金） | 維新小学校 | 司書部会研修計画 | 12名 |
| | 第2回学校司書部会 | 8月4日（水） | 維新小学校 | 学校司書業務マニュアル改訂について検討 | 12名 |
| | 第3回学校司書部会 | 12月3日（金） | 総社小学校 | 読書週間の取組について情報交換　学校司書業務マニュアル改訂について検討 | 12名 |
| | 第4回学校司書部会 | 2月8日（火） | 維新小学校 | OECシステム研修　今年度の反省、来年度の計画 | 12名 |
| | 反省と課題<br>図書館教育班会<br>・総社市図書館と情報交換の場は持てなかったが、コロナ禍の中においても連携に努めた。<br>・例年通りの夏休み期間になり、読書感想文コンクールには多くの児童・生徒の応募があった。厳正なる審査によって入賞作品を選出することができた。<br>司書部会<br>・学校図書館システムのバージョンアップデートもあり、業務マニュアルの改訂をはじめ、更に有効に活用できるよう研修を継続している。<br>・感染症対策で制限がある中でも、児童生徒の読書活動を支えられるよう精力的に読書活動の推進に務めた。<br>・来年度も例年通り年4回の司書部会を行い、各校の連携を深め、有意義な研修を行っていきたい。 | | | | |

| 支部名 | 実施事業名 | 実施期日 | 実施会場 | 内　　容 | 参加人数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 高梁 | 研修会 | 中止 | | ○年間計画・読書感想文コンクールについては各校にメールで配信し、情報共有を行った。 | |
| | 読書感想文コンクール審査会 | 9月13日（月） | 高梁市図書館 | ○読書感想文コンクール審査 | 17名 |
| | 研修会（学校図書館司書部会との合同研修会） | 中止 | | ○今年度の取り組みの反省や来年度への課題について、メールで配信し、情報共有を行った。 | |
| | 反省と課題<br>・第1回研修会は中止となったが、県協議会から送られてきたデータを配信した。感想文コンクールの支部審査に向け、大きな混乱はなかった。<br>・感想文コンクール審査会の時間を短縮するために、審査する学年を事前に伝え、作品のコピーを渡して読んできてもらうことにした。（小学校のみ。小学校と中学校では、出品数や内容等により審査にかかる時間が大きく異なるため、中学校は従来通り当日作品を読み合っての審査を行った。）小学校の部の審査時間は大幅に短縮され、審査員にも好評であった。しかし、事務局がすべて準備したので作業量が膨大であった。事前審査は有効なので、各校でコピーして応募してもらうなどの工夫を今後考えたい。また、審査する学年（低中高）を夏休み前に伝えておき、夏休み中に課題図書・指定図書を読んでおいてもらうということも来年度はやってみたい。<br>・ICTと読書活動・図書館教育を効果的に関連付けていくことはできないかといった課題や、タブレットを読書活動や図書館教育にどう生かすかといった課題について、今後研修を深めていきたい。 | | | | |
| 新見 | 新見市読書感想文支部審査 | 9月8日（水）~16日（木） | 各校 | 各校図書館担当の先生方に部門・類別の担当を伝えて作品のコピーを送付し、同じ部門・類の担当者同士で連絡を取り合って審査し、入賞者を決定した。 | 23名 |
| | 新見市読書感想文集の原稿作成 | 12月 | 各校 | 新見市読書感想文支部審査で特選、準特選に入った生徒の作品をパソコンでデータ打ちをする | |
| | 新見市読書感想文集の原稿校正 | 1月 | 各校 | | |
| | 理事会及び研修会 | 3月 | 阿新教育会館 | | 4名 |
| 津山 | 津山市学校図書館協議会第1回総会・研修会 | 7月　6日（火） | 津山市役所東庁舎 | R2年度活動報告・決算報告、R3年度組織体制・活動計画・予算計画についての協議 | 39名 |
| | 図書選定会　中止 | 8月　24日（火） | 津山ブックセンター | 児童・生徒にすすめる本の選定と紹介文の作成 | |
| | 津山市読書感想文コンクール審査会 | 9月　8日（火） | 津山市役所東庁舎 | 津山市内の児童・生徒の読書感想文の審査 | 36名 |
| | 図書選定会　中止 | 1月　21日（木） | 津山ブックセンター | 児童・生徒にすすめる本の選定と紹介文の作成 | |
| | 津山市学校図書館協議会第2回総会・研修会中止 | 1月　25日（火） | 津山市役所東庁舎 | 活動の総括来年度の研究活動の方向性や組織体制についての協議 | |
| | 反省と課題<br>・仕事内容の精選や、事務局次長との仕事の分担など、来年度に向けて負担の軽減に努めたい。 | | | | |
| 苫田 | 総会・研修会 | 7月2日（金） | 鏡野町中央公民館 | 事業・決算報告、事業・予算計画、読書感想文コンクールについての説明、各校の図書館利用について交流 | 9名 |
| | 読書感想文審査会 | 9月9日（木） | 鏡野町中央公民館 | 小・中読書感想文の審査 | 11名 |
| | 研修会 | 3月1日（火） | 鏡野町中央公民館 | 今年度の事業反省、読書感想文審査についての反省、各校の読書活動推進の取組を情報交流 | 9名 |
| | 反省と課題<br>　コロナ禍ではあったが、例年通り読書感想文の審査が行えてよかった。（3月1日に今年度の事業反省をする予定。） | | | | |
| 勝田 | 令和3年度勝田郡学校図書館協議会総会・研修会 | 7月　9日（金） | 勝央北小学校 | 令和2年度事業報告　並びに　決算報告<br>令和3年度事業計画並びに予算案<br>県学校図書館協議会報告<br>読書感想文審査会について | |
| | 勝田郡読書感想文審査会（小学校の部） | 9月21日（火） | リモート | 読書感想文審査 | 全3校参加 |
| | 勝田郡読書感想文審査会（中学校の部） | 9月14日（火） | リモート | 読書感想文審査 | 全2校参加 |
| | 反省と課題<br>感想文審査会を目標に、各校で感想文に取り組むことが出来た。<br>感想画は、教育課程の位置づけなども明確になっていない学校が多く、十分取り組むことが出来ていない。<br>今年度もコロナ禍により、第2回研修会を設定することが難したっかため実施していない。<br>審査にリモートを利用してみた。慣れていないということもあり、引き続き使ってみる方法を考えていっても良い。 | | | | |
| 久米 | 久米郡学校図書館協議会総会・研修会 | 7月6日（火） | 久米南町立誕生寺小学校 | 令和2年度事業報告・決算報告、令和3年度事業計画・予算案審議、役員選出、読書感想文の応募についての確認 | 12名 |
| | 久米郡読書感想文審査会 | 9月13日（月） | 美咲町役場 | 読書感想文支部審査（小学校） | 8名 |
| | 久米郡読書感想文審査会 | 9月14日（火） | 美咲町役場 | 読書感想文支部審査（中学校） | 5名 |
| | 県読書感想文コンクール第1回合同審査会 | 10月7日（木） | 倉敷南高校 | 読書感想文県審査 | 1名 |
| | 県読書感想文コンクール第2回合同審査会 | 10月21日（木） | 岡山市立岡南小学校 | 読書感想文県審査 | 1名 |
| | 岡山県事務局長会及び研修会 | 1月13日（木） | 倉敷南高校 | 事務連絡 | 1名 |
| | 反省と課題<br>・読書感想文の支部審査の応募数が少なかったり、審査基準に達していない作品があったりした。（小学校）各校で応募の呼びかけや書き方の指導などを行い、多くの優れた作品が応募されるとよい。<br>・読書感想文の支部審査、文集注文などスムーズに行うことができた。 | | | | |

| 支部名 | 実施事業名 | 実施期日 | 実施会場 | 内　　容 | 参加人数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 真庭 | 総会及び研修会 | 7月6日（火） | 久世公民館 | R2年度事業報告、R3年度役員選出、事業計画、予算案協議 | 28名 |
| | 読書感想文支部審査会（中学校） | 9月6日（月） | 久世公民館 | 読書感想文の審査、県出品作品の決定、文集注文についての説明 | 7名 |
| | 読書感想文支部審査会（小学校） | 9月9日（木） | 久世公民館 | 読書感想文の審査、県出品作品の決定、文集注文についての説明 | 22名 |
| | 反省と課題<br>・本年度は小学校と中学校の支部審査を別々に行った。そのため、賞状の配布や準備物の手配の調整が必要だった。 | | | | |
| 美作・西粟倉 | 岡山県学校図書館協議会美作市・西粟倉村支部総会・研修会 | 6月29日（火） | 書面開催 | 令和2年度事業報告・会計報告、令和3年度事業計画・予算案等について | 18名 |
| | 岡山県学校図書館協議会美作市・西粟倉村支部読書感想文審査会。研修会（中学校の部） | 9月16日（木） | 美作市立美作中学校 | 読書感想文の審査に関する研修並びに審査会、意見交換等 | 7名 |
| | 岡山県学校図書館協議会美作市・西粟倉村支部読書感想文審査会。研修会（小学校の部） | 9月21日（火） | 美作市立美作中学校 | 読書感想文の審査に関する研修並びに審査会、意見交換等 | 11名 |
| | 反省と課題<br>・読書感想文の表記の仕方について、各校でよく確認しておくこと。<br>・子どもの書いたままの出品があった。学校で書き直して提出すること。<br>・「○○を読んで」という題名が多かった。→　意味を確認し、修正を依頼する。<br>・総会が書面開催になり、運営上徹底できてない面があり、事務局も変わったばかりで不安な面があった。 | | | | |
| 備前 | 支部役員会 | 6月 | 中止→紙面開催 | (1) 令和元年度事業報告・決算報告について<br>(2) 令和2年度役員案・活動方針・事業計画・予算案について<br>(3) 事務局校・役員校・研究発表校のローテーション等について | |
| | 支部総会 | 7月 | 中止→紙面開催 | 同上 | |
| | 支部研究会 | 1月24日（月） | 山陽学園高校 | 研究発表：「邑久高校の図書館活動　～国語科と連携して～」<br>発表者：阿部雅美先生（邑久高等学校） | 23名 |
| | 第1回司書部会研修会 | 5月7日（金） | 中止↓ | | |
| | | 6月11日（金）<br>代替開催 | オンライン開催（Zoom） | 初任司書研修会（図書館業務や委員会活動について） | 18名 |
| | 第2回司書部会研修会 | 8月3日（火） | オンライン開催<br>(Google meet) | 図書館紹介（西大寺・岡山城東・山陽学園・理大附属） | 26名 |
| | 第3回司書部会研修会 | 11月30日（火） | 玉野市立玉野備南高等学校 | (1) 協議・連絡<br>⑵図書館プチ紹介<br>⑶研修「アイディアを貸してください！」 | 23名 |
| | 第4回司書部会研修会 | 2月 | 中止 | 中止を受けて、アンケート実施（GoogleForms） | |
| | 反省と課題<br>本年もコロナ感染症流行により諸会議や行事の中止、延期を余儀なくされる一年となった。コロナ流行前に年に二度実施していた支部研究会については、一回目を中止、二回目を1月に延期して実施した。感染状況が下火を見せていた2学期に配布物の都合で1月開催を決定したが、逆にオミクロン株の爆発的流行と重なってしまい、ご参集いただく先生方に不安を抱かせる中での開催となってしまったことは反省すべき点である。今後も、対面での会議や県外から専門家を招いての研修などは、コロナが収束しない限り、実施は難しいと思われる。コロナ禍においても情報の共有や研鑽が疎かにならないよう、オンラインや郵便物を活用して、研究会の活動継続を図っていきたい。<br>その点、司書部会研修会においては関係先生方のご尽力により、オンライン開催を実現することができ、情報交換を行うことができた。ここ2年中止となっている生徒交流会もオンラインでの再開を望む声もあがっている。来年度は是非、再開に向けて動いていきたい。<br>また、本校は年度末で事務局を終えることになった。2年間という短い期間であったが、多くの関係校や先生方のサポートをいただきながら任期を全うすることができた。この場をお借りして厚く御礼申し上げる。後任の事務局担当校（就実高校）と確実に引継ぎを行い、次年度の活動が円滑に開始されるよう努めたい。 | | | | |
| 備中 | 第1回役員会 | 6月22日（火） | 総社南高校 | (1) 平成2年度事業報告及び会計報告<br>(2) 令和3年度事業計画（案）及び予算（案）<br>(3) 支部総会・研究協議会について | 5名 |
| | 総会・研究協議会 | 6月22日（火） | 総社南高校 | (1) 報告事項<br>・令和2年度事業報告及び会計報告<br>・令和3年度役員紹介<br>(2) 協議事項<br>・令和3年度事業計画（案）及び予算（案）<br>(3) 実践報告<br>「図書館の活用について」<br>県立新見高等学校　教諭　平岡　正樹　氏<br>(4) 研究協議及び情報交換〃 | |
| | 司書部会　第1回研修会 | 中止 | | | |
| | 第2回研修会 | 10月21日（木） | 水島工業高校 | ■報告・協議・連絡<br>活動報告・決算報告／活動計画案協議・予算案<br>協議連絡（SLA事務局から・支部協議会事務局から・司書部会理事会から・ネットワーク研究会から他）<br>■研　修<br>事例発表「ニーズに応える学校図書館づくり　～倉敷中央高校の取り組み～」<br>事例紹介「玉島高校図書館・授業との連携」<br>■サポート校交流<br>資料研究「私のすすめるこの一冊」／その他「手作り図書館グッズの紹介」 | 25名 |
| | 第3回研修会 | 中止 | | | |
| | 図書委員会交流会 | 中止 | | | |
| | 第2回役員会 | 2月18日（金）<br>中止 | 総社南高校 | (1) 令和3年度事業報告及び会計報告<br>(2) 令和4年度支部総会・研究協議会について | |

| 支部名 | 実施事業名 | 実施期日 | 実施会場 | 内　　容 | 参加人数 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 反省と課題<br>○今年度もコロナ禍の一年が終わろうとしています。6月の役員会、総会が滞りなく出来たことがなによりです。この状況はまだまだ継続しそうです。次年度の新しい体制で支部の活動が行えることを期待しております。 | | | | |
| 美作 | 第1回司書部会研修会（美作支部） | 5月7日（金） | 津山高校 | 令和3年度活動計画、図書委員会交流会について、協議連絡 | 7名 |
| | 第1回美作支部役員会・総会 | 5月11日（火） | 津山高校 | 平成2年度事業報告、令和2年度会計決算報告、令和3年度事業計画案、令和3年度予算案、令和3年度美作地区図書委員会交流会案について | 役員会<br>7名<br>総会<br>12名 |
| | 第2回美作支部役員会（美作支部） | 7月6日（火） | 津山高校 | 第2回研究協議会の研修内容について、第11回読後感想文コンクールについて | 6名 |
| | 第2回司書部会研修会 | 7月21日（水） | 津山東高校 | 図書委員会交流会について、協議連絡 | 10名 |
| | 図書委員会交流会 | 8月6日（金） | 津山市立図書館 | ①ワークショップ　②おすすめ本小冊子「高校生のおすすめ50冊」　③「みんなで作ろう！天の川～本に願いを込めて～」　④「#タグブック」　⑤学校・委員会活動の紹介 | 生徒<br>64名<br>教員<br>15名 |
| | 第3回司書部会研修会（美作支部） | 11月30日（火） | 津山高校 | 研究協議会発表準備、水引き細工のしおり作り、図書委員会交流会アンケート結果について | 9名 |
| | 第11回美作地区高校生読後感想文コンクール表彰式 | 12月10日（金） | 津山高校 | 担当校講評、美作地区高校生読後感想文表彰、最優秀賞生徒による受賞の言葉 | 生徒<br>5名<br>教員<br>11名 |
| | 第2回美作支部総会・研究協議会 | 12月10日（金） | 津山高校 | 令和4年度事業計画案、図書委員会交流会について、協議連絡<br>研修：オンライン講演会「中学・高校へのアンケートから見る『朝の読書』の活動実態」　講師　株式会社トーハン広報担当　實川友美氏 | 11名 |
| | 第4回司書部会研修会（美作支部） | 2月18日（金） | 津山工業高校 | 令和3年度活動総括、令和4年度活動計画、委員会交流会について、協議連絡 | 10名 |
| | 反省と課題<br>・図書委員会交流会：昨年度は新型コロナ感染拡大の影響で実施できなかったが、今年度は津山市立図書館で交流会を実施し、来場者に本の紹介などを行う活動をした。美作地区7校64人の生徒の参加があり、他校の生徒とともに委員会活動の活性化を図るよいきっかけとなった。コロナ禍ということで、市立図書館への来場者自体は少なかったが、来場者からも参加者からも好評を得ることができた。他校の生徒と初めての顔を合わせて活動するということで、なじみにくい生徒もいたようなので、事前のアイスブレイクとして夏に一度交流会を持ち、一緒に活動計画を立て、冬に市立図書館でのイベントを実施するという形を検討していきたい。<br>・支部研究協議会：研修会では株式会社トーハン広報担当の實川友美氏に講師をお願いし、「朝の読書」に関するオンライン講演会を実施した。朝の読書については実施していない学校もあったが、改めてその目的や成果を伺い、朝の読書の意義を理解する良い機会となった。 | | | | |

# 岡山県学校図書館協議会組織図

１．構成組織

- 岡山県学校図書館協議会（県ＳＬＡ）
  - 岡山県　小学校　教育研究会情報教育研究部会学校図書館部
  - 岡山県　中学校　教育研究会学校図書館部会
  - 岡山県　高等学校　教育研究会学校図書館部会

２．組織図

- 岡山県学校図書館協議会（県ＳＬＡ）
  - 役員組織
    - 代表役員会（5 月）
    - 総会（6 月）
    - 代表理事会（2 月）
  - 事務局
    - 支部事務局長会議（6 月・1 月）
  - 部会・研究組織
    - 司書部会
    - 絵本研究部会（年 9 回）
    - 優良図書研究部会（年 6 回）
      - 指定図書選定委員会（3 月）
  - 事業執行組織
    - 読書感想文コンクール（小・中･･･中教研，高･･･（前）高教研）
    - 読書感想画コンクール（小・中・高･･･コンクール事務局）
    - 岡山県学校図書館研究大会（支部協議会）
    - 岡山県学校司書研究協議会・研修会（司書部会）

# 岡山県学校図書館協議会規約

第1条　本会は，岡山県学校図書館協議会という。

第2条　本会は，事務局を会長在任の学校内におく。

第3条　本会は，県下小・中・高等学校の学校図書館相互の連絡とその充実，発展をはかり，本県教育の推進に寄与することを目的とする。

第4条　本会は，前条の目的を達成するために次の事業を行う。

(1)　県下学校図書館相互の連絡提携，情報交換

(2)　学校図書館運営に関する研究会，講習会，展示会等の開催。

(3)　学校図書館教育の研究

(4)　読書指導の研究

(5)　学校司書の研修と身分待遇の改善

(6)　絵本・優良図書の研究

(7)　その他

2．第１項(2)の事業の推進，及び(3)(4)の事業の援助を行うため，研究部会を設ける。

研究部会は，特に必要のない場合，適宜活動を休止することができる。

3．第１項(5)の事業を行うため，司書部会を設ける。司書部会関することは，別に規定を定める。

4．第１項(6)の事業を行うため，絵本研究部会，優良図書研究部会，ニューメディア研究部会，読書ノート研究部会を設ける。それぞれの部会で必要な規定は，別に定める。

第5条　本会は，岡山県小学校教育研究会情報教育部会学校図書館部（以下「小教研」と略す）・岡山県中学校教育研究会学校図書館部会（以下「中教研」と略す）・岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会（以下「高教研」と略す）によって構成する。

第6条　本会加入の小・中学校においては郡市ごとに，高等学校においては地区（備前・備中・美作）ごとに，支部協議会を設ける。

2．支部協議会に会長を置く。また，必要に応じて副会長を置くことができる。

3．支部協議会に支部事務局を設け，支部事務局長を置く。

4．本会は，年に数回，支部事務局長会議を開催し，必要な書類の配布，事務連絡事項の伝達を行う。

5．その他，支部協議会に関する規定は，各支部協議会で適宜決める。

第7条　本会は，社団法人全国学校図書館協議会の賛助会員となる。

2．本会の会長及び事務局長は，社団法人全国学校図書館協議会の正会員となる。

第8条　本会に次の役員を置き，任期は２カ年とする。ただし再任を妨げない。また，補欠役員の任期は，前任者の残留期間とする。

(1)　会　　長

(2)　副 会 長

(3)　代表理事

(4)　理　　事

(5)　監　　事

2．役員の選出は次のとおりとする。

(1)　会長は，小教研情報教育部会副部会長（学校図書館部担当），中教研・高教研の各部会長の中から選出される。

(2)　副会長は，会長にならなかった小教研情報教育部会副部会長（学校図書館部担当），中教研・高教研の各部会長をもって充てる。

(3)　代表理事は，小教研情報教育部会副部会長（学校図書館部担当）・常任理事（学校図書館部担当）・事務局員（学校図書館部担当１名），中教研・高教研の各部会長・副部会長・事務局長，及び司書部会長をもって充てる。

(4)　理事は，代表理事及び各支部協議会の会長・副会長をもって充てる。

(5)　監事は，原則として事務局校の所在する支部内で，小教研・中教研から１名，高教研から１名選出する。

3．本会の最小限の役員組織として，代表役員会を設ける。代表役員は，小教研情報教育部会副部会長（学校図書館部担当）・事務局員（学校図書館部担当１名），中教研・高教研の各部会長・事務局長，及び司書部会長をもって充てる。

4．以上の役員については，年度当初の新旧代表役員会で選出され，総会において承認を得るものとする。但し，代表理事については，総会において決定・承認されるものとする。

第9条　役員の任務は次のとおりとする。

(1)　会長は，会を代表し会務を総括する。

(2)　副会長は，会長を補佐し，会長に事故あるとき

は会務を代理する。

(3)　代表理事は，会務の重要事項を協議し決定する。また，代表役員会で仮決定した事項について協議し，決定する。

(4)　理事は，会務全般について協議し，代表理事会での決定を承認する。また，年度当初に新旧代表役員会で仮決定した事項を決定する。

(5)　監事は，会計を監査する。

(6)　代表役員は，本会の最小限の役員組織として，緊急を要する事項について協議し，仮決定する。年度当初に開催する新旧代表役員会では，役員の選出等重要事項を仮決定する。

第10条　本会の，総会・代表理事会・代表役員会は毎年１回以上開催する。総会は，理事会をもってこれに代えることができる。

第11条　事務局には，事務局長，事務局次長，参事，事務職員等をおき，会務を処理する。

第12条　本会は，役員会の推薦により顧問・参与・賛助員を置くことができる。

第13条　本会の経費は，構成団体の拠出金・寄付金をもってあてる。

第14条　本会の会計年度は，毎年４月１日に始まり，翌年３月３１日に終わる。

（規約施行は昭和 25 年から[推定]）

・・・（中略）・・・

平成　８年　６月　４日　一部改正

平成１１年　６月　３日　一部改正

平成１４年　５月３０日　一部改正

平成１７年　６月　２日　一部改正

# 岡山県学校図書館協議会司書部会会則

第1条　この部会は，岡山県学校図書館協議会規約第４条に基づいて設けられ，岡山県学区図書館協議会司書部会と称する。

第2条　この部会の事務局は，岡山県学校図書館協議会会長の在任の学校内におく。

第3条　この部会は，岡山県下の学校司書の資質向上と専門性の追求をめざし，学校図書館の充実と発展に資することを目的とする。

第4条　この部会は，前条の目的を達成するために，次の事業を行う。

(1)　「研究協議会」と「研修会」の計画立案・開催と参加

(2)　各地域で行われる学校図書館研修会に対する情報提供や意見交流

(3)　優れた実践の掘り起こしと，研究実践を広めるための活動

(4)　学校司書の配置増と安定した雇用の確率のための活動

第5条　この部会は，岡山県下の小・中・高等学校図書館に勤務する学校司書及びこれに準ずる者を会員として構成する。

第6条　この部会は，次の役員をおく。

(1)　部会長　１名
部会を代表し，部会の運営にあたる。また，会計事務も担当する。

(2)　副部会長　若干名
部会長を補佐し，部会長に事故のあるときにはこれに代わる。

(3)　理事　若干名
理事会を構成し，会務の重要事項を審議する。また，地区を代表して，部会との連絡と地区の運営にあたる。

(4)　監事　２名
会計事務を監査し，総会に報告する。

第7条　役員は，次の方法によって定める。

(1)　役員は，総会において選出する。任期途中において退任のときは部会長が理事にはからって補充し，総会の承認を得る。

(2)　部会長は，会員全体の中から選出する。

(3)　副部会長は，校種別，地区別に選出する。

(4)　理事は，校種別，地区別に選出する。

(5)　監事は，原則として理事経験者の中から選出する。

第8条　役員の任期は２年とし，再任は妨げない。欠員によって補充された役員の任期は，前役員の残任期間とする。

第9条　この部会は，年１回総会を開催する。なお，理事会が必要と認めた場合，又は会員の３分の１以上から請求のあった時は，臨時総会を開催しなければならない。

２．総会は，会員の過半数の出席をもって成立する。議事は出席者の過半数で決するものとする。

３．総会に附議しなければならない事項は次のとおりとする

①　会則の改正
②　役員の選出
③　事業計画並びに事業報告
④　予算案並びに決算の承認
⑤　その他重要な事項

第10条　この部会は年３回理事会を開催する。なお，理事の３分の１以上から請求のあった時は，臨時理事会を開催しなければならない。

２．理事会は，役員の過半数の出席をもって成立する。

３．理事会では，各地区の情勢報告・研修報告などの情報交換を行うほか，総会の運営に関する事項，総会に附議する議題，研究協議会・研修会に関する事項等，司書部会に関する重要な事項を審議する。

４．理事会は，次の事項について決議することができる。緊急を要する場合で会議開催が不可能な場合は，文書持ち回りにより決議を行う。ただし，これらの決定については，次の総会において承認を得なければならない。

①　役員の補充
②　その他司書部会として緊急に決定が必要な事項

第11条　本会の経費は，会費・助成金及びその他の収入をもって充てる。ただし，当分の間会費は徴収しない。なお，研修に要する実費は，そのつど徴収することができる。

２．会計年度は，毎年４月１日に始まり，翌年３月31日に終わる。

本会則は，昭和50年４月１日から施行する。
平成15年７月24日　一部改正
平成18年７月26日　一部改正

# 岡山県学校図書館協議会７１年の歩み（略年表）

| 西暦 | 年号 | 研究集録 | 全国大会 | 中国大会 | 県 大 会 | 県大会講師 | 主要行事など | 会　長 | 副　会　長 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1950 | 昭和25 | | ⑴ 東　京 | | | | 県ＳＬＡ発足 | 尾野作次郎（操山） | 大土井淑夫（清輝）<br>下山　練（津山中）<br>神崎 |
| 1951 | 26 | | ⑵ 京　都 | | | | | 尾野作次郎（操山） | 大土井淑夫（清輝）<br>下山　練（津山中）<br>神崎 |
| 1952 | 27 | | ⑶ 小田原 | | | 総会<br>久米井　東 | 「岡山学校図書館」創刊9月20日付 | 尾野作次郎（操山） | 大土井淑夫（清輝）<br>下山　練（津山中）<br>神崎 |
| 1953 | 28 | | ⑷ 大　分 | | | 総会<br>坂本　一郎 | 司書講習（岡山大学） | 尾野作次郎（操山） | 大土井淑夫（清輝）<br>下山　練（津山中）<br>神崎 |
| 1954 | 29 | | ⑸ 仙　台 | | | 総会<br>尾野作次郎 | 司書教諭講習（大阪学芸大学）9名参加 | 尾野作次郎（操山） | 大土井淑夫（清輝）<br>神崎<br>水島　進（弓削中） |
| 1955 | 30 | | ⑹ 徳　島 | | ⑴ 西大寺，倉敷，津山 | 松尾弥太郎 | 学校図書館法施行 | 尾野作次郎（操山） | |
| 1956 | 31 | | ⑺ 宇都宮 | | ⑵ 岡山，倉敷，津山 | 佐野　友彦 | | 内藤　一人（操山） | |
| 1957 | 32 | | ⑻ 札　幌 | | ⑶ 岡　山 | 松尾，佐野<br>鈴木，芦谷 | | 内藤　一人（操山） | |
| 1958 | 33 | | ⑼ 岡　山 | | ⑷ 岡　山 | 深川　恒喜 | | 内藤　一人（操山） | |
| 1959 | 34 | | ⑽ 東　京 | ⑴　萩 | ⑸ 和気，吉備，英田 | 臼井　吉見<br>佐野　友彦 | 司書教諭講習（岡山大学）10周年 | 内藤　一人（操山） | |
| 1960 | 35 | | ⑾ 大　阪 | | ⑹ 児島，笠岡，苫田 | 鈴木　英二 | | 内藤　一人（操山） | 高祖　忠直<br>室山　三義<br>三谷　堅（津　一） |
| 1961 | 36 | | ⑿ 新　潟 | ⑵ 広　島 | ⑺ 赤磐，上房，久米 | 松尾弥太郎 | | 内藤　一人（操山） | 高祖　忠直（深　柢）<br>室山　三義（倉　東）<br>宮野辰右衛門 |
| 1962 | 37 | | ⒀ 松　山 | | ⑻ 岡　山 | 裏田　武夫 | | 内藤　一人（操山） | |
| 1963 | 38 | | | ⑶ 松　江 | ⑼ 玉野，井原，真庭 | 鈴木　英二<br>松尾弥太郎 | | 内藤　一人（操山） | 柴部　武士<br>宮野辰右衛門（岡北）<br>井上弥太郎 |
| 1964 | 39 | | ⒁ 成　田 | | ⑽ 御津，浅口，勝山（奈義） | 佐野　友彦 | | 内藤　一人（操山） | 三島　一夫（深　柢）<br>神原　利一（桑　田）<br>川部　済 |
| 1965 | 40 | 2号 | | ⑷ 倉　吉 | ⑾ 児島，新見･阿哲，英田 | 松尾弥太郎 | | 内藤　一人（操山） | |
| 1966 | 41 | 3号 | ⒂ 鹿児島 | | ⑿ 津　山 | 松尾弥太郎 | | 川端　清（大安寺） | 三島　一夫（深　柢）<br>神原　利一（桑　田） |
| 1967 | 42 | 4号 | | ⑸ 津　山 | ⒀ 津　山 | 木村　毅 | | 川端　清（大安寺） | 三島　一夫（深　柢）<br>神原　利一（桑　田） |
| 1968 | 43 | 5号 | ⒃ 名古屋 | | ⒁ 矢　掛 | 野地　潤家 | | 川端　清（大安寺） | 三島　一夫（深　柢）<br>梶原良太郎（岡　北） |
| 1969 | 44 | 6号 | | ⑹ 防　府 | ⒂ 岡　山 | 相島　敏夫 | 20周年 | 板谷　二郎（大安寺） | 林　幸彦（出　石）<br>広江　利夫（操　南） |
| 1970 | 45 | 7号 | ⒄ 山　形 | | ⒃ 成　羽 | | | 板谷　二郎（大安寺） | 林　幸彦（出　石）<br>広江　利夫（操　南） |
| 1971 | 46 | 8号 | | ⑺ 大　竹 | ⒄ 津　山 | 岩田　斉 | | 桐野　事雄（大安寺） | 小林　元（財　田）<br>広江　利夫（操　南） |
| 1972 | 47 | 9号 | ⒅ 兵　庫 | | ⒅ 玉　野 | 芦谷　清 | | 桐野　事雄（大安寺） | 小林　元（旭　東）<br>広江　利夫（丸之内） |
| 1973 | 48 | 10号 | | ⑻ 出　雲 | ⒆ 邑　久 | 石森　延男 | | 桐野　事雄（大安寺） | 小林　元（旭　東）<br>坪井　隆二（石井中） |
| 1974 | 49 | 11号 | ⒆ 東　京 | | ⒇ 北　房 | 谷川　徹三 | | 金谷　達夫（大安寺） | 小林　元（旭　東）<br>坪井　隆二（石井中） |
| 1975 | 50 | 12号 | | ⑼ 鳥　取 | (21) 苫　田 | 滑川　道夫 | | 金谷　達夫（大安寺） | 赤木　庚（妹尾小）<br>坪井　隆二（石井中） |
| 1976 | 51 | 13号 | (20) 岐　阜 | | (22) 倉　敷 | 戸川　幸夫 | | 金谷　達夫（大安寺） | 赤木　庚（妹尾小）<br>松本　猛（京山中） |
| 1977 | 52 | 14号 | | ⑽ 倉　敷 | (23) 倉　敷 | 外山滋比古 | | 金谷　達夫（大安寺） | 赤木　庚（妹尾小）<br>松本　猛（京山中） |

| 県教委担当者 | 事務局長 | 事務局次長 | 小 教 研 | 中教研 | 高教研 | 県司書大会 | 県司書部会長 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 岩本　俊一<br>近藤　節正<br>江口　浩三 | 大原　利貞 | | | | | | |
| | 大原　利貞 | | | | | | |
| 岩本　俊一<br>近藤　節正<br>江口　浩三 | 大原　利貞 | 影山　　剛 | | | | | |
| 岩本　俊一<br>江口　浩三 | 大原　利貞 | 影山　　剛<br>内田　暁郎 | | | | | |
| 竹内亥三美 | 大原　利貞 | 影山　　剛<br>内田　暁郎 | | | | | |
| | 大原　利貞 | | | | | | |
| | 大原　利貞 | | | | | | |
| | 大原　利貞 | | | | | | |
| | 大原　利貞 | | | | | ⑴ 岡山県学校司書会総会 | |
| | 大原　利貞 | | | | | ⑵ 岡山県学校司書会総会 | |
| 竹内亥三美<br>冨山大三郎 | 大原　利貞 | | | | | ⑶ 岡山県学校司書会総会 | |
| 竹内亥三美<br>冨山大三郎 | 大原　利貞 | | | | | ⑷ 岡山県学校司書会総会 | |
| 竹内亥三美<br>冨山大三郎 | 大原　利貞 | | | | | ⑸ 岡山県学校司書会総会 | |
| 竹内亥三美<br>冨山大三郎 | 大原　利貞 | 藤森　賢一 | | | | ⑹ 岡山県学校司書会総会 | |
| | 大原　利貞 | 鳥越　義親 | 三島　一夫 | 神原　利一 | 川端　　清<br>佐藤　　稔 | | |
| | 大熊　圭祐 | 鳥越　義親 | 三島　一夫 | 神原　利一 | 川端　　清<br>佐藤　　稔 | | |
| 蒲田　欣二<br>竹内　虎男 | 清野　有司 | 幾田　　尚 | 三島　一夫 | 神原　利一 | 川端　　清<br>佐藤　　稔 | | |
| 蒲田　欣二<br>平坂　倶通 | 清野　有司 | 幾田　　尚 | 三島　一夫<br>渡辺　武士 | 神原　利一<br>川合　四良 | 川端　　清<br>佐藤　　稔 | | |
| 蒲田　欣二<br>平坂　倶通 | 清野　有司 | 幾田　　尚 | 三島　一夫<br>渡辺　武士 | 梶原良太郎<br>末平　雅夫 | 川端　　清<br>佐藤　　稔 | | |
| 蒲田　欣二<br>平坂　倶通 | 清野　有司 | 幾田　　尚 | 林　　幸彦<br>渡辺　武士 | 広江　利夫<br>相谷　道夫 | 板谷　二郎<br>横田　恭治 | | |
| 蒲田　欣二<br>新海　章吾 | 幾田　　尚 | 木村　祐造 | 林　　幸彦<br>渡辺　武士 | 広江　利夫<br>吉富　　進 | 板谷　二郎<br>横田　恭治 | (1)　岡　山 | 安原　みどり |
| 蒲田　欣二<br>新海　章吾 | 幾田　　尚 | 木村　祐造 | 小林　　元<br>渡辺　武士 | 広江　利夫<br>高尾　弘志 | 桐野　事雄<br>高田　哲夫 | (2)　玉　野 | 安原　みどり |
| 蒲田　欣二<br>新海　章吾 | 幾田　　尚 | 木村　祐造 | 小林　　元<br>渡辺　武士 | 広江　利夫<br>高尾　弘志 | 桐野　事雄<br>田口　重俊 | (3)　倉　敷 | 安原　みどり |
| 山﨑　　蕃<br>新海　章吾 | 木村　祐造 | 堤　　護 | 小林　　元<br>渡辺　武士 | 坪井　隆二<br>黒住　郁雄 | 桐野　事雄<br>田口　重俊 | (4)　津　山 | 安原　みどり |
| 山﨑　　蕃<br>新海　章吾 | 木村　祐造 | 松本　　功 | 小林　　元<br>渡辺　武士 | 坪井　隆二<br>黒住　郁雄 | 金谷　達夫<br>田口　重俊 | (5)　岡　山 | 安原　みどり |
| 山﨑　　蕃<br>新海　章吾 | 木村　祐造 | 松本　　功 | 赤木　　庚<br>渡辺　武士 | 坪井　隆二<br>黒住　郁雄 | 金谷　達夫<br>河村　金二 | (6)　玉　野 | 安原　みどり |
| 須和田秀一<br>山﨑　　蕃 | 木村　祐造 | 松本　　功 | 赤木　　庚<br>山名　徳則 | 松本　　猛<br>相谷　道男 | 金谷　達夫<br>徳永　　優 | (7)　倉　敷 | 片山　峰子 |
| 須和田秀一<br>藤原　康宏 | 木村　祐造 | 松本　　功 | 赤木　　庚<br>山名　徳則 | 松本　　猛<br>末平　雅夫 | 金谷　達夫<br>徳永　　優 | (8)　津　山 | 片山　峰子 |

| 西暦 | 年号 | 研究集録 | 全国大会 | 中国大会 | 県 大 会 | 県大会講師 | 主要行事など | 会　長 | 副　会　長 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1978 | 昭和53 | 15号 | (21) 佐　賀 | | (24) 瀬　戸 | 三木　卓 | 表彰式（感想文） | 村井　董直（芳泉） | 赤木　庚（妹尾小）<br>松本　猛（京山中） |
| 1979 | 54 | 16号 | | (11) 下　関 | (25) 岡　山 | 金田一春彦 | 30周年 | 村井　董直（芳泉） | 新井　正志（牧石小）<br>森安　萌（旭　中） |
| 1980 | 55 | 17号 | (22) 盛　岡 | | (26) 新　見 | 松島　栄一 | | 宮脇　律（芳泉） | 石井　汎（芳泉小）<br>森安　萌（旭　中） |
| 1981 | 56 | 18号 | | (12) 広　島 | (27) 久　米 | 斉藤　実 | | 宮脇　律（芳泉） | 石井　汎（芳泉小）<br>森安　萌（旭　中） |
| 1982 | 57 | 19号 | (23) 伊　勢 | | (28) 和　気 | 灰谷健次郎 | | 宮脇　律（芳泉） | 野上　賢二（竜之口小）<br>森安　萌（旭　中） |
| 1983 | 58 | 20号 | | (13) 浜　田 | (29) 総　社 | 松谷みよ子 | | 宮脇　律（芳泉） | 野上　賢二（竜之口小）<br>森安　萌（福南中） |
| 1984 | 59 | 21号 | (24) 山　口 | | (30) 高　梁 | 高木　敏子 | | 宮脇　律（芳泉） | 渡辺　武士（荘内小）<br>森安　萌（福南中） |
| 1985 | 60 | 22号 | | (14) 高　梁 | (31) 高　梁（兼中国） | 松山　善三 | | 槇野　昭輝（芳泉） | 渡辺　武士（荘内小）<br>黒住　郁雄（足守中） |
| 1986 | 61 | 23号 | (25) 那　覇 | | (32) 真　庭 | 倉本　聰 | | 西田　譲（一宮） | 森川　鐵也（馬屋上小）<br>村田　重臣（石井中） |
| 1987 | 62 | 24号 | | (15) 米　子 | (33) 笠　岡 | 宮城まり子 | | 西田　譲（一宮） | 古川　正治（加茂小）<br>岡島　将（興除中） |
| 1988 | 63 | 25号 | (26) 札　幌 | | (34) 備　前 | 矢口　高雄 | | 杉山　定雄（一宮） | 田代　尚夫（平島小）<br>岡島　将（興除中） |
| 1989 | 平成元 | 26号 | | (16) 宇　部 | (35) 岡　山 | 河合　雅雄 | 40周年 | 幾田　尚（西大寺） | 長安早智子（芳泉小）<br>岡島　将（操南中） |
| 1990 | 2 | 27号 | (27) 松　江 | | (36) 新　見 | 柴田　一 | | 幾田　尚（西大寺） | 森谷　浩平（野谷小）<br>岡島　将（操南中） |
| 1991 | 3 | 28号 | | (17) 広　島 | (37) 勝　田 | 岩崎　京子 | 第11回学校司書全国研究集会（於 岡山） | 坪井　克己（西大寺） | 森谷　浩平（野谷小）<br>岡島　将（操南中） |
| 1992 | 4 | 29号 | (28) 福　岡 | | (38) 倉　敷 | 福田襄之介 | | 皆木　徹典（和気閑谷） | 森谷　浩平（野谷小）<br>大月　要（丸之内中） |
| 1993 | 5 | 30号 | | (18) 益　田 | (39) 御　津 | 宮地　暢夫 | | 皆木　徹典（和気閑谷） | 長崎　幡子（加茂小）<br>平田嬉世子（中山中） |
| 1994 | 6 | 31号 | (29) 秋　田 | | (40) 川　上 | 富永　一朗 | | 中野　宏（倉敷古城池） | 瀬戸川　宏（宇野小）<br>白神　幸世（京山中） |
| 1995 | 7 | 32号 | | (19) 鳥　取 | | | | 中野　宏（倉敷古城池） | 瀬戸川　宏（宇野小）<br>赤木　久児（藤田中） |
| 1996 | 8 | 33号 | (30) 埼　玉 | | (41) 英　田 | あさのあつこ | | 中野　宏（倉敷古城池） | 亀高　嘉彦（深柢小）<br>赤木　久児（藤田中） |
| 1997 | 9 | 34号 | | (20) 岡　山 | (42) 総社，真備（兼中国） | 阿刀田　高 | | 大山　晉右（倉敷古城池） | 亀高　嘉彦（深柢小）<br>赤木　久児（藤田中） |
| 1998 | 10 | 35号 | (31) 金　沢 | | | | | 鴨頭　脩（倉敷青陵） | 菱川　成雄（高島小）<br>香川　璋子（高松中） |
| 1999 | 11 | 36号 | | (21) 岩　国 | (43) 岡　山 | 塩見　昇 | 50周年 | 鴨頭　脩（倉敷青陵） | 菱川　成雄（高島小）<br>香川　璋子（高松中） |
| 2000 | 12 | 37号 | (32) 奈　良 | | (44) 新見・阿哲 | 灰谷健次郎 | | 川井章三郎（倉敷南） | 菱川　成雄（城東台小）<br>香川　璋子（高松中） |
| 2001 | 13 | 38号 | | (22) 広　島 | | | | 山根　健（倉敷南） | 菱川　成雄（城東台小）<br>綿谷　佳男（灘崎中） |
| 2002 | 14 | 39号 | (33) 横　浜 | | (45) 津　山 | 後藤　竜二 | | 大嶋　俊宣（倉敷天城） | 料治　育子（伊島小）<br>綿谷　佳男（灘崎中） |
| 2003 | 15 | 40号 | | (23) 出　雲 | | | | 大嶋　俊宣（倉敷天城） | 料治　育子（伊島小）<br>綿谷　佳男（福南中） |
| 2004 | 16 | 41号 | (34) びわこ・くさつ | | (46) 井原，後月 | 佐々木正美 | | 高槻　健（倉敷古城池） | 坪井由紀子（政田小）<br>綿谷　佳男（福南中） |
| 2005 | 17 | 42号 | | (24) 倉　吉 | | | | 高槻　健（倉敷古城池） | 坪井由紀子（政田小）<br>綿谷　佳男（福南中） |

| 県教委担当者 | 事務局長 | 事務局次長 | 小 教 研 | 中教研 | 高教研 | 県司書大会 | 県司書部会長 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国塩　輝昭 | 山吹　堯敏 | 萩原　一之 | 赤木　　庚<br>山名　徳則 | 森安　　萌<br>相谷　道男 | 村井　董直<br>岡　　博 | (9)　岡　山 | 片山　峰子 |
| 国塩　輝昭 | 山吹　堯敏 | 柴岡　　元 | 新井　正志<br>三宅　敏文 | 森安　　萌<br>相谷　道男 | 村井　董直<br>岡　　博 | (10)　玉　野 | 片山　峰子 |
| 国塩　輝昭 | 山吹　堯敏 | 柴岡　　元 | 石井　　汎<br>福間トキコ | 森安　　萌<br>相谷　道男 | 宮脇　　律<br>岡　　博 | (11)　倉　敷 | 片山　峰子 |
| 国塩　輝昭 | 山吹　堯敏 | 萩原　一之 | 石井　　汎<br>福間トキコ | 森安　　萌<br>相谷　道男 | 宮脇　　律<br>大熊　圭祐 | (12)　津　山 | 片山　峰子 |
| 国塩　輝昭 | 萩原　一之 | 臼井　省三 | 野上　賢二<br>横山　定子 | 森安　　萌<br>瀬戸川　宏 | 宮脇　　律<br>大熊　圭祐 | (13)　岡　山 | 守屋千冬子 |
| 国塩　輝昭 | 萩原　一之 | 臼井　省三 | 野上　賢二<br>横山　定子 | 森安　　萌<br>瀬戸川　宏 | 宮脇　　律<br>大熊　圭祐 | (14)　玉　野 | 守屋千冬子 |
| 国塩　輝昭 | 萩原　一之 | 臼井　省三 | 渡辺　武士<br>福間トキコ | 森安　　萌<br>瀬戸川　宏 | 宮脇　　律<br>山吹　堯敏 | (15)　倉　敷 | 守屋千冬子 |
| 国塩　輝昭 | 萩原　一之 | 山吹　堯敏 | 渡辺　武士<br>福間トキコ | 黒住　郁雄<br>瀬戸川　宏 | 槇野　昭輝<br>山吹　堯敏 | (16)　津　山 | 守屋千冬子 |
| 岸田　　崇 | 萩原　一之 | 佐伯　誠一 | 森川　鐵也<br>福間トキコ | 村田　重臣<br>白河左江子 | 西田　　譲<br>服部　亮介 | (17)　岡　山 | 安達　正恵 |
| 岸田　　崇 | 松本　正志 | 藤本　善三 | 古川　正治<br>岡本　敏枝 | 岡島　　将<br>白河左江子 | 西田　　譲<br>服部　亮介 | (18)　玉　野 | 安達　正恵 |
| 岸田　　崇 | 松本　正志 | 竹井　千庫 | 田代　尚夫<br>岡本　敏枝 | 岡島　　将<br>白河左江子 | 杉山　定雄<br>服部　亮介 | (19)　倉　敷 | 青江　暉子 |
| 広本　勝裕 | 門野　茂蔵 | 田中　修二 | 長安早智子<br>藤田　真実 | 岡島　　将<br>白河左江子 | 幾田　　尚<br>川原　　昇 | (20)　津　山 | 青江　暉子 |
| 広本　勝裕 | 波多野研爾 | 田中　修二 | 森谷　浩平<br>藤田　真実 | 岡島　　将<br>白河左江子 | 幾田　　尚<br>川原　　昇 | (21)　岡　山 | 青江　暉子 |
| 広本　勝裕 | 田中　修二 | 石井　寛子 | 森谷　浩平<br>松浦　順子 | 岡島　　将<br>坪井　敬也 | 坪井　克己<br>八木　和一 | (22)　玉　野 | 青江　暉子 |
| 広本　勝裕 | 小山　輝基 | 阪田　俊介 | 森谷　浩平<br>岡崎　明宏 | 大月　　要<br>坪井　敬也 | 皆木　徹典<br>若狭　真司 | (23)　倉　敷 | 青江　暉子 |
| 広本　勝裕 | 小山　輝基 | 後藤　信介 | 長崎　幡子<br>島田　保弘 | 平田嬉世子<br>岡田　敏雄 | 皆木　徹典<br>若狭　真司 | (24)　津　山 | 青江　暉子 |
| 広本　勝裕 | 国富　浩二 | 畝岡　睦美 | 瀬戸川　宏<br>石川真佐代 | 白神　幸昌<br>岡田　敏雄<br>門田　正充 | 中野　　宏<br>佐守　謙一 | (25)　岡　山 | 守屋千冬子 |
| 広本　勝裕 | 田辺　宏海 | 国富　浩二 | 瀬戸川　宏<br>石川真佐代 | 赤木　久児<br>門田　正充 | 中野　　宏<br>佐守　謙一 | (26)　玉　野 | 守屋千冬子 |
| 藤井　洋一 | 田辺　宏海 | 福尾浩一郎 | 亀高　嘉彦<br>石川真佐代 | 赤木　久児<br>門田　正充<br>利守　雅行 | 中野　　宏<br>佐守　謙一 | (27)　倉　敷 | 佐藤　菊江 |
| 藤井　洋一 | 田辺　宏海 | 福尾浩一郎 | 亀高　嘉彦<br>石川真佐代 | 赤木　久児<br>門田　正充<br>利守　雅行 | 大山　晉右<br>佐守　謙一 | (28)　津　山 | 佐藤　菊江 |
| 桑木　一郎 | 小山　秀樹 | 三棹　章弘 | 菱川　成雄<br>宮田あけみ | 香川　璋子<br>原　　清行 | 鴨頭　　脩<br>森本　　篤 | (29)　岡　山 | 小野　暁子 |
| 桑木　一郎 | 小山　秀樹 | 三棹　章弘 | 菱川　成雄<br>宮田あけみ | 香川　璋子<br>原　　清行 | 鴨頭　　脩<br>森本　　篤 | (30)　玉　野 | 小野　暁子 |
| 桑木　一郎 | 石井　美鶴 | 樋口　貴子 | 菱川　成雄<br>宮田あけみ | 香川　璋子<br>利守　雅行<br>原　　清行 | 川井　章三郎<br>尾崎　寛子 | (31)　倉　敷 | 小野　暁子<br>鹿野　恵子 |
| 大滝　一登 | 石井　美鶴 | 樋口　貴子 | 菱川　成雄<br>宮田あけみ | 綿谷　佳男<br>利守　雅行<br>原　　清行 | 山根　　健<br>細川　直子 | (32)　津　山 | 鹿野　恵子 |
| 大滝　一登 | 有松　幹雄 | 行藤　　潔 | 料治　育子<br>原野かおり | 綿谷　佳男<br>利守　雅行<br>海野　行晴 | 大嶋　俊宣<br>三宅　博己 | (33)　岡　山 | 鹿野　恵子<br>岡本信二郎 |
| 大滝　一登 | 三宅　博己 | 深見　啓行 | 料治　育子<br>髙橋かおり | 綿谷　佳男<br>海野　行晴<br>利守　雅行 | 大嶋　俊宣<br>深見　啓行 | (34)　玉　野 | 岡本信二郎 |
| 大滝　一登 | 山内　邦世 | (な　し) | 坪井由紀子<br>大亀　光子 | 綿谷　佳男<br>利守　雅行<br>有友　雅人 | 高槻　　健<br>有本登貴子 | (35)　倉　敷 | 岡本信二郎<br>宇原　郁世 |
| 大滝　一登 | 山内　邦世 | (な　し) | 坪井由紀子<br>大亀　光子 | 綿谷　佳男<br>利守　雅行<br>有友　雅人 | 高槻　　健<br>有本登貴子 | 研修会（倉敷） | 宇原　郁世 |

| 西暦 | 年号 | 研究集録 | 全国大会 | 中国大会 | 県 大 会 | 県大会講師 | 主要行事など | 会　長 | 副　会　長 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2006 | 18 | 43号 | (35) 郡　山 | | | | | 山下　滋<br>(倉敷青陵) | 岡本　利和 (御南中)<br>竹内　裕子 (可知小) |
| 2007 | 19 | 44号 | | (25) 岡　山 | (47) 岡　山 | 高畑　勲 | | 永井　裕<br>(倉敷青陵) | 河本　雅明 (建部中)<br>竹内　裕子 (可知小) |
| 2008 | 20 | 45号 | (36) 熊　本 | | | | | 髙木二三男<br>(倉敷南) | 木多　敏江 (御津中)<br>東馬　英子 (中山小) |
| 2009 | 21 | 46号 | | (26) 下　関 | (48) 鏡　野 | 今江　祥智 | | 赤木　圭介<br>(倉敷南) | 木多　敏江 (御津中)<br>東馬　英子 (中山小) |
| 2010 | 22 | 47号 | (37) 静　岡 | | | | | 坂江　誠<br>(倉敷天城) | 山本　健五 (御津中)<br>岸　律子 (御南小) |
| 2011 | 23 | 48号 | | (27) 広　島 | (49) 矢　掛 | 赤木かん子 | | 岡野　貴司<br>(倉敷天城) | 山本　健五 (御津中)<br>岸　律子 (御南小) |
| 2012 | 24 | 49号 | (38) 米　子 | | | | | 中桐　哲則<br>(玉島) | 山本　健五 (御津中)<br>服部由利子 (古都小) |
| 2013 | 25 | 50号 | | (28) 浜　田 | (50)吉備中央 | 田澤　雄作 | | 國府島貞司<br>(玉島) | 大川　泰栄 (上道中)<br>服部由利子 (東疇小) |
| 2014 | 26 | 51号 | (39) 甲　府 | | | | | 藤井　健平<br>(総社) | 大塚　仁 (甲浦小)<br>藤井　隆 (上道中) |
| 2015 | 27 | 52号 | | (29) 倉　敷 | (51) 倉　敷 | 小嶋　光信 | | 藤井　健平<br>(総社) | 大塚　仁 (甲浦小)<br>藤井　隆 (上道中) |
| 2016 | 28 | 53号 | (40) 神　戸 | | | | | 福田　邦男<br>(倉敷占城他) | 高田　恵子<br>(馬屋下小)<br>門田　正充 (岡輝中) |
| 2017 | 29 | 54号 | | (30) 米　子 | (52) 津　山 | 平田オリザ | | 福田　邦男<br>(倉敷占城他) | 高田　恵子<br>(馬屋下小)<br>門田　正充 (岡輝中) |
| 2018 | 30 | 55号 | (41)富山高岡 | | | | | 土家　槇夫<br>(倉敷青陵) | 山本　義人 (千種小)<br>藤井　隆 (高松中) |
| 2019 | 1 | 56号 | | (31) 山　口 | (53) 岡　山 | 村中李衣 | | 髙槻　信博<br>(倉敷青陵) | 山本　義人 (千種小)<br>水畑　法生 (岡北中) |
| 2020 | 2 | 57号 | (42) 高　松<br>誌上開催 | | | | | 鳥越　信行<br>(倉敷南) | 森　淳 (岡南小)<br>青木　伸晃 (操南中) |
| 2021 | 32 | 58号 | | (32) 広　島 | (54) 真　庭<br>誌面開催 | 湯澤美紀 | | 鳥越　信行<br>(倉敷南) | 森　淳 (岡南小)<br>青木　伸晃 (操南中) |

| 県教委担当者 | 事務局長 | 事務局次長 | 小 教 研 | 中 教 研 | 高 教 研 | 県司書大会 | 県司書部会長 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大滝 一登<br>高尾 敏也 | 石本 正樹 | (なし) | 竹内 裕子<br>有松 裕子 | 岡本 利和<br>利守 雅行<br>有友 雅人 | 山下 滋<br>井上 裕子 | (36) 岡 山 | 景山 美香<br>坂口 桂蔵 |
| 高尾 敏也 | 石本 正樹 | (なし) | 竹内 裕子<br>有松 裕子 | 河本 雅明<br>利守 雅行<br>有友 雅人 | 永井 裕<br>井上 裕子 | 研修会（津山） | 坂口 桂蔵 |
| 高尾 敏也<br>武田 祥江 | 志部 雄介 | (なし) | 東馬 英子<br>丸橋 弘子 | 木多 敏江<br>有友 雅人<br>利守 雅行 | 髙木 二三男<br>藤田 京子 | (37) 倉 敷 | 坂口 桂蔵<br>池田 桂子 |
| 武田 祥江<br>田中 善美 | 永山 整 | (なし) | 東馬 英子<br>丸橋 弘子 | 木多 敏江<br>有友 雅人<br>利守 雅行 | 赤木 圭介<br>藤田 京子 | 研修会（玉野） | 池田 桂子 |
| 武田 祥江<br>田中 善美 | 佐藤 敦子 | (なし) | 岸 律子<br>安藤 弘子 | 山本 健五<br>宗實恵利子<br>利守 雅行 | 坂江 誠<br>小野 恭子 | (38) 岡 山 | 池田 桂子<br>二部陽子 |
| 乙倉 寛<br>藤本真砂子 | 佐藤 敦子 | (なし) | 岸 律子<br>安藤 弘子 | 山本 健五<br>宗實恵利子<br>利守 雅行 | 岡野 貴司<br>小野 恭子 | 研修会（岡山） | 二部陽子 |
| 乙倉 寛<br>石本康一郎 | 佐藤 俊英 | (なし) | 服部由利子<br>二宮 典子 | 山本 健五<br>宗實恵利子<br>利守 雅行 | 中桐 哲則<br>尾﨑 寛子 | (39) 倉 敷 | 二部陽子<br>米倉 弥生 |
| 乙倉 寛<br>藤本真砂子 | 佐藤 俊英 | (なし) | 服部由利子<br>二宮 典子 | 大川 泰栄<br>宗實恵利子<br>利守 雅行 | 國府島 貞司<br>尾﨑 寛子 | 研修会（津山） | 米倉 弥生 |
| 辻田 詔子<br>須藤由美江 | 大野 里江子 | (なし) | 大塚 仁<br>中村さつき<br>小川 薫 | 藤井 隆<br>岡田恵利子<br>利守 雅行 | 藤井 健平<br>柳井 典子 | (40) 岡 山 | 米倉 弥生<br>原 弘江 |
| 森川 悟<br>新田 治彦 | 大野 里江子 | (なし) | 大塚 仁<br>中村さつき<br>小川 薫 | 藤井 隆<br>永守 志帆<br>金田 益美 | 藤井 健平<br>柳井 典子 | 研修会（玉野） | 原 弘江 |
| 岡本 里香<br>三宅 健夫 | 末吉 美加子 | (なし) | 高田 恵子<br>山根 和佳子<br>勝浦 由子 | 門田 正充<br>永守 志帆<br>金田 益美 | 福田 邦男<br>児島 真理子 | (41) 倉 敷 | 原 弘江<br>西村 百代 |
| 岡本 里香<br>江尻 寛正 | 末吉 美加子 | (なし) | 高田 恵子<br>山根 和佳子<br>勝浦 由子 | 門田 正充<br>仁科 恵子<br>佐伯 詩帆 | 福田 邦男<br>太田 淳 | 研修会（倉敷） | 西村 百代 |
| 岡本 里香<br>江尻 寛正 | 王尾 宏造 | (なし) | 山本 義人<br>太田 淑子<br>酒本 薫 | 藤井 隆<br>仁科 恵子<br>佐伯 詩帆 | 土家 槇夫<br>大口 千恵子 | (42) 岡 山 | 西村 百代<br>成本 由貴 |
| 丹原 知哉<br>江尻 寛正 | 王尾 宏造 | (なし) | 山本 義人<br>太田 淑子<br>酒本 薫 | 水畑 法生<br>笹野 恭代<br>海野 行晴 | 髙槻 信博<br>大口 千恵子 | 研修会（岡山） | 成本 由貴 |
| 丹原 知哉<br>江尻 寛正 | 平松 玲子 | (なし) | 森 淳<br>早川 夕加里<br>武田 綾子 | 青木 伸晃<br>笹野 恭代<br>海野 行晴 | 鳥越 信行<br>髙橋 綾美 | ~~(43) 倉 敷~~ | 成本 由貴<br>大橋 昭子 |
| 大塚 崇史<br>後藤 直之 | 平松 玲子 | (なし) | 森 淳<br>早川 夕加里<br>武田 綾子 | 青木 伸晃<br>池田 麻子<br>湯浅 憲一 | 鳥越 信行<br>髙橋 綾美 | ~~研修会（津山）~~ | 大橋 昭子 |

**岡山県学校図書館研究集録（第 58 号）**

発　行　日　　2022 年 3 月 31 日

発　行　所　　岡山県学校図書館協議会事務局
〒710-0842
岡山県倉敷市吉岡 330
　岡山県立倉敷南高等学校内
TEL　(086)423 –0600

発行責任者　　岡山県学校図書館協議会会長
　鳥越　信行